

島田三郎年譜・著作目録

松田 義男 編

改訂 2022年6月29日

2005年11月6日

目次

I 年譜

II 著作目録

1. 著書・訳書
2. 共著（序文等を含む）
3. 評論（新聞・雑誌掲載）
4. 帝国議会衆議院本会議演説

凡例

- ・年譜については、明治5年12月3日を明治6年1月1日とする太陽暦採用以前については太陰暦により記した。
- ・著作全体を、「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 評論」に分類し、それぞれ年次順に配列した。最後に、「4. 帝国議会演説」一覧を付した。
- ・島田三郎全集編集委員会編『島田三郎全集』全7巻(龍溪書舎、1989年)収録著作については、収録巻数を丸数字(①～⑦)で示した。
- ・新聞・雑誌掲載著作は、表題、掲載紙誌、掲載巻号数、掲載月日の順に記した。ただし、日刊新聞の号数は省略した。
- ・新聞・雑誌における特集・アンケート表題などは[]に示した。特集・アンケートへの寄稿で無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とし、[]内に「」で示した。
- ・連載で、初回とその後で表題が異なる場合、原則として初回の表題を採用し、初回掲載に一括して記した。
- ・雑誌掲載評論で、目次と本文で表題が異なる場合、原則として本文の表題を採用した。
- ・掲載は明らかだが、掲載紙誌原本(復刻含む)を確認できないものについては、表題冒頭に*を付した。
- ・その他、適宜、注記事項を[]に示した。

本目録の作成に際しては、『島田三郎全集』全7巻(龍溪書舎、1989年)、高橋昌三『島田三郎伝』(まほろば書房、昭和63年)を参照したほか、国立国会図書館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所、東京大学総合図書館・同大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)、明治大学中央図書館、神戸大学附属図書館、大阪市立大学附属図書館、筑波大学附属図書館、神戸大学附属図書館、県立長野図書館、日本近代文学館、三康文化研究所附属図書館、成田山仏教図書館、国立教育研究所、富山県立図書館、金光図書館所蔵の資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

付記1 1886（明治19）年の『毎日新聞』から採録した5篇の無署名文

1886年の『毎日新聞』から採録した5篇の無署名文は、『開国始末』執筆の経緯に関連するものである。島田三郎「『開国始末』に対する疑問」によると、「世間の歴史家又は論者が彦根侯を論ずるの意見には同意を仕兼ねたが為に」、1886年3月、井伊直弼27回忌に際し、その身事を論じた文を『毎日新聞』に掲げ、これが機縁となって彦根出身の旧友豊原基臣から井伊直弼の事跡に関わる史料が貸与され、『開国始末』執筆が構想された。さらに、「嘉永安政以降の種々の事を書いたものを見るに、何分事実を得て居らぬと思ひ、又国家多難の時に、議論の異なるが為に其志を知られず、或は奇禍に罹り、或は冤柱に斃れたる人々の事実の多くは伝はらざりしを惜しんで」、佐久間象山の逸事を門人北沢正誠に問い評論を加へて新聞紙上に掲げたという（『全集』第3巻3～4頁）。前者は「井伊元老の年忌」（『毎日新聞』（1886年3月30、31日、4月1～4、6～11日）、後者は「佐久間象山先生逸事」（『毎日新聞』（1886年5月1～3、6、7、9、15、19、20、23、27、29日、6月3、5、9、12、20、26、29日、7月4日）である。これら評論と一連のものとして、「井伊元老の逸事拾遺」（『毎日新聞』1886年4月15、16日）、「高野長英君獄中の書簡」（『毎日新聞』1886年5月25日）、「井伊元老逸事余録」（『毎日新聞』1886年5月28日）がある。

付記2 『毎日新聞』および『東京毎日新聞』無署名社説について

毎日新聞社社主であった時期の『毎日新聞』および『東京毎日新聞』の無署名社説の多くは、島田三郎の執筆であるが、膨大な個々の社説について逐一島田執筆を論証することは困難であり、島田三郎執筆として既に認知されているものを除き、本目録では採録を見送った。

付記3

高橋昌郎『島田三郎伝』（まほろば書房、昭和63年）所収「著作目録」に記載されている以下は、確認できない。

成立規則第八条の疑義[S・S生署名]『毎日新聞』1894年11月27日

大阪毎日曾根崎遊郭の廃止『東京毎日新聞』1909年8月22日

曾根崎遊郭の廃止『大阪毎日新聞』1909年8月23日

〔島田氏時局談〕『横浜貿易新報』1915年8月16日

台湾青年の奮起を望む『雄弁』12-1、1921年1月1日

I 島田三郎年譜

1852(嘉永 5)年

旧暦 11 月 7 日、御家人鈴木知英の三男として江戸に生まれる(幼名、鐘三郎)。

1864(元治元)年

昌平黌甲科に選抜され生徒となる。吉野金陵の漢学塾に学ぶ。

1868(明治元)年

徳川家の静岡移住(旧暦 8 月)と同時に、沼津に単身で移住し、沼津兵学校附属小学校[旧暦 1868 年 12 月 8 日に創立]に学ぶ。

1869(明治 2)年

旧暦 9 月、沼津兵学校に入学(第 4 期資業生)。

1871(明治 4)年

旧暦 7 月、沼津兵学校を退学し、上京。江藤新平宅に寄寓し、大学南校応用化学科に学ぶ。

1872(明治 5)年

大学南校応用化学科を退学し、大蔵省附属英学校(旧暦 9 月設立。責任者尺振八)に学ぶ。

1873(明治 6)年

大蔵省附属英学校を退学し、横浜に居住。

夏頃、『横浜毎日新聞』(旧暦明治 3 年 12 月創刊)で翻訳に従事。

1874(明治 7)年

この年(?)、横浜のブラウン塾に通い英語を学ぶ。『横浜毎日新聞』の社員総代島田豊寛の養子となる。11 月 2 日(～14 日)、『横浜毎日新聞』の編輯者妻木頼矩出京留守中につき「代理編輯者」に就任、16 日、『横浜毎日新聞』編輯者に就任(～1875 年 7 月 21 日)。

1875 (明治 8)年

7 月 23 日、元老院大書記正に任ぜられる。

12 月 10 日、調査課翻訳掛。

1876 (明治 9)年

8 月 7 日、北海道巡行に随行(～10 月 1 日、帰京)

10 月 11 日、国憲取調委員局掛兼務。

11 月 15 日、雇外国人ボアソナード掛。

1877 (明治 10)年

7 月 26 日、福島県岩代須賀町にて「物の盛大不朽を欲せば我をして彼に信用せしむるに在るの説」と題して演説[『東京曙新聞』7 月 31 日]。

9 月 15 日、第二課翻訳掛兼雇外人ボアソナード掛・国憲取調委員局掛兼務。

10月16日、第一課翻訳掛兼第二課翻訳掛。

1879(明治12)年

5月2日、元老院副議長有栖川宮熾仁主催の牡丹鑑賞の宴に招かれ演説[『郵便報知新聞』5月5日。19日付同紙投書欄に演説大意掲載]

7月1日、少書記官。

11月18日、『東京横浜毎日新聞』発刊。

1880(明治13)年

3月24日、文部少書記官に任ぜられる。25日、内記所長。

6月3日、権大書記官。7日から、長野、名古屋、岐阜、三重、奈良、京都、大阪、神戸、滋賀方面の教育事情を視察。

7月26日、帰京。

10月1日、調査課長兼務。

12月1日、編集局長。

1881(明治14)年

3月25日、神奈川県会議員に当選。

4月6日から、栃木・茨城・千葉の教育事情視察(～5月2日帰京)。8日、栃木師範学校において「教育者の責任極めて重大なり」と題して演説。16日、茨城師範学校において演説。17日、太田の教育連合会で演説。22日、境小学校で「干渉教育の緊要なる説」と題して演説。

5月1日、松戸小学校において「教育上の沿革 教育改正令の趣旨及び方今の急務従来弊害」と題して演説。

10月29日、諭旨免官。31日、『東京横浜毎日新聞』入社。

11月6日、横浜頭猶社政談演説会(於横浜羽衣町佐の松座)に招かれ、「自由ノ制度ハ過激ノ勢焰ヲ制スルノ第一策タルヲ論ス」と題して演説。

12月4日、栃木県下を遊説のため東京発。20日、帰京[「遊毛紀行」]、『東京横浜毎日新聞』12月23～25、28日、1882年1月6、12、14日]。

1882(明治15)年

1月17日、『嚶鳴雑誌』第37号より「校閲」を担当。

2月5日、浅草井生楼で「外交論」と題して演説。

3月16日、神奈川県会議長就任。

4月16日、立憲改進黨の創立に参加。

5月14日、立憲改進黨演説会(於明治会堂)に登壇、「王室の尊栄を保ち人民の幸福を全ふすべし」と題して演説。

6月18日、『嚶鳴雑誌』第47号より「主幹」就任。

10月、東京専門学校議員(評議員)に列す。

1884(明治17)年

6月22日、東京専門学校「同攻会」発会式で演説。

7月18日、横浜相生町の町会議員に選出。

12月21日、改進黨臨時会に出席、事務委員に選出。

1885(明治18)年

2月15日、改進黨大会に出席、事務委員に選出。

5月、東京専門学校中央学術演説会において「万法唯心」と題して講演。

6月18日、東京専門学校「臨時議員会」に出席。

12月13日、東京専門学校「校友会」発会式で演説。

1886(明治19)年

1月3日、植村正久より受洗。30日、基督教大演説会(於浅草井生村楼)で「欧西の文明は基督教の力に依る多きを論ず」と題して演説。

1887(明治20)年

2月8日、東京婦人矯風会主催演説会に登壇、「開化に際する婦人の心得」について演説。

5月、『開国始末』執筆着手

12月、『開国始末』脱稿。

1888(明治21)年

3月、毎日新聞社退社。14日、横浜を出帆。31日、サンフランシスコ着。

5月16日、ニューヨーク発、フィラデルフィア着。26日、ワシントン着。

6月26日、ニューヨーク発。

7月7日、ロンドン着。

1889(明治22)年

3月中旬、ロンドン発、ドイツ・フランスを旅行。

5月9日、ロンドンに帰る。

7月、イギリスからフランスに向かう。14日、マルセーユを出帆。

8月22日、神戸着。24日、横浜着。

9月6日、帰国祝宴会(於芝公園三緑亭)に招かれ演説。26日、全国大懇親会於新富座に出席し演説。27日、東京専門学校校友による帰朝祝賀会に出席。

11月26日、前橋市愛宕座で「公娼の害を論ず」と題して演説。29日、横浜基督信徒青年会主催の討論演説会に出席。

12月9日、廢娼演説会(於木挽町厚生館)で「公娼の害」と題して演説。

1890(明治23)年

1月19日、浅草井生村楼で「明治人民の責任」と題して演説。

3月8日、矯風会演説会発起の廢娼演説会(於木挽町厚生館)に登壇。

5月、『毎日新聞』社長就任。

6月14日、番町教会堂にて「独仏盛衰の原因」と題して演説。貧民救助青年慈善会にて慈善事業の必要を説く。

7月1日、神奈川県第一区(横浜市)から第1回総選挙に当選(衆議院議員)。

12月、衆議院全院委員長に就任。

1891(明治24)年

2月11日、東京音楽学校紀元節祝賀会において演説。

5月24日、東京専門学校「同攻会」創立七周年記念会(東京専門学校講堂)で「欧亜に於ける露西亜の事情」と題して講演。

6月21日、横須賀の政談演説会に登壇。22日、島田の政談演説会に登壇。23日、浜松の政談演説会に登壇。28日、姫路の政談演説会に登壇。

7月15日～23日、信越地方遊説。

9月27日、宮城・岩手・青森の有志者の要請で、大津淳一郎とともに東北遊説の途につく。同日、仙台着。28日、岩手県郡山町勝源寺で政談演説。30日、青森県小湊の懇親会に出席。

10月1日、青森港着。2日、青森港で政談演説。4日、八戸で政談演説。5日、岩手県花巻着。6日、花巻にて政談演説。7日、前沢にて政談演説。8日、中里町にて政談演説。9日、長坂町にて政談演説。

10日、千厩町で政談演説および学術演説。11日、宮城県佐沼町佐沼座で政談演説。12日、桃生郡広瀬で政談演説。13日、石巻で懇親会に出席。14日、仙台着。15日、仙台座で政談演説。16日、福島町にて政談演説。17日、桑折町にて政談演説。18日、棚倉町にて政談演説。20日、帰京。
12月13日、「東京専門学校大演説討論会」(討論議題：鉄道は国有、私有孰れが国家に利ありや)に出席。

1892(明治25)年

2月15日、第2回臨時総選挙に当選。
4月17日、井伊直弼33回忌追悼会で演説。
5月24日、西村信子と結婚。25日、尾崎行雄らと条約改正の決行を求める上奏案を提出(審議未了)。
10月20日、「東京専門学校創立十周年記念式典」に出席し講演。
11月21日、「民党政治の方針」と題して厚生館で演説。

1893(明治26)年

1月6日、東京商工相談会員有志会で「輸出税全廃を賛成する理由」と題して演説。18日、立憲改進黨臨時大懇親会(於浅草鷗遊館)に出席、院外党员総代の謝辞に対して答詞を述べる[「立憲改進黨大懇親の景況」『毎日新聞』1月21日]。20日、立憲改進黨政談大演説会(於神田錦輝館)で「立憲的運動」と題して演説。
3月19日、立憲改進黨政談大演説会(於神田錦輝館)で「過去の事蹟未来の希望」と題して演説
4月15～30日、信州・甲州地方遊説。
9月21日、長男孝一誕生。
11月5日、立憲改進黨政談大演説会で「改革家の本領」と題して演説。
12月11日、遭難、負傷する。

1894(明治27)年

3月1日、第3回臨時総選挙に当選。
夏、『毎日新聞』社長兼主筆に就任。
9月1日、第4回臨時総選挙に当選。
12月17日、改進黨演説会(於錦輝館)で「東洋の大計」と題して演説(「改進黨の演説会」『毎日新聞』12月19日)

1896(明治29)年

2月、次男悌次郎誕生。
3月1日、進歩党に参加。
4月18日、神奈川県下の菓子商の菓子税廃止祝賀会に出席。
5月11日、阿片問題演説会(於神田青年会館)で演説。

1897(明治30)年

2月28日、足尾銅山鉍毒問題演説会(於神田青年会館)に登壇[「足尾銅山鉍毒問題演説会」『毎日新聞』3月2日]。
3月10日、出獄者保護演説会に登壇(横浜)。
7月4日、労働組合期成会の評議員就任。
9月11日、東京専門学校で「幕末の外交」と題して科外講義。

1898(明治31)年

3月15日、第5回臨時総選挙に当選。
6月22日、憲政党に参加。
7月9日、横浜伊勢佐木町の葛座で報告演説会を開く。28日(～8月30日)、『毎日新聞』に田口卯吉と連名で「全国小作人諸君に檄す」の社告を掲載。

- 8月10日、第6回臨時総選挙に当選。
- 10月24日、横浜経済会二十八回例会に出席(於横浜太田町・日盛楼)。
- 11月3日、憲政本党に参加。
- 12月4日、憲政本党を脱党。東京専門学校「第六期早稲田議会」に出席(総理大臣)。

1899(明治32)年

- 1月7日、横浜市有志者新年会で演説(於横浜会館)。
- 2月11日、東京専門学校「第七期早稲田議会」に出席(海軍大臣)。
- 5月、活版工組合懇話会の会頭に就任。
- 7月9日 活版工懇話会主催の労働問題演説会(於神田青年会館)で、桑田熊蔵、高野房太郎、片山潜、金井延とともに登壇、「工業家の責任」と題して演説。
- 11月12日、活版工組合の会長に就任。
- 12月10日、東京専門学校「第八期早稲田議会」に出席(総理大臣)。12日、惟一館日曜演説において「宗教的信念の告白」と題して演説、即日、日本ユニテリアン協会に入会。

1900(明治33)年

- 1月4日、植村正久の一番町教会から除名。21日、大宮労働俱樂部が主催する公娼反対演説会(埼玉県大宮町労働俱樂部事務所)に登壇。
- 2月11日、非公娼演説会に登壇(於埼玉県入間郡川越町入間郡公会所)。14日、第14回帝国議会において田口卯吉と共同提出した「地方自治に関する質問主意書」の説明演説。24日、東京婦人矯風会主催「ウィロード嬢追悼会附娼演説会」に登壇。
- 4月11日、娼女同盟会を組織。
- 6月30日、娼女同盟会主催の娼女演説会(於神田青年会館)に登壇。
- 7月21日、谷干城・巖本善春・安部磯雄・三宅雄二郎らと「鉍毒被害調査有志会」を結成(於神田青年会館)『六合雑誌』237(9月号)、『毎日新聞』7月24日]。
- 9月23日、矯風会演説会(於銀座会館)に登壇。
- 10月1、2日、日本娼女会主催の娼女演説会(於神田青年会館)に登壇。14日、婦人教育講演会で講演(於横浜会館)。
- 11月4日、独立青年演説会(於帝国教育会楼上)に登壇。

1901(明治34)年

- 1月16日、毎日新聞第1回演説会(於神田青年会館)で「公德論」と題して演説。
- 2月16日、毎日新聞第2回演説会(於神田青年会館)で「国政と市政」と題して演説。
- 3月14日、第15回帝国議会において、足尾鉍毒問題に関する政府の責任を追求。15日、青年革進協会公開大演説会(於本郷中央会堂)に登壇予定。16日、毎日新聞第3回演説会(於神田青年会館)で「軍政の整理と軍人の待遇」と題して演説。21日、日本娼女会主催の娼女演説会(於神田青年会館)に登壇予定。
- 4月13日、毎日新聞第4回演説会(於神田青年会館)で「東洋経営の方針」と題して演説。
- 5月11日、毎日新聞第5回演説会(於神田青年会館)で「米国の実業的侵略」と題して演説。
- 6月15日、毎日新聞第6回演説会(於神田青年会館)で「国民の資格」と題して演説。
- 7月16日、毎日新聞第7回演説会(於神田青年会館)で「社会主義を評す」と題して演説。
- 9月14日、毎日新聞第8回演説会(於神田青年会館)で「モルモン教を評す」と題して演説。
- 10月17日、毎日新聞第9回演説会(於神田青年会館)で「武士道の精神」と題して演説。
- 11月1日、鉍毒有志調査会主催の鉍毒問題演説会(於神田青年会館)に登壇。3日、日本娼女会主催の娼女演説会(於神田青年会館)に登壇。9日、毎日新聞第10回演説会(於神田青年会館)で「孔子教と支那の文明」と題して演説。29日、婦人矯風会発起の足尾鉍毒窮民救助演説会(於神田青年会館)に登壇。
- 12月6日、日本橋教会青年会主催の鉍毒被害民救済演説会(於日本橋教会堂)に登壇。11日、鉍毒救済婦人会発起の足尾鉍毒地救助演説会(於教寄屋橋教会堂)に登壇。17日、鉍毒救助婦人会発起の足尾鉍毒地救助演説会(於芝教会堂)に登壇。20日、鉍毒救助婦人会発起の足尾鉍毒地救助演説会(於本郷中央会堂)に登壇。24日、鉍毒救助婦人会発起の足尾鉍毒地救助演説会(於惟一館)に登壇。

1902(明治 35)年

- 1月9日、鉈毒問題演説会(於神田青年会館)に登壇。19日、横浜の鉈毒地救済演説会で田中正造らと共に演説(於横浜会館)。25日、鉈毒救助婦人会発起の足尾鉈毒地救済演説会(於飯田町ユニヴァーサリスト教会堂)に登壇予定。30日、正教青年会発起の鉈毒被害民救済演説会(於神田青年会館)に登壇。
- 2月2日、早稲田鉈毒研究会発起の鉈毒問題演説会(於神田青年会館)に登壇。24日、鉈毒演説会(於神田青年会館)に登壇。
- 3月1日、鉈毒救済演説会(於浅草井生村楼)に登壇予定。20日、鉈毒地救済大会(於横須賀大滝町春若座)で演説。
- 4月2日、鉈毒問題解決既成同志会の鉈毒問題解決演説会(於神田青年会館)に登壇。6日、鉈毒被害民救助演説会(於築地福音教会堂)に登壇予定。27日、惟一館日曜演説において「支那開発と孔子教」と題して演説予定。
- 5月3日、青年革進協会大会に出席、同主催による演説会で「所謂武士道を評す」と題して演説[「青年革進協会大会」『毎日新聞』5月5日]。
- 6月6日、本郷教会で「我信ずる基督」と題して演説。
- 8月10日、第7回総選挙に当選。
- 10月5日、武士道演説会(於帝国教育会)に登壇予定。
- 12月27日、青年修養会発起の学生鉈毒地大挙視察記念大演説会(於神田錦輝館)に登壇。

1903(明治 36)年

- 1月17日、仏教清徒同志会発起のペスト問題大演説会(於神田錦輝館)に登壇。
- 2月13日、横浜の衆議院議員立候補政見発表演説会で「横浜市民諸君に告ぐ」と題して演説(於喜楽座)。16日、元街の万竹亭で演説。
- 3月1日、第8回総選挙に当選。
- 4月4日、大阪矯風会主催廃娼演説会に登壇(於土佐堀青年会館)。12日、惟一館日曜演説において「時勢観」と題して演説予定。
- 5月1日、青年革進協会公開演説会(於本郷中央会堂)に登壇予定。28日、第18回帝国議会において足尾鉈毒問題について演説。31日、明道会講演で「反省の時機」と題して講演(於本郷教会)。
- 6月6日、矯風大演説会(於神田青年会館)に登壇。
- 7月5日、明道会講演会で「国民の資格」と題して講演(於日本橋区馬喰町立花亭)。7日、故潮田千勢子の葬儀に参列。31日、第十八議会報告演説会で演説(於横浜・羽衣座)。
- 9月19日、婦人矯風会の演説会(於神田青年会館)に登壇。20日、正義同志派神奈川県議員応援の政談演説会に登壇(於横浜・羽衣座)。21日、平沼座、22日、千代崎亭でも演説会を開く。24日、秋季明道会講演で「国土基礎と民族基礎」と題して講演(於本郷会堂)。25日、音楽奨励会で演説(於中央会堂)。
- 10月16日、婦人矯風会主催の矯風大演説会(於神横浜市尾上町指路教会堂)に登壇。
- 11月10日、帝国ホテルにおける「時局問題に関する大連合懇親会」に出席、日露開戦支持を表明。12日、対露同志記者演説会に登壇(於横浜賑町喜楽座)。
- 12月4日、矯風演説会(於神田青年会館)に登壇予定。

1904(明治 37)年

- 2月14日、帝国ホテルで「国民的後援」と題して演説。
- 3月1日、第9回総選挙に当選。12日夜、深川明道会支部発会式に臨み演説(於深川商業学校)。
- 6月20日、婦人矯風会主催時局問題大演説会で「露西亜は果して基督教国たる乎」と題して演説(於横浜尾上町指路教会)。
- 7月13日、婦人矯風大会の演説会に登壇(於神田青年会館)。
- 9月17日、矯風演説会に登壇予定(於神田青年会館)。
- 11月、無所属議員の一部で「有志会」を結成。

1905(明治 38)年

- 2月5日、本郷教会で「朝鮮に対する日本人の職分」と題して説教。
- 3月24日、「選挙権と兵役」を『毎日新聞』に発表し、日露戦後の課題として選挙権の拡張を主張。25日、横浜で議会報告演説会を開く(於横浜座)。

- 4月17日、田口卯吉葬儀に出席、田口の略歴を朗読。29日、経済学協会主催田口卯吉追悼会に出席し演説。
- 9月9日、横浜の時局演説会に登壇(於横浜座)。24日、明道会講演会で「国民自省の時」と題して演説。
- 11月18日、日本公教青年会の発起になるローマ教皇特派大使歓迎演説会で、尾崎行雄、姉崎正治らとともに出席、「法皇使節歓迎に就き所感を述ぶ」と題して演説(於神田基督教青年会館)

1906(明治39)年

- 2月24日、国民作新会発会式で「時代の要求」と題して演説(於神田青年会館)。
- 4月13日、鼎軒会大会に出席(於向島八百松楼上)。
- 5月3日、横浜座で報告演説。
- 6月1日、満韓婦人問題大演説会で演説。
- 9月18日、神奈川県同志倶楽部の政談演説会で「自治の精神」と題して演説(於伊勢原大佛寺)。
- 10月11日、北陸婦人矯風会に招かれ石川県金沢市の北陸女学校、第一・第二中学校で演説、「国民と矯風」と題して金沢市会議事堂で演説。12日、石川県立師範学校、金沢商業学校、第四高等学校で演説、夜、婦人矯風会演説会にて「代議政体と風俗」と題して演説。13日、金沢を発ち神戸に向かう。14日、神戸市民大会基督教演説会で「政界精神の復活」と題して演説(於神戸教会)、私立兵庫県教育大会(於県立高等女学校)に出席。15日、帰京。20日、甲府教会婦人大会で演説し、首相西園寺主催の招待会(於甲府市大田公園望仙閣)に出席、甲府教会で「遺伝と女子教育」と題して演説。21日、山梨県基督教青年会(甲府教会)で「時世と青年」と題して演説。教育大会(於山梨県会議事堂)で「広義の教育」と題して演説。基督教青年会晩餐会に出席[「甲府に於ける島田社長」]『東京毎日新聞』10月23~25日]。
- 11月2日、前橋市の市民大会(組合教会の集中伝道)に招聘され「精神界の復活」と題して演説、夜、有志主催の晩餐会に招かれ演説[「前橋市の演説(島田社長の遊説旅行)」]『東京毎日新聞』11月5~7日]。5日、国民作新会演説会で「排日思想と米国大統領」と題して演説(於神田青年会館)。9日、矯風大演説会(於前橋市赤城館)で「公娼論の無稽」と題して演説[「前橋市の矯風演説(三)」]『東京毎日新聞』11月14日]。11日、財団法人同仁会大会(於大隈邸)で来賓総代として演説[「財団法人同仁会大会」]『東京毎日新聞』11月13日]。
- 12月、旧政交倶楽部所属議員が組織した猶興会に参加。

1907(明治40)年

- 2月8日、東京を発ち京都に向かう。9日、京都青年会が主催する演説会(於京都市会議事堂)に登壇。10日、帰京[以上、「京都だより」]『東京毎日新聞』1907年2月12、13日]。16日、婦人矯風会主催音楽演説会(神田青年会館)に登壇[演題は「国運と風俗」か?。]。26日、本郷教会春期伝道演説会で「信仰と人物」と題して演説。
- 3月5日、政界革新同志会発会式に出席。6日、碓氷郡安中町の郡民大会で「国民の覚醒を促す」と題して演説(於碓氷会堂)。9日、本郷菊阪日本基督教会青年会企画の伝道演説会で「時事と国民の道德問題」について演説。
- 21日、田中正造の依頼に応じ、第23回帝国議会において「谷中村の枉法破壊に関する質問書」を提出し、谷中村土地収用の不正不当を指摘し政府に迫る。
- 4月13日、第3回鼎軒会に出席し演説(於富士見軒)。18日、東京市主催の救世軍ブース大將歓迎会(於市会議事堂)に出席。26日、三宅雄二郎との連名による谷中村救済寄付金募集広告「世の志士仁人に訴ふ」を『東京毎日新聞』に掲載(～28、30日、5月1日)。
- 5月1日、日本禁酒同盟会大会において演説。12日、全国教育家大集会に出席、「国民教育の意義」と題して演説。28日、谷中問題演説会(於神田錦輝館)に登壇。
- 7月2日、強制破壊4日目の谷中村を慰問・視察。7日、「革新会」一行の遊説のため東京発。9日、長崎着。11日、長崎革新会発会式に出席、発会式後の演説会に登壇。同日、佐世保で演説。12日、門司で演説。14日、宇和島で演説、16日松山で演説、18日、丸亀で演説、23日、帰京。この月、安部磯雄・三宅雄二郎らと谷中村救済会を結成。
- 9月11日、東京発、宇都宮着、寿座で演説。16日、米沢市米沢座で「国民の責任」と題して演説。18日、鶴岡にて革新演説会に登壇。19日、学術演説会に登壇、基督教演説会で「經典の読法」と題して演説。20日、酒田にて演説会に登壇。21日、酒田発、22日、帰京。
- 11月4日、福島遊説に出発、白河で演説。6日、三春で「現代の急要」と題して演説。7日、福島県石川町で演説。9日、東京市教育会主催の講談会(於浅草小学校)で「実行的教育」と題して講演。
- 12月22日、社会政策学会第1回大会(於東京帝国大学法科大学第32番教室)に来賓として出席し工場法討議に参加。23日、非増税派懇親会(於芝三縁亭)で発起人総代として挨拶。

1908(明治 41)年

- 4月3日、非増税同志会主催第3回政談演説会(於明治座)で「政界の刷新」と題して演説。
- 5月11日、非増税派大演説会(於明治座)に登壇。15日、第10回総選挙に当選。
- 6月1日、神戸高等商業学校校友会に招かれ「偶感」と題して講演。2日、神戸実業協会主催の晩餐会にて演説。3日、岐阜実業家大懇親会にて演説。
- 10月9日、日本禁酒同盟会大会において演説。10日、孔子協会発会式に出席し講演(於第一生命保険相互会社楼上)。
- 11月4日、惟一館日曜演説において「戦後の日本」と題して演説。22日、三省堂出版『日本大百科辞典』披露の大隈邸園遊会で演説。
- 12月21日、又新会に参加。31日、「愛読者諸君に告ぐ」(『東京毎日新聞』)を発表し、新聞経営から退く。

1909(明治 42)年

- 2月11日、早稲田大学主催憲法発布二〇周年記念講演会で講演。
- 4月16日、横浜太田町の中央伝道会で開かれた創立一周年記念祝賀演説会に出席。25日、岡山に赴き、山陽高等女学校で講演。
- 5月17日、横浜尾上町で開かれた基督教伝道演説会に小崎弘道とともに登壇(於指路教会)。
- 8月25日、大阪に赴き、遊郭移転青年期成同盟会主催の曾根崎遊郭廃止の市民大会に臨み、「市民大会を祝す」と題して演説(於中之島公会堂)、26日、曾根崎遊郭廃止の大演説会に登壇(於中之島公会堂)。帰京の途に就く。
- 10月8日、開教五十年記念講演会で「民権及び信教自由に於ける基督教の影響」と題して講演(於東京基督教青年会館)。23日、矢部新作追悼会(茨城県佐野町春日岡山)に参列。21日(51)、ヘボン博士来朝記念演説会に、植村正久とともに登壇、「ヘボン博士に就て」と題して講演(於横浜尾上町指路教会)。

1910(明治 43)年

- 1月9日、銀座教会において「基督教の過去及び将来」と題して演説。
- 3月13日、立憲国民党に参加。
- 4月5日、横浜市喜楽座において「廿六議会の経過と政界の大勢」と題して報告演説。
- 9月6日、島根県松江市に赴く。7日、松江市栄徳座にて「山陰道人士に告ぐ」と題して講演、今市高等小学校で講演。8日、杵築中学校等で講演(予定)。10日、安来にて講演(予定)。18日、新人10周年記念大講演会(於本郷会堂)で「朝鮮問題に関する日本の責任」と題して講演。

1911(明治 44)年

- 3月8日、早稲田大学で「二十世紀劈頭の問題」と題して科外講義。
- 4月15日、東京経済雑誌社主催田口卯吉追悼演説会(於本郷区中央会堂)に出席し演説。21日、日本基督教婦人矯風会・救世軍・東京基督教青年会連合の吉原遊郭全廃を訴える第1回廃娼演説会(於神田青年会館)に登壇、「之れ実地の問題也」と題して演説。
- 5月6日、日本基督教婦人矯風会主催の第2回廃娼演説会(於神田青年会館)に登壇。24日、初回の廓清会創立委員会に安部磯雄、矢島揖子、山室軍平、鈴木文治等とともに出席、趣意書の起草・会則の編成について討議。
- 6月3日、日本基督教婦人矯風会主催の第5回廃娼演説会(於三田ユニテリアン協会)に登壇。18日、大日本平和協会と協同した惟一館日曜演説で「日米間の雲霧を一掃せよ」と題して演説(於惟一館)。24日、横浜基督教青年会主催の演説会に登壇(於横浜尾上町指路教会)。
- 7月2日、神戸高等商業学校講演部に招かれ講演。8日、廓清会発会式に出席、会長に就任し、演説(於神田美土代町基督教青年会館)。
- 8月22日、銀行集会所において「日米関係問題」について演説。29日、渋沢栄一主催の送別午餐会に新渡戸稲造と共に出席(於飛鳥山邸)。31日、在米日本人会の招聘に応じ新渡戸稲造とともに渡米。
- 9月10日、ホノルルに寄港、ハワイ総領事主催の午餐会に出席(於ユニヴァーシティ倶楽部)、ハワイ総領事館の演説会に新渡戸稲造とともに出席、「在留同胞に告ぐ」と題して演説。同日、ホノルルを出帆。16日、サンフランシスコ着。総領事館主催の歓迎晩餐会に新渡戸稲造と共に出席し演説(於フェアモントホテル)。17日、在米日本人会主催による懇談会に新渡戸稲造と共に出席(於日本倶楽部)。18日、サンノゼに向かい、アルビソ地方を視察、サンノゼの歓迎晩餐会に臨み(於日本亭)、「現代の趨勢」と題して演説(於日本人ホール)。19日、サンフランシスコに帰着し、日本協会主催の歓迎会に新渡戸夫妻と共に出席(於セントフランスホテル)、新渡戸稲造と共に在米日本人会主催の歓迎演説会に臨む(於スコティッ

- シュライツテンブル)。20日、新渡戸稲造と共にアルメダ郡オークランドに向かい、カリフォルニア大学を見学、アルバラド塩浜を視察、オークランド有志主催の歓迎晩餐會に臨み(於吾妻亭)、白人第一組合教会で演説。21日、スーソンを巡視、ヴァカヴィルで講演(於アーモリホール)、サクラメント着。22日、フローリンの農園視察、サクラメントの歓迎會に出席(於日本街菊水亭)、演説(於オールドパヴィリオン館)。23日、ウオールナッツグロープを視察、24日、ウオールナッツグロープ付近を視察し、アイルトンで演説會を開き、サクラメントに帰着。25日、メリスビル地方を視察、26日、スタクトン着、歓迎晩餐會に臨む。27日、地方農園を巡視、東マーケット街ベル座で演説。28日、ローダイに赴き、農園を視察、オペラハウスで演説會に臨む。29日、スタクトンに戻り、ホールト島、ユニオン島の農園を視察、牛島薩二の農園に向かう。30日、リビングストンからフレズノ着。
- 10月1日、フレズノ近郊を視察、日本人会主催の歓迎晩餐會に臨み、パートン劇場で演説。2日、フレズノ周辺を視察。3日、バイセリアで演説(於オーディトリウム館)。4日、フレズノを経てロサンジェルスに向う。5日、ロサンジェルス着、歓迎晩餐會に臨む。6日、演説會を開く(於テンプルオーディトリウム)、7日、ニューマーク、ラグナ、ウエストアダム地方の農園を視察、モネタ主催の演説會、ロサンジェルスに戻り、神奈川県人会主催の晩餐會、基督教会同盟會の演説會に臨む。8日、リバーサイドで演説、9日、サンタアナに赴き付近の農場を視察、サンタアナ主催の演説會に臨む。10日、スメルザを視察、同地のウィンタースパーク會館で演説。ロサンジェルスに帰り、日本人会主催の懇談會に臨み、晩餐會に臨席、南加雄弁會主催の演説會に登壇(於ターナーホール)。11日、オックスナード視察、12日、サンタバーバラ視察、13日、サンフランシスコに戻る。14日、北米邦字記者大会(第二日)にまねかれる出席、サリナスに向かう。15日、サリナスの白人長老教会で演説、16日、サリナスの農場視察、同地の有志の晩餐懇談會に臨み、日本人ホールで演説。17日朝、サリナスの日本人長老教会の會合で英語答辭、モントレーに赴き観光。18日、モントレーの缶詰工場等を視察、晩餐會に臨み、演説會を開く(於バグビーホール)。19日、ワッソビル着、農園を視察、歓迎晩餐會、演説會に臨む。20日、サンタクルーズ着、演説會(於日本人ホール)、晩餐會に臨む。21日、サンタクルーズからパロアルト着、演説會に臨み(於ブルーハウス)、サンノゼに向かう。22日、サンノゼで午餐會に臨みリック天文台を見学予定。23日、サンノゼからサンフランシスコに戻る。25日、在米日本人会主催の各地代表者會に出席、在米日本人の将来に関する重大問題について協議(於日本俱樂部)。28日、日本人会主催の演説會に登壇、視察結果について演説(於スコティッシュライツテンブル)。29日、ポスト街白人組合教会で「民族興廢の原因」と題して演説。30日、オークランドで有志の晩餐會(於吾妻亭9に臨み、演説(於ハミルトンホール)。31日、パークレーで有志主催の歓迎談話會に臨み、在米婦人矯風會主催の演説會に臨む(於白人美以教会)。
- 11月1日、パロアルト着、スタンフォード大学の招待で、ジョルダン総長の日本訪問の講演を聴き、午餐會に出席。3日、タマルパイス登山、サンフランシスコの天長節奉祝會に参列。4日、サンフランシスコを発つ。5日、ボートランド着、歓迎晩餐會に臨み、演説會を開く。6日、市内及び農園視察、美以教会で演説。7日、シアトル着、有志主催の歓迎昼餐會、実業俱樂部の懇談會、日本ホールで日本人会主催の演説會に臨む。8日、実業俱樂部の午餐會、日本人街・国語学校視察、婦人ホールでの歓迎會、歓迎晩餐會に臨む。9日、タコマを視察、シアトルの領事館邸で晩餐會、日本ホールで甲辰会主催の演説會に臨む。10日、工場視察、記者俱樂部主催昼餐會、婦人矯風會主催演説會に臨む。11日、バンクーバー着。14日、バンクーバーからユタ州オグデン着、ソルトレイク市に投宿、15日、ユタホテルの朝餐會に出席、モルモン寺院參觀、歓迎會に臨み、「太平洋上の平和」と題して演説(於モルモン教会堂)。17日、プエブロー着、講演、18日、デンバー着、講演(於ピープル・スタパー ナクル)。19日、ラプトン農業同志會の招請に応じ講演、デンバーの各方面の代表者との懇談會に出席(於ウインザホテル)。20日、酒園視察、演説。21日、デンバーを發ちシカゴに向かう。26日、ニューヨーク着。27日、市内の図書館・美術館のほか旧蹟・建築物を視察。28日、青年會館で演説。29日、平和協會で講演。30日、日本俱樂部に招かれ演説。
- 12月1日、ボストンに向け出発。ボストン視察の後、4日、ワシントンで議會開院式を參觀予定。10日、平和大演説會に大統領タフトと共に登壇(於パンアメリカンユニオンビルディング)。12日、ニューオリンズからテキサス州ヒューストン着。17日、サンフランシスコ着、力行会主催演説會に登壇(於リフォード教会)。18日、在米日本人会主催の送別晩餐會に出席、伝道団主催の演説會で最後の演説(於ボストン街白人組合教会)。19日、サンフランシスコ出帆。25日、ホノルルに寄港、総領事主催の昼餐會に出席(於ヌアヌ官舎)、オペラハウスで演説、同日、ホノルル出帆、帰国の途に就く。

1912(明治45・大正元)年

- 1月5日、帰国。29日、大日本平和協會で「平和運動の研究」と題して講演。平和協會・太平洋協會・基督教青年會・廓清會の連合主催による帰国歓迎會に出席(於築地静養軒)。
- 2月7日、大日本協會幹事会で理事に指名される。24日、廓清會臨時役員會に出席。26日、静岡教育會に招かれ日米問題について講演(於メソジスト教会)、同教育會発起の有志晩餐會に出席(於大東ホテル)、廓清會静岡支部發會式に臨み、「社会の基礎」と題して演説(於静岡市若竹座)。27日、グレゴリー氏送別大演説會に登壇(於青年會館)。
- 3月7日、横浜市部刷新派有志大會に出席(於横浜市港区真港館)。24日、洲崎遊郭問題大演説會(第1回)に登壇(於神田青年會館)。
- 4月7日、道会(松村介石主宰)大會で「無信仰の悲惨」と題して演説

- 5月15日、第11回総選挙に当選。
- 6月21日、廓清会総会に出席(於本部楼上)。22日、廃娼大演説会で「私娼の檢徴問題」と題して演説(於本郷春木町中央会堂)。
- 7月2日、統一基督教会主催の米国ユニテリアン教会エリオット博士を招待しての各界名士との接見会に臨む。8日、廓清会の研究会に出席(於青年会館)。
- 10月2日、シアトル観光団の招待会で来賓として挨拶(於大隈邸)。12日、早稲田大学基督教青年会主催第3回講演会で「国運を如何にすべきか」と題して講演。16日、廓清会の秋季大演説会で「社会の整理」と題して演説(於惟一館)。27日、両毛七教会拡張伝道の講師として、足利教会の演説会で「国民の覚悟」と題して演説、産業大演説会で「産業の基礎」と題して演説。28日、足利教会会堂で婦人会のため「婦人の地位」と題して講話。
- 12月5日、水戸に赴き、菅谷青年会の総会に臨み「現代の觀察」と題して演説、夜、友愛協会で「根本問題」と題して演説。6日、下館小島座で「根本問題」と題して演説。7日、真岡で如来会主催の演説会に登壇。15日、平和日曜大演説会で「無意味なる軍備拡張」と題して演説(於惟一館)。

1913(大正2)年

- 1月1日、統一基督教主催平和講演会で「無意味なる軍備拡大」と題して講演。21日、大石正巳・河野広中・箕浦勝人・武富時敏・大石正巳と共に、立憲国民党を脱党。24日、横浜市議グループ「同公会」主催の晩餐会に招かれ政界報告。31日、河野広中・箕浦勝人・武富時敏・大石正巳と連名で声明書「現下の政局に対する吾人同志の所見を告白す」を発表。
- 2月1日、島田代議士招待会(於横浜市港町濱港館)に出席し演説。27日、第30回帝国議会において、宮中と府中、宮内官と政党との関係について質問。
- 5月8日、マコーレー古希祝賀会(於芝三緑亭)に出席し祝辞を述べる。17日、日米同志会主有志の発起にかかる対米問題大演説会に、日向輝武、林毅陸、永井柳太郎とともに登壇、「問題の性質及び其争点」と題して講演(於東京本郷座)。26日、羅府観光団主催晩餐会で演説(於築地精養軒)。
- 7月2日、ハーバート大学名誉総長エリオットの講演会に出席(於統一基督教会)。
- 8月14日、病床の田中正造を見舞う。
- 12月23日、立憲同志会に参加。

1914(大正3)年

- 1月23日、第31回帝国議会衆議院予算委員会でシーメンス事件について政府を追及。2月10日、衆議院本会議で内閣弾劾演説。
- 4月18日、早稲田大学基督教青年会主催の公開講演会第2日で「根本の問題」と題して講演(於神田基督教青年会館)。
- 5月30日、記者連合会主催の市政刷新演説会で「此機を逸すべからず」と題して演説(於惟一館)。
- 7月4日、廓清会第3回総会に出席、総会後の演説会で「大正の新機運」と題して演説(於京橋区銀座会館)。
- 10月3日、早稲田大学第一回時局講演で「時局の真相と国民の由来」と題して講演。
- 11月7日、ユニテリアン伝道二十五年記念講演会において「過去二十五年間に於ける政治思想の発達」と題して演説。20日、軽井沢の廓清演説会に登壇(於外国人食堂)。

1915(大正4)年

- 1月23日、議会報告会をかねた政談演説会に登壇(於横浜松ヶ枝町角力常設館)。
- 3月25日、第12回総選挙に当選。
- 5月20日、第36特別議会において衆議院議長就任(～1917年1月25日、第38通常議会まで)。
- 6月10日、沼南会に出席(於築地静養軒)。
- 8月31日、時局聯合大会で演説(於東京築地精養軒)。
- 9月28日、廓清会評議員会に出席(於衆議院議長官舎)。
- 10月30日、基督教婦人矯風会・廓清会連合主催の演説会に登壇し「破壊の時代より建設の時代へ」と題して演説(於神田青年会館)。

1916(大正5)年

- 4月6日、基督教婦人矯風会第二十四回公開演説会で「国家根本の觀念」と題して演説(於横浜尾上町指路

- 教会)。24日、大阪市天王寺公会堂で飛田遊郭設置反対演説会に登壇。
- 5月17日、警視庁問題と飛田問題を掲げた大演説会に登壇し、「警視庁の私娼撲滅策を評す」と題して演説(青年会館)。21日、東京基督教女子青年会において講演。
- 8月26日、群馬県前橋市に赴き、群馬廓清大運動の打合せ会に出席し協議。
- 9月30日、基督教婦人矯風会・廓清会連合主催の大演説会で「破壊の時代より建設の時代へ」と題して演説(於神田青年会館)。
- 11月15日、憲政会石川県支部発会式に出席。18日、飛田遊郭設置反対同盟会主催廓清演説会に登壇(於大阪市天王寺公会堂)。
- 12月1日、婦人矯風会主催男女の貞操問題に関する講演会で「一夫一婦と男子の貞操」と題して講演。
- 12月3日、廓清会群馬支部総会に出席し訓話、総会後の演説会で「群馬県民の使命」と題して演説(於前橋市)。6日、廓清会評議員会に出席(於衆議院議長官舎)。8日、廓清会大阪支部主催の大阪府会声援の演説会に登壇(於天王寺公会堂)。

1917(大正 6)年

- 1月6日、廓清会の新年懇談会に出席(於神田淡路町多賀羅亭)。16日、廓清会を代表して安部磯雄・矢島楫子・山室軍平等とともに警視庁を訪問、総監、保安部長と会見。
- 2月25日、廓清会秘密理事会を自宅で開催。
- 3月10日、矯風会で演説。20日、第13回総選挙に立候補した小山東助のために、安部磯雄・吉野作造・永井柳太郎等とともに仙台に向かう。
- 4月15日、永井柳太郎政談演説会(於金沢市)で応援演説。20日、第13回総選挙に当選。
- 5月12日、自由基督教会春季講演会で「基督教と儒教との関係」と題して講演。
- 6月16日、廓清会第6回総会に出席。

1918(大正 7)年

- 3月9日、仏教教友会主催小野梓先生追懐大講演会で追悼講演。
- 4月7日、道会(松村介石主宰)大祭に出席し祝辞。
- 5月8日、廓清会の演説会に登壇。19日、廓清会浜松演説会に登壇。
- 6月29日、廓清会第8回総会に出席、「風教と政治との関係」と題して演説(於神田一ツ橋通り女子職業学校)。
- 8月16日、軽井沢で廓清演説。20日、外国人のための廓清会演説会に登壇(於軽井沢)。
- 10月30日、廓清会・婦人矯風会連合演説会に登壇(青年会館)。
- 11月3日、横浜自治倶楽部総会において来賓演説。20日、憲政会本部庭内における休戦祝賀会で演説。

1919(大正 8)年

- 1月12日、憲政会東京支部評議員総会に出席し演説。15日、早稲田大学で「選挙権拡張論」と題して科外講義。
- 2月1日、廓清会理事会・新年懇談会に出席。5日、人種の差別撤廃期成同盟大会に出席し演説(於築地精養軒)。27日、廓清会演説会に登壇(於女子職業学校)。
- 5月、廓清会浜松支部、名古屋で廓清演説。3日、名古屋社会改良会主催社会改良講演会に登壇。
- 7月1日、廓清会第9回総会に出席、総会後の演説会で「人種差別撤廃と朝鮮問題」と題して演説(於神田青年会館)。
- 8月26日、鼎浦小山東助告別式に参列。
- 9月23日、横浜市政刷新派の候補の応援のため、横浜市松ヶ枝町角力常設館にて演説。24日、故小山鼎浦氏追悼講演会(於神田青年会館)において「政治家としての鼎浦」と題して講演。
- 10月4日、廓清会理事会に出席。10日、日本禁酒同盟大会において演説。16日、廓清会評議員会に出席。
- 11月15日、廓清演説会で「社会問題の根本解決」と題して演説(於長野市メソヂスト教会堂)。
- 12月7日、廓清会主催演説会で「労働問題と禁酒」と題して講演(於神田青年会館)。12日、普通選挙期成同盟会全国有志大会で鈴木文治等とともに演説(於神田青年会館)。

1920(大正 9)年

- 2月6日、日本基督教婦人矯風会主催の代議士招待晩餐会に出席。14日、第42回帝国議会において普選法案提出理由の説明演説。
- 3月28日、廓清会春期講演会で「国民の品性」と題して講演(於神田青年会館)。
- 4月24日、今井嘉幸博士政見発表演説会で「普選法案の弁妄」と題して演説(於大阪中之島中央公会堂)。
- 5月10日、第14回総選挙に当選。
- 7月23日、衆議院で高橋是清・中橋徳五郎・山本達郎三大臣の洗職嫌疑に関する質問書を提出。26日、島田三郎引責決議案をめぐり、議場混乱(27日、引責決議案可決)。
- 11月4日、犬養毅・尾崎行雄らと「政界革新普選同盟会」を結成。26日、長野市に憲政会地方遊説。

1921(大正 10)年

- 2月10日、第44通常議会で、尾崎行雄の提出した軍備制限決議案に賛成。
- 3月14日、憲政会を脱党。
- 4月5日、横浜で憲政党脱党報告会を開き演説(於自治倶楽部)。26日、大阪朝日新聞社主催政界革新党弊打破大演説会(於京都市公会堂)に尾崎行雄・吉野作造等と登壇。
- 5月14日、横浜蓬萊町の市民教育講習会で「社会共存の道」と題して講演(於メソジスト教会)。
- 6月18日、横浜文化学会主催第一回講演会で、「内外の形勢とその政治策」と題して講演(於指路教会)。
- 9月17日、尾崎行雄・吉野作造・杉森孝次郎・堀江帰一とともに発起人となり「軍備縮小同志会」(軍備縮小・太平洋および極東における争因の排除・軍国主義打破・平和政策の確立促進を目的とする啓蒙・研究団体)を結成、座長に推挙される(神田如水館での懇談会では、小野塚喜兵次、田川大吉郎、鈴木文治、河合栄治郎、水野広徳、石橋湛山、小村俊三郎、鈴木文四郎、馬場恒吾らが参加)。夜、国際基督教徒連盟主催演説会で「軍備縮小と平和問題」と題して演説。
- 10月16日、在京台湾留学生秋季例会で「台湾青年諸君に告ぐ」と題して講演。
- 12月20日、『日本改造論』刊行。26日、普選全国断行同盟会が主催する各派普選連合懇親会(於築地精養軒)に出席し、演説「普選連合懇親会」『大阪朝日新聞』12月27日。

1922(大正 11)年

- 1月22日、労働連盟主催普選大演説会(於大阪天王寺公会堂)に登壇、「普選尚早の妄を弁す」と題して演説【『大阪朝日新聞』1月23日】。
- 2月11日、非政友各派主催の第2回普選断行国民大会(於芝公園)に登壇。19日、第3回普選断行国民大会(於赤坂山王台)に登壇。25日、第45回帝国議会で普選法案の説明演説(帝国議会における最後の演説となる)。
- 3月4日、尾崎行雄とともに東京発。5日、政界革新党弊打破演説会(於神戸市八千代座)で演説。
- 9月22日、自由討究社主催朝鮮問題講演会で「誠なれば即ち明らかかなり」と題して講演(於神田青年会館)。29日(～1923年1月19日)、早稲田大学で「明治政史」を科外講義(9月29日、第1回「大政返上、皇政復古」。10月6日、第2回「封建廃止」。13日、第3回「遣外使節」。26日、第4回「西南戦争、征韓論」。11月3日、第5回「民選議院」。10、17、24日、12月1、8日、第6回～第10回「開拓使事件、国会開設決定」。1923年1月19日、第11回「対支戦争内閣」)。
- 10月16日、斯文会で「孔夫子の政治観」と題して講演(於明治会館)。
- 11月8日、犬養毅・尾崎行雄らと革新倶楽部を結成。

1923(大正 12)年

- 11月14日、逝去。17日、青山斎場で葬儀(石川安次郎「遺文朗読」、吉野作造「事跡紹介」、山室軍平「説教」、安部磯雄「追悼の辞」)。
- 12月8日、早稲田大学沼南会で故島田三郎氏追悼演説会(内ヶ崎作三郎「遺文朗読」、菊地茂「恩師を憶ふ」、浮田和民「エドモンド・パークと島田沼南」【『廓清』14-3、1924年3月10日】掲載)、高田早苗「憲政擁護者憲政の宣伝者としての島田三郎君」【『高田早苗博士大講演集』(大日本雄弁会、1927年)収録]、塩沢昌貞「吾が学園と沼南先生」、石川安次郎「沼南先生の傑出せる性格」)。

1924(大正 13)年

- 9月、木下尚江編『島田三郎全集』全5巻(島田三郎全集刊行会)刊行開始(～1925年11月)。

11月15日、島田三郎一周年記念大講演会。

1926(大正 15・昭和元)年

6月16日、神田青年会館において「島田三郎全集刊行記念講演会」開催(木下尚江・石川半山・山室軍平・内ヶ崎作三郎ら講演)。

1929(昭和 4)年

11月9日、朝日講堂において「故島田廓清会長七周年記念講演会」開催(木下尚江・林歌子ら講演)。

1934(昭和 9)年

12月7日、丸の内海上ビル内中央亭で「島田三郎氏十周年記念懇談会」開催。

II 著作目録

1. 著書・訳書

1879(明治 11)年

ベンサム『立法論綱』律書房、9月[元老院蔵]。中外堂、9月[原著：*Bentham's theory of legislation : being principes de legislation and traites de legislation, civil et penale*, tr. and ed. from the French of Etienne Dumont by Charles Milner Atkinson] [『日本立法資料全集』別巻 404 (信山社出版、2006年)収録]

『通俗民権百家伝 画入』[荻原乙彦編]稲田佐吉刊、8月

1880(明治 12)年

ベンサム『民法論綱緒論』律書房、5月[原著：*Bentham's theory of legislation : being principes de legislation and traites de legislation, civil et penale*, tr. and ed. from the French of Etienne Dumont by Charles Milner Atkinson]

『法律原論』全3巻(律書房、10月)[原著：Henry Taylor Terry, *The first principles of law*, 1878]

1883(明治 16)年

『英国憲法史』全2巻(自由出版会社)[メー著、島田三郎・乗竹孝太郎訳。明治21年再版。第1巻書名：『國王之威權並特權』。原著：Sir Thomas Erskine May, *The constitutional history of England since the accession of George the Third, 1760-1860. with a new supplementary chapter, 1861-71*, 1882]

『英国憲法史』全6巻(輿論社、～明治21年9月)[メー著、島田三郎・乗竹孝太郎訳。第1巻・第2巻は第2版、第1巻～第3巻は経済雑誌社刊] [『日本立法資料全集』別巻 385・386 (信山社出版、2006年)収録]

『近世泰西通鑑』全27巻(輿論社、～明治18年)[ダイアー著、嶋田三郎ほか訳。原著 Thomas Henry Dyer, *Modern Europe, from the fall of Constantinople to the establishment of the German Empire, A.D. 1453-1871*, 2nd. ed., rev. and continued, 1877.

1886(明治 19)年

『米国偉観』全4巻(輿論社、5月～明治20年4月)[島田三郎・青木匡訳。原著：Ulysses Simpson Grant, *Personal memoirs of U.S. Grant, 1885-86*]

『内地雑居論』巖々堂、12月[島田三郎立案、岡村梅太郎記、大槻安次郎編。明治20年4月再版]

1888(明治 21)年

『開国始末 井伊掃部頭直弼伝』全三巻、輿論社、3月21日③[明治24年再版。復刻版として、「幕末維新史料叢書」(人物往来社、1968年)、「続日本史籍協会叢書」[第3期 18、19](東京大学出版会、1978年)がある]

1889(明治 22)年

『条約改正論』博文堂、11月25日④[異版として、大成館(明治22年11月)、北冥館(明治23年3月)がある。初出は、『毎日新聞』明治22年11月3、5～10、12、13、15、16日]

1890(明治 23)年

『国会第一期の政治意見』島田三郎、7月16日⑤[初出は『毎日新聞』(明治23年3月18日)、『新演説』号外(明治23年4月10日、大成館)に転載。西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、昭和54年)収録]

1892(明治 25)年

『輿論の法廷に訴ふ』[白井喜代松記]玉口真造、1月[初出は、『毎日新聞』明治25年1月13～16日]

1893(明治 26)年

『第四議会の経過』[『毎日新聞』号外]毎日新聞社、4月11日

1895(明治 28)年

『東洋治安策』[鳥谷部銑太郎との合著]毎日新聞社、1月28日[「付録」として「媾和の条件」を収録。初出(『毎日新聞』明治27年10月31日、11月1～3、6、7日)を修正]

1896(明治 29)年

Agitated Japan, the life of Baron II, Kamon-no-kami Naosuke (based on the Kaikoku shimatsu of Shimada Saburo), by H. Satoh, rev. by Wm. Elliot Griffis (Tokio: Dai Nippon Tosho Kabushiki Kaisya, Z.P.Maruya & Co., London: Kegan Paul Trench, Truber & Co, New York: D. Appleton & Co.)

1900(明治 33)年

『日本と露西亞』警醒社、9月[「附録」として「殖民新論」収録。同年10月再版。翌34年4月第3版、「附録」として「対清意見」「朝鮮経営論」を追加収録]④

1901(明治 34)年

『社会主義概評 世界之大問題』警醒社、10月[明治35年1月再版]⑥[初出は、「社会主義及社会党」『毎日新聞』明治34年7月12～17、19～25、28日～8月3、5～13、20、21、25～27日、9月1、2日]

1902(明治 35)年

『如是我観 政教概論』警醒社、5月④[初出は、「対外思想の変化」『毎日新聞』明治32年7月8～12、14、26～29日、8月1、3、5～7、9、11～13、16、18、20、22、26、27、29日、9月4、6、8、10、12、14、16、18、20、24、

27、29日、10月7、9、11、20、24、26、29日、11月4、6、12、16]

『東京政治学校講義録 政治学研究論』東京政治学校出版部、7月2日

1907(明治40)年

『政界革新論』博文館、7月18日⑦[異版として東京毎日新聞社刊]

『酒禍の実験』銀座会館、9月②

1909(明治42)年

『対外国産の基礎』日本織物公報社、11月15日⑦

『禁酒は税源を拓む』銀座会館、2月[明治41年10月9日演説於日本禁酒同盟会大会]②

1910(明治43)年

『禁酒の影響』土浦禁酒会、11月25日

1912(明治45)年

『廓清会組織の趣意』[廓清叢書第5巻]廓清会本部、5月2日[初出は、『廓清』1・2、3、8月1日、9月1日。

『買売春問題資料集成 戦前編 第2巻 魔娼運動編 2 1912-1925年』(不二出版、1997年)収録]

1913(大正2)年

『矢野二郎伝』矢野二郎翁伝記編纂会、5月28日

1915(大正4)年

『ピット』[偉人伝叢書第十一冊]博文館、8月12日[栗原元吉との共著]

1920(大正9)年

『労働問題と禁酒』日本禁酒会事務所、2月19日[大正8年10月10日演説於連合禁酒会]

* 『田中正造翁小伝』田中正造翁建碑事務所社、月日未詳

1921(大正10)年

『政治学教養 真実に回れ』郁文舎、10月30日⑦

『日本改造論』瞭文堂、12月20日⑥

1922(大正 11)年

誠なれば即ち明らかなり[9月22日自由討究社主催朝鮮問題講演会(於神田青年会館)]『東経正義 朝鮮問題講演集』<鮮満叢書 第5巻>自由討究社、11月1日

1924(大正 13)年

島田三郎全集刊行会(石川安次郎)編『島田三郎全集 第1巻 議会演説集』警醒社書店、6月7日[国立国会図書館所蔵版では17日刊と修正]

島田三郎全集刊行会(山室軍平)編『島田三郎全集 第2巻 社会教育論集』警醒社書店、9月25日[国立国会図書館所蔵版では10月14日刊と修正]

島田三郎全集刊行会(木下尚江校訂)編『島田三郎全集 第3巻 開国始末 井伊大老伝』警醒社書店、11月14日[国立国会図書館所蔵版では27日刊と修正]

1925(大正 14)年

島田三郎全集刊行会(木下尚江)編『島田三郎全集 第4巻 政教史論』警醒社書店、4月18日[国立国会図書館所蔵版では28日刊と修正]

選挙は殺傷の兇器か—明治二十五年五月十二日衆議院—『帝国議会雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、4月28日

武人銭を愛す—大正三年二月十日衆議院—『帝国議会雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、4月28日

普通選挙は真理なり—大正九年二月十四日衆議院—『帝国議会雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、4月28日

島田三郎全集刊行会(木下尚江)編『島田三郎全集 第5巻 議会と政党』警醒社書店、11月14日[国立国会図書館所蔵版では17日刊と修正]

1926(大正 15・昭和元)年

『田中正造翁小伝』社団法人足利友愛義団編・刊、10月21日⑦

1989(平成元)年

『島田三郎全集』全7巻、龍溪書舎刊、5月20日

2. 共著（序文等を含む）

- 激徒ヲ制スルハ自由制度ニ在リ『名家演説集誌』9、渡辺隆編、漸進堂、1881年11月⑦
- 序『仏国革命原因論』鈴木五郎編、秩山堂、1882年4月
- 経済策ノ巻首ニ書ス『経済策』田口卯吉著、経済雑誌社刊、1882年5月6日⑦
- 政学楷梯ノ巻首ニ書ス『政学楷梯』細川瀧・波多野伝三郎訳、1882年6月
- 官吏選任法ヲ定メラレン事ヲ望ム[1884年1月の演説]『明治卓論新編』栗田素一編、楽成舎、1884年3月⑦[福井淳編『雄弁大家演説集』(忠雅堂、1887年11月。自由閣、1888年2月)収録]
- 官吏選任法ヲ定メン事ヲ望ム『演説軌範卓論新編』西村虎二郎編、東雲堂、1887年10月1日
- 日本政府大臣ノ任重シ『日本之輿論 一名当世名士時事活論』内山正如編、国友館、1887年11月18日
- 社会改良論序『社会改良論』岩田徳義著、江藤書店、1888年1月[増補改訂版として『基督教ト社会トノ関係』(東京聖教書類會社、1888年9月28日)]
- 序『活劇史』矢部五州著、秩山書房、1891年2月13日
- 菴菴十種序『菴菴十種』栗本鋤雲著、報知社、1892年3月26日
- 再刊国憲汎論序『国憲汎論』[訂正増補第五版]小野梓著、博文堂、1892年5月7日⑦
- 開国始末の書法に関する疑問[1892年4月17日井伊直弼33回忌追悼会演説]『井伊直弼公三十三回忌追悼演説筆記』高野栄次郎 編・刊、1892年7月25日[「開国始末に対する疑問」と題して『島田三郎全集 第3巻 開国始末 井伊大老伝』(警醒社書店、1924年)収録、③]
- 過去の事蹟未来の希望[3月19日演説於神田錦輝館]『時事問題名士演説』2、辻岡文助編、金松堂、1893年4月30日
- 序『哥索克東方侵略史』片淵琢著、斎藤次郎刊、1893年7月26日⑦[再版(1895年4月、陸軍受験講義録編輯所、第3版(1897年12月、博文堂)では『コサクク東方侵略史』]
- 浦鹽斯徳序『東露要港浦鹽斯徳』松浦充実著、東京堂、1893年10月5日
- 東洋治安策の巻首に書ス『東洋治安策』[鳥谷部鉄太郎との共著]毎日新聞社、1895年1月28日⑦
- 世界三大宗教序『世界三大宗教』戸川残花著、博文館、1895年10月31日
- 国民の気風『名家時論 第一集』東京青年會編・刊、1896年7月5日
- 女子教育談『女子教育談』青木嵩山堂、1897年4月
- [序文]『小野梓』永田新之允著、富山房、1897年12月11日[復刻：早稲田大学出版部、1972年]
- 日本之大勢『第一回同好青年會演説筆記』同好青年會編・刊、1898年1月25日
- 序『日本之下層社会』横山源之助著、教文館、1899年4月⑦
- [内治雑居に対する意見]『内治雑居ニ対スル諸大家之意見』前集(卯九會編、広益図書刊)、1899年5月14日
- 沐猴の冠『清風明月』<名家文庫 第2編> 高松正道編、大学館、1899年8月5日
- Sketch of the life of Saburo Shimada『Unitarian movement in Japan: : sketches of the lives and religious work of ten representative Japanese Unitarians』神田佐一郎編、日本ユニテリアン協會、1900年4月11日

- 序『匏菴遺稿』栗本鋤雲著、裳華書房、1900年5月15日
- [国語改良について]『国語改良異見』自治館編輯局編、自治館、1900年5月15日[『国語改良異見』<資料集成近代日本語<形成と翻訳>第17巻>(大空社、2016年)収録]
- 序『足尾鉍毒問題』木下尚江著、毎日新聞社、1900年6月
- 廃娼之急務序『廃娼之急務』木下尚江著、博文館、1900年10月12日⑦
- 序『足尾鉍毒惨状画報』松本隆海編、青年同志鉍毒調査会、1901年3月22日
- 序『社会外の社会穢多非人』柳瀬勁介著・権藤震二補、大学館、1901年4月18日⑦[「所謂部落問題」と改題、『融和問題論叢』(中央融和事業会、昭和4年3月31日)収録]
- 福沢先生を悼む『福沢先生哀悼録』<『慶応義塾学報』臨時増刊第39号>慶応義塾学報発行所、1901年5月[『福沢先生哀悼録』から『和漢文藻』(東京外国語学校、1912年)、『中学国文教科書 八』[修正12版](光風館書店、1918年)収録。復刊『福沢先生哀悼録』<Misuzu reprints>(みすず書房、1987年)、『福沢論吉研究資料集成 同時代編 第4巻 明治34年(1901)福沢先生哀悼録』(大空社、1998年)]
- 序『沼間守一』石川半山著、毎日新聞社、1901年7月25日⑦
- 孔子論『先覚詞藻』進藤信義編、鐘美堂刊、1901年10月7日
- 吁外山博士逝けり『名家乃遺影』村松忠雄編、東洋社、1901年12月9日
- 福沢先生を弔す『名家乃遺影』村松忠雄編、東洋社、1901年12月9日[石川正作編『明治秀才文集第三集』(東洋社、1905年)収録]
- 酒井九臯君の訃報『名家乃遺影』村松忠雄編、東洋社、1901年12月9日
- 望月君を傷む『名家乃遺影』村松忠雄編、東洋社、1901年12月9日
- 若松賤子女子を弔す『名家乃遺影』村松忠雄編、東洋社、1901年12月9日
- 学問、出身、目的、手段『青年の憲法 現代大家』西川正憲編、大学館、1901年12月17日
- 体育と品行『体育論集 内外名家』黒沢勇編、日本体育会、1902年4月20日
- [無題]『明治文豪硯海録』自治館編集局編、文明堂書店、1902年12月20日
- 数学的知識の必要『名家修養談叢』吉丸一昌編、国光社刊、1903年2月8日
- 学問、出身、目的、手段『名家修養談叢』吉丸一昌編、国光社刊、1903年2月8日
- 実学『名家修養談叢』吉丸一昌編、国光社刊、1903年2月8日
- 事務に就て『名家修養談叢』吉丸一昌編、国光社刊、1903年2月8日
- 言論文章に就て『名家修養談叢』吉丸一昌編、国光社刊、1903年2月8日
- 福沢論吉翁『名家修養談叢』吉丸一昌編、国光社刊、1903年2月8日
- [「演説法名家談」]『演説活法』[中気崢著] 博文館、1903年12月20日
- [無題]『来世之有無』新仏教徒同志会編、井冽堂、1905年8月8日
- 現代学生の七短六長『男女学生気質』新公論社編、鶏声堂、1906年3月29日
- 桜痴居士を悼む『明治秀才文集 第五集』久保天随選評、東洋社、1906年4月29日
- 東北に対する所見『将来の東北』丸山舎書籍部、1906年9月7日(増補2版、1908年)[復刻:(アイエ書店、1969年)、増補2版(モノグラム社、1977年)]

序『大日本地名辞書』吉田東五著、富山房、1907年10月13日

国民教育の意義『帝国六大教育家』全国教育者大集会編、博文館刊、1907年10月17日

青年立志に就ての心得『実業青年立身策 当代名流』博文館、1907年12月24日

開国事暦『開国五十年史』上巻、大隈重信撰、開国五十年史発行所、1907年12月25日

政界の刷新『非増税政談演説集 国民之必読』濱中東郎著、非売品、1908年4月28日

序『現代名士の演説振』小野田亮正著、博文館、1908年8月14日⑦

身を終るまで修養せよ『信仰之機縁』進藤正直編、弘城館、1908年11月15日

日本社会事彙序『日本社会事彙』[第3版]下巻、経済雑誌社編・刊、1908年12月25日

憲法に関する人道問題[明治42年2月11日憲法発布二〇周年記念講演会講演筆記於早稲田大学]『憲法記念早稲田講演』早稲田大学編輯部編、早稲田大学出版部、1909年3月15日⑦

学生の本領『小学校卒業生立身訓』大日本国民中学会編、東京国民書院、1909年3月25日

横浜開港五十年史序『横浜開港五十年史』肥塚龍著、横浜商業会議所刊、1909年5月15日⑦

新時代と新要求[演説速記]『中央伝道会一週年記念大会録』寺本顕証編、中央伝道会、1909年6月21日

真率の人『二葉亭四迷 各方面より見たる長谷川辰之助君及其追懐』坪内逍遙・内田魯庵編、1909年8月1日

日本憲政史『回顧二十年』福永文之助編、警醒社、1909年10月15日⑦

気運の変遷『明治文章読本』日本文章学会編・刊、1909年10月26日

予の奮闘観『我半生の奮闘』井上泰岳編、博文館、1909年11月27日

民権及び信教自由に於ける基督教の影響[1909年10月8日開教五十年記念講演会]『開教五十年記念講演集』宣教開始五十年記念会事務所、1910年2月21日②

学而第一『新論語』成功雜誌社、1910年6月15日[村上俊蔵編『新論語』東亜堂書房、1916年]

横浜成功名誉鑑序『横浜成功名誉鑑』森田忠吉編、横浜商況新報社、1910年7月7日

女は男に対抗し得るや『四十大家現代女性観』加藤教栄編、日高有倫堂、1911年5月13日

開国ノ気運ノ沐淋ノ冠「爵位論」『文章裁華 乾篇』石河正憲編、論文予習会、1911年6月8日

序『虞翁論』James Brice 著・内ヶ崎作三郎訳、博文館、1911年7月25日

四十三年度予算案に就て『明治雄弁集』前篇、大日本雄弁会編、昭文堂、1911年9月18日

日本実業大観序『日本実業大観』王蔭康編、清国留日記者公会、1911年10月10日

田口鼎軒を弔ふ文『儀式文範』<作文叢書>内海弘蔵編、成美堂、1912年5月20日

福沢先生を悼む『和漢文藻』東京外国語学校、1912年9月23日

大将の生涯は至剛至道[談]『明治天皇聖徳奉讃説教』顕道書院編輯局編、顕道書院、1912年10月16日

序『欧州諸国醜業公認制度廃止運動』廓清会本部、1912年12月11日

*血は水よりも濃し『沙港母国観光団記念写真帖』香取金太郎編、六友社、1912年12月

告知書[大石正巳・河野広中・武藤時敏・箕浦勝人との連名]1913年1月31日[憲政資料室所蔵「後藤新平文書11-2」桜井良樹編『立憲同志会史料集4』(柏書房、1991年)収録]

国民の覚醒を促す(大正六年三月一日)『第三十八帝国議会解散後名士演説集』三英社、1917年4月10日
国の柱石たる人物『修養世渡の道 現代五十名士講話』近代出版社、1918年10月15日

道理を重んじた人[先輩朋友及門下生の追懐談]『波多野先生伝』渡邊幾治郎・樋口功編、悦心会、1913年10月20日

島田三郎君の演説[1915年8月31日演説(於東京築地精養軒)]『時局聯合大会記事』時局聯合会、1915年9月20日

福沢先生を悼む『中学国文教科書 八』[修正12版]光風館書店、1918年1月5日[初版、明治39年10月18日]

序『花の下みち 跡見花蹊先生実伝』藤井瑞枝編、実業之日本社、1919年5月25日[復刻版『花の下みち 跡見花蹊先生実伝』(跡見学園、1990年)]

成敗とは是非／事務の才幹『筆は剣より強し 名家文選』横田千茂登編、東京書房、1919年7月23日

序『群芳図譜』和田英作・佐藤醇吉、群芳図譜刊行会、1919年11月15日

政界の革新『政界革新論集 軍備制限促進意見』朝日新聞社編・刊、1921年6月7日

帝国議会に運ばれたる帝国海軍の收賄事件『議会大演説集』信田孝善編、偉文社、1921年12月15日

*序文『議会普選大論戦』信田孝善編、偉文社、1922年4月⑦

改正教育令の発布 小学校の唱歌に就て[談]『教育五十年史』国民教育奨励会編、民友社、1922年10月1日⑦

誠なれば乃ち明なり[9月22日(於神田青年会館)]『東経正義 朝鮮問題講演集』<鮮満叢書 第5巻>自由討究社、1922年11月1日自由討究社主催朝鮮問題講演会

国民の覚醒を促す『式辞と演説 五分間卓上応用自在』いろは書房、1922年11月29日

序『軍費大整理論』高野清八郎著、春秋社刊、1923年3月15日

軍備縮少の真相『大正維新と青年』榎原玉葉編、三光閣、1923年5月5日

死に至るまで不断の努力『江原素六先生伝』江原先生傳記編纂委員編、三圭社、1923年5月15日[復刻、
『江原素六先生伝 伝記・江原素六』<伝記叢書 212>大空社、1996年]

[「鼎浦の記者生活」、「政治家としての鼎浦」]『鼎浦全集』[内容見本]鼎浦全集刊行会、[1923年]

速に罪を闕下に謝せ[「衆議院に於ける演説」]『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編、中野正剛監修、雄弁研究会、1928年4月23日

眞の雄弁家になるには[「名士の演説苦心談」]『五分間演説の仕方』青年雄弁会編、春江堂、1935年3月5日

雄弁修練の心得『晩近十分間模範演説と挨拶の仕方』岡村書店、1936年9月25日<初出未詳>

非立憲の解散・当路者の曲解[1920年5月収録]『大正・昭和戦前期政治・実業・文化演説・講演集 SP 盤レコード文字化資料』日外アソシエーツ、2015年4月25日

3. 評論（新聞・雑誌掲載）＜1262 篇＞

1879(明治 12)年

[無題「投書」欄。5月5日演説大意於有栖川宮館宴会]『郵便報知新聞』5月19日[「演説ノ必要」と題して
岡文二編『明治演説大家集』3(山中市兵衛、1880年5月)収録⑦]

外交新論『共存雑誌』32、33、8月6、13日

1881(明治 14)年

茨城師範学校における演説『茨城日々新聞』4月22、23、25、26日[武田晃二「島田三郎の「普通教育」論一改正教育令制定前後の文部省普通教育改革に関する一考察」(『岩手大学教育学部研究年報』51・1、1991年10月)収録]

仏国革命原因論『嚶鳴雑誌』33～35、11月15、26日、12月11日

遊毛紀行『東京横浜毎日新聞』12月23～25、28日、1882年1月6、12、14日

1882(明治 15)年

読日日新聞『東京横浜毎日新聞』1月4、6～8日

勤皇論『嚶鳴雑誌』37、1月17日⑦[『日本近代思想体系2 天皇と華族』(岩波書店、1988年)収録]

法律果タシテ頼ムニ足ル乎『嚶鳴雑誌』39、40、2月9、25日[福井淳編『雄弁大家演説集』(忠雅堂、1887年11月。自由閣、1888年2月)収録⑦]

嚶鳴社討論筆記 選挙権ニ如何ナル制限ヲ立ツベキカ『東京横浜毎日新聞』2月9、10、12、15、17～19日[『東京各社討論筆記』4、収録]

外交論[2月5日演説於浅草井生楼]『東京横浜毎日新聞』2月25、26、28日、3月1日[『名家演説集』14、15(渡辺隆編、漸進堂)2月25日、3月10日⑦]

嚶鳴社討論筆記 女帝を立るの可否『東京横浜毎日新聞』3月29日、4月4日[『近代日本思想体系2 天皇と華族』(岩波書店)収録]

嚶鳴社討論筆記 憲法改正には特別委員を要するの可否『東京横浜毎日新聞』4月5、8、9、11、13、14日

政学楷梯ノ巻首ニ書ス『嚶鳴雑誌』45、5月21日

王室ノ尊榮ヲ保チ人民ノ幸福ヲ全フスベシ[5月14日改進黨演説於明治会堂]『毎日新聞』5月25、26日[『立憲改進黨諸名士政談演説筆記』(平沢寛柔編・刊)6月⑦、小野種徳編『雄弁大家演説各論集』(駸々堂、1888年)収録]

経済策の巻首ニ書ス『東京経済雑誌』116、6月17日

米国ノ使臣支那政府ヲ紹介トシテ韓国ニ締交スルヲ聞テ感アリ『嚶鳴雑誌』49、50、7月17、31日

正当ノ目的ハ正当ノ手段ニ依リテ之ヲ遂ゲザルベカラズ『名家演説集』28(渡辺隆編、法木徳兵衛出版)11月1日⑦

1883(明治16)年

中立党トハ何者ゾ『名家演説集誌』30(渡辺隆編、法木徳兵衛出版)2月20日⑦

上院議員選挙法如何「東京政談討論会」討論筆記『嚶鳴雑誌』70~73、3月20、30日、4月10日

我国ヲシテ東洋ノ英国タラシムルハ誰レノ任ゾ[演説]『東京輿論新誌』138、9月10日

1885(明治18)年

歴史ノ効用『中央學術雑誌』2、3月25日[島田繁三郎編『東洋學術種本』(秩山堂、1885年10月)⑦、『雄弁大家実地演説集』(武田福蔵、1887年3月)、梅田君造編『明治大家論集』(法蔵館、1887年11月、東雲堂、1888年1月。正文堂、1888年3月。赤松市太郎、1888年5月)収録]

ROMAJI NO BENRI 『ROMAJI ZASSHI』1-1、6月10日

1886(明治19)年

井伊元老の年忌[無署名]『毎日新聞』3月30、31日、4月1~4、6~11日[島田執筆であることは「『開国始末』に対する疑問」、参照]

井伊元老の逸事拾遺[無署名]『毎日新聞』4月15、16日[「井伊元老の年忌」と一連のもの]

佐久間象山先生逸事[無署名]『毎日新聞』5月1~3、6、7、9、15、19、20、23、27、29日、6月3、5、9、12、20、26、29日、7月4日[島田執筆であることは「『開国始末』に対する疑問」、参照]

高野長英君獄中の書簡[無署名]『毎日新聞』5月25日

井伊元老逸事余録[無署名]『毎日新聞』5月28日[「井伊元老の年忌」と一連のもの]

文明道德相關論『六合雑誌』68、8月31日

1887(明治20)年

有神論と道德との関係『六合雑誌』73、1月31日

嶋田三郎君演説(開化に際する婦人の心得)[2月8日演説筆記於東京婦人矯風会主催演説会]『女学雑誌』52~55、2月19、26日、3月5、12日

平民社会の責任『国民之友』2、3月15日[柳原政登編『現今大家演説論集』(黨志堂、1887年8月)⑦、柳原政登編『現今大家演説論集』(南都開発、1887年11月)、羽成恵造編『文明実地演説討論集』(上田屋、1887年11月)、羽成恵造編『雄弁大家學術政談演説討論集』(上田屋、1887年12月)、桜井鎌造『雄弁大家実地演説集』(東雲堂、1888年1月)、『雄弁大家実地演説集』(武田福蔵、1888年3月)、『雄弁大家実地演説集』(赤松市太郎、1888年5月)、『日本大家論集』4-7、1892年7月収録]

小説談[談]『中央學術雑誌』2、5月10日

人生の目的『六合雑誌』77、5月31日[『日本大家論集』(武田書店、1888年1月)収録②、大橋高三郎編『未来政治家之覚悟社会輿論』(暁鐘館、1887年、自由閣、1888年、精文堂、1888年)、池本吉治編『基督教及哲学』<基督教文学 第2集>(警醒社 1889年)収録]

木村鑑子小伝の序『女学雑誌』75、9月10日

1888(明治 21)年

- 自著総論『東京経済雑誌』409、3月10日[『開国始末』から転載]
- 自著開国始末(総論)『毎日新聞』4月3日④
- 島田三郎氏の書簡[4月12日付サンフランシスコ発肥塚龍宛書簡]『毎日新聞』5月5日
- 島田三郎氏の通信[5月13日付ニューヨーク発]『毎日新聞』6月22、24日
- 米国女況通信[5月13日付巖本善治宛書簡]『女学雑誌』116、117、6月30日、7月7日
- 島田三郎氏の書簡[6月5日付ワシントン発]『毎日新聞』7月3～5日
- 島田三郎氏の書簡[6月12日付ワシントン発]『毎日新聞』7月10、11日
- 島田三郎氏の書簡[6月29日付ワシントン発]『毎日新聞』7月21日
- 島田三郎氏の書簡[7月17日付ロンドン発]『毎日新聞』8月31日、9月1、2日
- 在倫敦島田三郎氏の書簡[8月3日付ロンドン発]『毎日新聞』9月12～16日
- 島田三郎君来報 婦人洋服 コルセット有害の事[9月8日付巖本善治宛書簡]『女学雑誌』133、10月27日
- 在倫敦島田三郎氏の書簡[10月5日付ロンドン発]『毎日新聞』11月15～18、20日
- 『開国始末』の批判に関する島田三郎氏の書簡[10月1日付ロンドン発丹森太郎宛書簡]『毎日新聞』12月5～9日
- 開国始末の批判に関する島田三郎氏の書簡[10月1日付ロンドン発丹森太郎宛書簡]『東京経済雑誌』449、12月15日
- 島田三郎君通信 欧米婦女子の景況一斑[10月29日付巖本善治宛書簡]『女学雑誌』140～143、12月15、22、29日、1889年1月5日

1889(明治 22)年

- 在倫敦島田三郎氏の書簡[11月16日付ロンドン発]『毎日新聞』1月3、5、6、8～10、12日
- 島田三郎君通信 英国婦人改進黨大会の景況[巖本善治宛書簡]『女学雑誌』144、145、1月12、19日
- 在倫敦島田三郎氏の書簡[1月5日付ロンドン発]『毎日新聞』2月16、17日
- 在倫敦島田三郎氏の書簡[2月22日付ロンドン発]『毎日新聞』4月6、7、9～12日
- 島田三郎氏の欧州通信[5月17日付ロンドン発]『毎日新聞』6月28～30日、7月2～7、9～12日
- 帰国の祝宴『毎日新聞』9月8日[鈴木久蔵編・刊『新政談演説』(1889年11月)収録⑦「帰国の祝宴」における演説「帰朝の辞」]
- 【記事「全国大懇談会の詳況」中に島田三郎演説】『郵便報知』9月27日
- 西洋国の道徳[演説於明治女学校]『女学雑誌』183、10月19日
- 嶋田三郎氏の条約改正論『毎日新聞』11月3、5～10、12、13、15、16日[『条約改正論』博文堂、1889年11月25日]④
- 公娼の害を論ず[11月26日演説於前橋市愛宕座]②
- 公娼の害[12月9日廢娼演説会筆記於厚生館]『女学雑誌』191附録、12月14日⑦[田中正太郎編『新演

説』17(大成館、1890年11月)収録。「廢娼論」と改題、田中正太郎編『国民演説』1(鶴鳴館、1889年12月23日)収録。鈴木裕子編『自由廢業運動と廢娼連盟の創立』<日本女性運動資料集成 第8巻 人權・廢娼I>(不二出版、1996年)、『演説・記事論説集』<資料集成近代日本語<形成と翻訳>第16巻>(大空社、2016年)収録]

公娼の害[12月9日廢娼演説会於厚生館]『基督教新聞』333~345、12月13、20、27日

公娼の害[12月9日廢娼演説会於厚生館]『毎日新聞』12月17~21日[『明治文化全集 婦人問題篇』(日本評論新社、1959年)収録]

1890(明治23)年

島田三郎氏の政党論『毎日新聞』1月1、3、5、7、8、15~18日⑤[「政党論」と改題]

明治人民の責任[社説、1月19日演説筆記於浅草井生村楼]『毎日新聞』2月1、2、4日[田中正太郎編・鶴鳴館刊『国民演説』3、4、2月24日、3月2日⑦]、『政治演説軌範』(三好守雄編・刊、1890年5月)収録]

速記者談話会に於て[演説筆記]『速記雑誌』4・2、2月28日

速記者談話会第一常集会に於て[演説筆記]『速記彙報』16、3月11日

国会第一期の政治意見『毎日新聞』3月18日⑤[『新演説』号外(1890年4月10日、大成館)転載。島田三郎刊、7月16日。西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、1979年)収録]

共力営業(Co-operation)『毎日新聞』3月21日[『日本大家論集』3・10、1891年10月10日⑦]

廢娼の精神及其の順序[演説於厚生館]『女学雑誌』209、210、4月19、26日[島田三郎・巖本善治『公娼可滅』(『女学雑誌』209号外、1890年3月5日)、田中正太郎編・刊『国民演説』5、1890年4月収録⑦]

島田三郎氏の演説[6月14日一番町基督教青年会発起貧民救助慈善会(於木挽町厚生館)演説大意]『女学雑誌』218、6月21日

謹で神奈川県第一選挙区の諸君に申告す[「社説」]『毎日新聞』7月30日

貸座敷営業者の公権を剥奪すべし『廢娼』4、7月31日

[雑報記事「ガワルド氏の饗宴」中の「島田氏の演説」]『毎日新聞』8月19日

合同談判破裂の顛末『毎日新聞』8月26日

再び合同運動の顛末を記し併せて改進黨今後の方針を論ず[無署名社説]『毎日新聞』8月30、31日

合同の問題に関して予の精神を明にす[無署名社説]『毎日新聞』9月9日[「政党合同問題に関して予の精神を明にす」と改題⑤]

土曜新聞社主幹坂本氏より左の文を寄せられたれば此に掲げて藤田高田等諸兄に対するの伝言に代ゆ[雑報欄中の9月17日付島田三郎宛坂本直寛書簡掲載の前書き]『毎日新聞』9月23日

グリフキス氏の書翰[雑報]『毎日新聞』9月27日

土耳其軍艦遭難慈善会の旨趣を賛成し一言を陳て同感を表す[寄書]『横浜禁酒会雑誌』24、25、10月18日、11月25日

本心を明にして知人に謝す[雑報]『毎日新聞』11月27日

東京音楽学校紀元節祝賀式ニ於テ『同好会雑誌』2、12月16日

予算委員会の紛議に関して事実を明にす[署名社説]『毎日新聞』12月24日

近県旅行歳末歳始ノ欠礼ヲ謝ス[特別広告]『毎日新聞』12月31日

1891(明治24)年

嘆又嘆 国会記者の妄を弁す[署名社説]『毎日新聞』1月13日

島田三郎氏の音楽意見『女学雑誌』253、2月21日[「東京音楽学校ニ於テ」と改題して要旨を『日本大家論集』3-3(1891年3月10日)に収録、「音楽意見」と改題⑦]

[雑報記事「朝倉、島田両氏の演説」中の演説「横浜自衛の精神」大要]『毎日新聞』2月26日

下院概評[無署名社説]『毎日新聞』3月10～14、18～21、25日[「第二 議院の経過」と改題、議員集会所編『第一期国会始末』1891年5月10日収録、『明治文化全集 正史篇 下巻』(日本評論社)収録。「第一議会の経過」と改題、⑤]

欧亜ニ於ケル魯西亜ノ事情[演説筆記於東京専門学校「同攻会」創立七周年記念会]『同攻会雑誌』7、9月15日

現内閣は軍備拡張の大任を托するの信用ある乎[無署名社説]『毎日新聞』9月18日～20日、22日、25日⑤

憲法六十七条の疑問[無署名社説]『毎日新聞』11月8～12日[西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、1979年)収録]

1892(明治25)年

輿論の法廷に訴ふ[社説、演説筆記]『毎日新聞』1月13～16日[『輿論の法廷に訴ふ』玉口真造、1892年1月]

吏権党と選挙干渉上奏案[無署名社説]『毎日新聞』5月13日

選挙干渉上奏案の事実[雑報]『毎日新聞』5月20日

[「尺振八先生の伝」の前書き]『毎日新聞』11月29日

真相を表明して世人惑を解く[署名社説]『毎日新聞』12月1日

民党政治の方針[社説、11月21日演説筆記於厚生館]『毎日新聞』12月6～10日[『民党政治の方針』1893年刊]

党報の発刊を機として我党の進退を明にす『立憲改進黨々報』1、12月20日

国務大臣出席請求に関する政府覆牒に就て[28日議会演説筆記]『立憲改進黨々報』1、12月20日

1893(明治26)年

輸出税全廃を賛成する理由[社説、1月6日演説筆記]『毎日新聞』1月10～15、17日

[雑報記事「立憲改進黨大懇親会の景況」中の「答詞」]『毎日新聞』1月21日

立憲的運動[1月20日演説於錦輝館]『立憲改進黨々報』5、2月2日

故山田武甫氏を弔する演説[雑報]『毎日新聞』3月5、7日

鉄道比較線路決定延期の決議案『立憲改進黨々報』6、3月5日

[雑報記事「自治研学会」中の「自治研学会編輯胡薩克東方侵略史の巻主に書す】『毎日新聞』4月14日
過去の事跡未来の希望[3月19日演説於神田錦輝館]『立憲改進黨々報』9、5月2日
随見随記[叢談]『毎日新聞』7月16日
名流内治雑居談『読売新聞』11月9、10日
改革家の本領[社説、11月5日演説筆記於立憲改進黨政談大演説会]『毎日新聞』11月11、12、14～17日

1894(明治27)年

果して解散の理由とするに足る乎『立憲改進黨々報』24、1月24日
議會解散の理由書を読む[無署名社説]『毎日新聞』2月14日～18日、20日⑤
条約励行及監獄費に関する島田三郎氏の意見[社説]『毎日新聞』2月25、27日[「条約励行及監獄費に関する意見」と改題、25日掲載文を収録]⑤
司法権の独立を如何にせん『立憲改進黨々報』27、4月22日
[記事「島田三郎氏とメール記者」中のジャパンメール記者プリンクリー宛島田書簡]『毎日新聞』5月31日
島田氏のプリンクリー氏に答る書[島田書簡]『郵便報知新聞』6月1日
国運の起伏『立憲改進黨々報』31、8月7日
臨時議會に対する吾人の覚悟『立憲改進黨々報』32、10月20日
講和の条件[無署名社説]『毎日新聞』10月31日、11月1～3、6、7日[修正して、『東洋治安策』(毎日新聞社、1895年1月28日)の「付録」に収録]
臨時議會の觀察『立憲改進黨々報』33、11月5日

1895(明治28)年

東洋治安策の巻首に書す『毎日新聞』1月5日(『東洋治安策』(毎日新聞社、1895年1月28日)収録)⑦
講和の条件『立憲改進黨々報』37、1月25日[『東洋治安策』(毎日新聞社、1895年1月28日)から転載]
祝辞『国家教育』34、2月5日
平和を口にする英人に告ぐ『精神』4-14、3月1日
日清勝敗の原因『立憲改進黨々報』40、3月10日
島田三郎君演説大意[於小野梓十年祭]『中央時論』11、4月10日
朝鮮に対するの急務『立憲改進黨々報』40、7月3日
日本ノ位置『中央時論』14、7月10日
戦後經濟談『読売新聞』8月7日
台湾論『太陽』1-9、9月5日
現内閣及自由党[無署名社説]『毎日新聞』11月15日⑤[「伊藤内閣及自由党」と改題]

1896(明治 29)年

責任問題提出の時期『日本人』14、1月20日

責任問題の真相及争点『太陽』2-2、1月20日

今後の外交『日本人』18、3月20日

台湾に於ける阿片問題『太陽』2-8、4月20日

阿片問題[雑報、5月11日阿片問題演説会於神田青年会館の演説]『毎日新聞』5月17、19、22日

島田三郎氏の宗教談[談]『日本宗教』1-11、5月20日

懐旧談『同方会誌』1、6月22日

先進学院卒業式演説『宗教』58、8月5日

日本現時の宗教道徳界[先進学院卒業式演説抄録]『日本宗教』2-2、8月20日

沐猴之冠『日本人』25、8月20日[『清風明月』(大学館、1899年8月5日)収録]

来世紀の三大勢力『太陽』2-17、18、8月20日、9月5日

伊藤侯の成功及失敗『太陽』2-19、9月20日

*余の宗教観『日本宗教』[2-3、9月20日]

責任問題提出の時期『日本人』27、9月20日

内閣破裂の真原因 財政計画の大紛乱[無署名社説]『毎日新聞』9月2、3日[「伊藤内閣破裂の真原因」と改題⑤]

新内閣に望む[無署名社説]『毎日新聞』9月24日⑤

『大日本』に寄す『大日本』1-1、10月20日

支那に対する政策何以『日本人』29、10月20日

樺山内相に呈す[公開状]『毎日新聞』10月20日⑤

再び書を樺山内相に呈して内閣大臣の責任を論ず[公開状]『毎日新聞』10月23日⑤[「再び樺山内相に呈して内閣大臣の責任を論ず」と改題]

[故佐々木三郎「詔勅論」の前書き]『毎日新聞』11月13日

台湾阿片論[談]『大日本』1-2、11月15日

本業と娯楽[演説筆記]『龍門雑誌』102、103、11月15日、12月15日

解惑 政府及政党『太陽』2-23、11月20日

松方内閣の運命『日本人』33、12月20日

1897(明治 30)年

其来らざるを待む勿れ 我の之を待つあるを待む『太陽』3-1、1月5日

今日に処するの道『日本人』37、2月20日

特定航路保護案の失計[署名社説]『毎日新聞』3月23日

- 商工業者の代表なきを憾む[論説、S・S生]『毎日新聞』3月28日
- 中央子は能く我を知る者なり[署名社説]『毎日新聞』3月30日
- 足尾銅山鉍毒事件[無署名社説]『毎日新聞』4月13日[西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、1979年)収録]
- 鉍毒事件を概論して併せて関係者の躁妄を戒む[署名社説]『毎日新聞』4月20日
- 営業税の弊害、俗吏の悪風『太陽』3-9、5月5日
- 行政の紊乱『日本人』42、5月5日
- 三たび停止派の躁妄を戒む[無署名社説]『毎日新聞』5月13日
- 営業税の弊害、俗吏の悪風『東京経済雑誌』876、5月15日[『太陽』から転載]
- 会計検査院を規す『日本人』43、5月20日
- 営業税に関して全国の実業家諸君に告ぐ[署名社説]『毎日新聞』5月22日
- 営業税に関する社告『毎日新聞』5月29日
- 台湾の形勢を論じて当局の警省を促す[無署名社説]『毎日新聞』6月9日
- 俗吏の大体に通ぜざるを嘆ず[営業税法に関する島田宛三沢常次郎書簡の前書き]『毎日新聞』6月11日
- [権藤震二「台湾時事通論」の前書き]『毎日新聞』6月12日
- [「堀織部正の自殺に関したる諸説」談]『旧幕府』1-3、6月20日
- 同方会賛成の旨趣『同方会誌』4、6月21日
- 社告[経済雑誌社田口卯吉・読売新聞社増田義一との連名]『毎日新聞』7月15日
- 色を正して当局者に警告す[署名社説]『毎日新聞』7月27日
- 教育界の刷新[社説、演説筆記於帝国教育会]『毎日新聞』7月28日～31日、8月1、3日
- 何ぞ速に断ぜざる拓務省を廃せよ[署名社説]『毎日新聞』8月4日
- 台湾の失政を掩蔽すべからず『太陽』3-16、8月5日
- 山田奠南君に答ふ『日本人』49、8月20日
- 経済雑誌記者に質す[S・S生署名「寄書」]『毎日新聞』9月7日
- 偶筆『日本人』51、9月20日
- 幕末の外交[9月11日、東京専門学校科外講義]『早稲田学報』7、8、9月25日、10月25日
- 台湾鉄道を論じて松方大隈二伯及高嶋氏の反省を望む[署名社説]『毎日新聞』10月17日
- 高野問題は政治的問題なり[署名社説]『毎日新聞』10月23日
- 赤心を披きて国民に訴へよ[署名社説]『毎日新聞』10月24日
- 近日の政変に就て『日本人』54、11月5日
- 中央子に与ふ[署名社説]『毎日新聞』11月6日
- 進歩党代議士会に於ける島田三郎氏の演説[社説、演説筆記]『毎日新聞』11月7、9、10日[「進歩党代議士会に於ける演説」と改題⑤]

新聞雑誌記者懇親会に於ける島田三郎氏の演説[社説、演説筆記]『毎日新聞』11月21日
労働問題所感『社会雑誌』7、11月30日
社会と医学との連鎖『済生学舎医事新報』59、11月
現内閣に関する管見『世界之日本』2-12、12月1日
労働世界の発刊を祝す『労働世界』1、12月1日
高野氏歓迎会に於ける島田氏の演説[社説、演説筆記]『毎日新聞』12月4日
職工の修養[演説筆記]『労働世界』2~4、12月15日、1898年1月1、15日、
松方首相に呈す[公開状]『毎日新聞』12月24日 [「松方首相に呈する書」と改題⑤]
島田三郎君音楽談[談]『おむがく』75、12月25日

1898(明治31)年

職工の修養『実業之日本』8、9、1月20日、2月25日
聯立内閣の通弊『太陽』4-2、1月20日
井上蔵相に呈する書[公開状]『毎日新聞』1月23日⑤
天職と天爵『基督教新聞』754、1月28日
内閣責任を軽んじ公人信義を忘る『日本人』60、2月5日
高野事件を論じて田川氏に答ふ[署名社説]『毎日新聞』2月13日
再び報知記者田川氏に告ぐ[署名社説]『毎日新聞』2月16日
嗚呼フルベツキ先生逝けり『毎日新聞』3月15日
大阪堂島事件に関し毎日新聞の記事に於ける真相[署名社説]『毎日新聞』3月27日
貴族院議員児島惟謙君に呈する書[公開状]『毎日新聞』4月2日
帝都祝賀会に関して軽浮者流を戒む『毎日新聞』4月8日
島田氏の意見[社説欄]『労働世界』10、4月15日
労働と資本の調和『労働世界』11、5月1日
政治意見一斑[署名社説]『毎日新聞』5月6、7日
伊東対万朝事件及本社に關係の真相[署名社説]『毎日新聞』5月8日
島田三郎氏の演説[上奏案の説明演説於5月30日衆議院]『毎日新聞』6月3日
高等商業学校紛議の顛末[署名社説]『毎日新聞』6月19日
経済研究会の挙動を難す[署名社説]『毎日新聞』6月24日
*高等商業学校紛議の顛末『龍門雑誌』121、6月[『渋沢栄一伝記資料』第26卷(渋沢栄一伝記資料刊行会、1959年)収録]
議會解散前後の政況『太陽』4-14、7月5日
政界の現況 吾人の覚悟(横浜市政況報告会に於て)[社説、演説筆記]『毎日新聞』7月17、19~21日

政局私観『日本人』71、7月20日

全国小作人諸君に檄す[社告、田口卯吉と連名]『毎日新聞』7月28日～8月30日

東洋治安策『大日本』3-4、5、7月、8月

演説被告事件の顛末を世に公にして兼て告発者に告ぐ[署名社説]『毎日新聞』9月13日

体育と品行[演説於日本体育会]『太陽』4-19、9月20日

処世感『大日本』3-6、9、9月、10月

佐久間貞一君を悼む『毎日新聞』11月8日[豊原又男編『佐久間貞一小伝』(秀英舎庭契会、1904年11月3日)収録]

不言の声『毎日新聞』11月9日

佐久間貞一君逝く『労働世界』24、11月15日

故佐久間貞一君を悼む『実業之日本』18、11月28日

不言の声『実業之日本』18、11月28日

ハミルトン伝『太陽』4-24、25、12月5、20日[「ハミルトン」と改題し『近世世界十偉人』(文武堂、1900年2月28日)収録]

地租問題に関して日本子に告ぐ[署名社説]『毎日新聞』12月17日

議事の順序財政の整理[署名社説]『毎日新聞』12月18日

憲政本党を脱せし理由 政友諸君に告ぐ[署名社説]『毎日新聞』12月23日⑤[西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、1979年)収録]

軍費節約の爲めに陸軍予算を返却して政府の再考を求むる動議[12月24日衆議院予算会議演説速記録抄]『毎日新聞』12月27日

進退の顛末を記して朋友の間に答ふ[署名社説]『毎日新聞』12月29日

1899(明治32)年

嗚呼海舟先生逝けり[署名社説]『毎日新聞』1月24日

佐久間貞一君を悼む『同方会誌』10、2月18日

国民の沈思を促す[無署名社説]『毎日新聞』4月18日～5月8日[『日本と露西亜』収録、④]

最貴の職分[講演筆記於沼津]『長崎県教育雑誌』83、4月25日

鶴城居士に答ふ『毎日新聞』5月18日

政党の現状、其経歴、其意思其争点[無署名社説]『毎日新聞』5月18、19日⑤

結局の問題『太陽』5-11、5月20日

私立学校令を難す『太陽』5-12、6月5日

対外思想の変化[無署名社説]『毎日新聞』7月8～12、14、26～29日、8月1、3、5～7、9、11～13、16、18、20、22、26、27、29日、9月4、6、8、10、12、14、16、18、20、24、27、29日、10月7、9、11、20、24、26、29日、11月4、6、12、16日[『政教概論如是我観』収録、④]

海外ニ於ケル日本殖民政策『殖民時報』70、9月16日

経済的日本の将来[演説於三田理財協会]『慶応義塾学報』19、20、9月20日、10月14日

*商業教育事歴談[「談話」]『龍門雜誌』137、10月

故佐久間貞一君追悼碑『印刷雜誌』9-10、11月28日

政治学研究と道德『学窓余談』3-5、12月1日

公娼の非義を論ず[署名社説]『毎日新聞』12月14日[西田長寿編『明治文学全集91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、1979年)収録]

教育倶楽部発会式に於ける演説『教育公報』230、12月15日

上奏案議事の経過[無署名社説]『毎日新聞』12月17、19～21日⑤

將軍ブース及び救世軍[無署名社説]『毎日新聞』12月27日[「ブース將軍と救世軍」と改題②]

1900(明治33)年

世紀の過渡一代の思想『太陽』6-1、1月3日

匏庵遺稿序『毎日新聞』1月19日

[「成功秘訣及失敗原因」]『学窓余談』4-2、2月1日

解惑[署名社説]『毎日新聞』2月8日⑤

嗚呼外山博士逝けり[署名社説]『毎日新聞』3月10日[村松忠雄編『名家乃遺影』(東洋社、1901年12月9日)収録]

社会の通弊人心の反射[無署名社説]『毎日新聞』3月21、24、25、26日②[「虚偽の弊風を排す」と改題]

故「ウキラアド」嬢追悼紀念会に於て[演説]『婦人新報』35、36、3月25日、4月25日

子孫万全の計[談]『週刊新聞太平洋』1-16、4月16日

殖民新論[無署名社説]『毎日新聞』4月21～24、26～29日[『日本と露西亞』(警醒社書店)収録、④]

国字国語改良の方法[談]『週刊新聞太平洋』1-18、4月30日

漢学及び儒学『太陽』6-6、5月1日

漢学の積義[「論説」]『東洋哲学』7-5、5月5日

故外山正一君小伝『同方会誌』15、6月9日[3月10日付『毎日新聞』から転載]

十九世紀の思想『太陽』6-8、6月15日

廢娼論[演説筆記於廢娼演説会]『東京毎週新誌』882、7月20日

日露の二国互に誤解を去れ[無署名社説]『毎日新聞』7月30日～8月2日[『日本と露西亞』収録]④

伊藤公と新政党[無署名社説]『毎日新聞』8月5、7、8日⑤

公娼否認論[無署名社説]『毎日新聞』8月19、20、23、26、29日、9月2、4、11、13、20～22、24、27、29日、10月1、12、19日[「故島田三郎氏『公娼否認論』」と題して『廓清』17-9～18-1(1927年9月10日～1928年1月10日)に転載]

立憲政友会[無署名社説]『毎日新聞』8月28、30、31日⑤

善後策を提議せよ[無署名社説]『毎日新聞』9月1日[『日本と露西亞』附録「対清意見」に収録]
北清局面轉換の必要[無署名社説]『毎日新聞』9月3、5～7日[『日本と露西亞』附録「対清意見」に収録]
軍隊慰問に関する意見[談]『新人』1-3、9月10日
政府当局の根柢誤謬[無署名社説]『毎日新聞』9月14日
立憲政友会(再び)[無署名社説]『毎日新聞』9月18、19日⑤
所謂支那保全の意義[無署名社説]『毎日新聞』9月26日[『日本と露西亞』附録「対清意見」に収録]
軍備改革私見『太陽』6-12、10月1日
東京市民に檄し兼ねて同業記者諸氏に寄语す[無署名社説]『毎日新聞』10月25日[「東京市民に檄す」と改題⑤]
娼婦に就て[9月23日矯風会演説於銀座会館]『婦人新報』42、10月25日
剛健の気を鼓して帝国の滅亡を救ふべし[無署名社説]『毎日新聞』11月8、10、15、16日⑤
[雑報記事「星享の書簡」中に11月16日付星享宛島田三郎書簡]『毎日新聞』11月17日[「星氏との往復及び田口氏の演説」と改題⑤]
星享氏と島田氏(書面の往復)[11月16、17日付星享宛島田三郎書簡]『報知新聞』11月18日
[雑報記事「社長対星享」中に11月17日付星享宛島田三郎書簡]『毎日新聞』11月18日[「星氏との往復及び田口氏の演説」と改題⑤]
邪説をして真相を紊らしむること勿れ[無署名社説]『毎日新聞』11月21、22、24日⑤
改革者の二資格 明と断『警世』3、11月25日
居る所に力を尽くせ[「青年心得」]『警世』3、11月25日
故文学博士大西祝君を憶ふ『毎日新聞』11月28日
曖昧の増税[無署名社説]『毎日新聞』12月6～8日⑤

1901(明治34)年

朝鮮経営京釜鉄道[無署名社説]『毎日新聞』1月27～30日[「朝鮮経営論」と改題、『日本と露西亞』第3版「附録」に収録]
社会の腐敗救治意見[名家叢談]『太陽』7-3、3月5日
立憲政の危機[3月19日衆議院演説速記]『毎日新聞』3月22日
東洋計略の方針[無署名社説]『毎日新聞』4月17、18、20～22日
満州問題[名家叢談]『太陽』7-5、5月5日
婦徳論『汲泉』3、5月23日
社会主義及社会党[無署名社説]『毎日新聞』7月12～17、19～25、28～31日、8月1～3、5～13、20、21、25～27日、9月1、2日[『社会主義概評 世界之大問題』(警醒社、明治34年)収録、⑥]
政府の新事業整理問題『太陽』7-9、8月5日
夏の感念『警世』20付録、8月15日

社会主義の概評『早稲田学報』57、8月25日
徳川氏初期の士風『日本人』146、9月5日
モルモン教を評す[無署名社説]『毎日新聞』9月5、7、8日
社会の渴望せる小説[談]『新声』6-3、9月15日
風俗改良問題[「名家叢談」]『太陽』7-12、10月5日②
基督教に対する余の観念[「名家時論」]『警世』24、10月25日
余が立場よりの禁酒論『国の光』100、10月26日
祝辞『国の光』100、10月26日
学校以外の教育『教育界』1-2、12月3日
群兇暗中に闘ふに似たり 内閣政党の態度を評す[無署名社説]『毎日新聞』12月22日

1902(明治35)年

孔夫子と儒教[「論説」]『東洋哲学』9-1、2、1月1日、2月1日
二十世紀と日本国民『太陽』8-1、1月5日
政界漫評[談]『太平洋』3-1、1月6日
[大日本文章学界編『能文大成』への序文]『毎日新聞』2月16日
足尾銅山鉍毒処分意見『東京経済雑誌』1120、2月22日
愛国婦人会に対する将来の希望『愛国婦人』3、4月25日
*読書説教則『学鏡』60、5月
大日本の建設は民族的ならざるべからず『太陽』8-9、7月5日
今日の政党[談]『太平洋』3-27、7月7日
将来之宗教『新仏教』3-8、8月1日(新仏教徒同志会編『将来之宗教』(新仏教徒同志会出版部、1903年)収録)
我民族の三大欠陥『中央公論』17-8、8月1日
名士の武士道観『武士時代』1-7、10月20日
家庭教育と禁酒の関係『婦人新報』66~69、10月25日、11月25日、12月25日、1903年1月25日
国民の大欠陥[無署名社説]『毎日新聞』10月29~31日、11月1、2、4日[「労働尊重論」と改題②]
大蔵省翻訳局の学生[「懐旧談叢」]『教育時論』635、12月5日
政界の現状を評す[無署名社説]『毎日新聞』12月18~23日⑤

1903(明治36)年

「自己私淑の偉人」「遭逢の五傑」『成功』1-4、1月1日
政局概評『太陽』9-2、2月1日

横浜市民諸君に告ぐ『毎日新聞』2月14日⑤[西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』筑摩書房、昭和54年]収録)

横浜市民諸君に告ぐ『横浜貿易新聞』2月14、15日

政府も政党も共に虚偽なり[演説於本郷座]『東京経済雑誌』1172、2月28日

謹で同情の諸君に謝す『毎日新聞』3月8日

横浜選挙の側面観『太陽』9-4、4月1日

遊郭移転論[演説大要於土佐堀青年会館]『基督教世界』1025、4月16日

禁酒及び婦人に就て[演説要領於矯風演説会]『婦人新報』72、4月25日

国情と国産[演説大要於成民会]『成功』2-2、5月10日

毎日新聞の過去及び未来[署名社説]『毎日新聞』5月12日[西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、1799年)収録]

鉅毒問題解決意見『毎日新聞』5月26日[足尾鉅毒問題解決期成同志会意見書、委員総代：島田三郎・巖本善治・本多庸一・田中弘之]

英語と英国民『英文新誌』1-1、6月25日

政界の漫評[「名家談叢」]『太陽』9-8、7月1日

自殺の罪悪[無署名社説]『毎日新聞』7月6～8日②

女子と美術『愛国婦人』33、7月10日[加藤教栄編『四十大家現代女性観』(日高有倫堂、1911年5月13日)収録]

弔辞[於潮田千勢子葬儀]『婦女新聞』166、7月13日

美術論『をんな』3-7、7月15日

弔辞[於潮田千勢子葬儀]『婦人新報』75、7月25日

第十八議会の報告『横浜貿易新聞』8月1、2、4～9、11日

英語と英学民[自由英学発会演説会講演筆記於帝国教育会講堂]『秋田県教育雑誌』133、134、8月31日、9月30日

徳川慶喜公『同方会誌』24、9月1日

模範的東京市[訪問記者による談話筆記]『東京』1、9月17日

露恐るゝに足らず[「論説」]『警世』65、9月25日

劇界の巨人団洲逝けり『新人』4-10、10月1日

行政整理問題『太陽』9-11、10月1日

平民的音楽の説[9月25日「音楽奨励会」演説筆記(於中央会堂)]『成功』3-1、10月10日

日本と露西亜の序『文章界』1、10月18日

特別広告 御礼『毎日新聞』10月19日

大久保一翁[「史伝」]『警世』67、10月25日

殖民と婦人[談]『婦女新聞』181、10月26日

国歌に対する私見『こゝろの華』6-11、11月1日

国土基礎と民族基礎『新人』4-11、11月1日

我家の楽事『家庭之友』1-8、11月3日[羽仁もと子編『名流座談 家庭問題』(内外出版協会、明治40年11月1日)収録、⑦]

〔十月の帝国ホテルに於ける懇親会の演説〕『毎日新聞』11月11日

当代小観録『中央公論』18-11、12月1日

猝かに経済政策を變ずるの危険『日本人』200、12月5日

1904(明治37)年

文芸雑話『新小説』9-1、1月1日

国民の素養『中央公論』19-1~3、2月1日、3月1日、4月1日

国民的後援[2月14日演説於帝国ホテル]『毎日新聞』2月17、18日

対露時局談[談]『新人』5-3、3月1日

貿易政策に就いて『一橋会雑誌』4、3月14日

日本が戦争に勝つた所以『愛国婦人』50、3月25日

御認諾被下候様願上候『手紙雑誌』1-1、3月26日

戦後二十年の予想『太陽』10-5、4月1日

嶋田三郎氏演説(開国五十年記念会に於ける)『時事新報』4月2日

廃娼事業と慈愛館『婦人新報』84、4月25日

人道と愛国心[演説於成民会]『福音新報』461、4月28日

朝鮮経営の方針『日本人』210、5月5日

戦後の日本『六合雑誌』281、5月15日

国民の發揮[演説筆記於中央会堂]『成功』4-6、6月1日

簡易なる社交の工夫『家庭之友』2-3、6月3日[羽仁もと子編『名流座談 家庭問題』(内外出版協会、明治40年11月1日)収録、⑦]

日露戦争の真相[「名家演壇」]『婦人衛生雑誌』175、6月25日[岡野幸江編『アンソロジー女と戦争』<女性のみた近代Ⅱ別巻2>(ゆまに書房、2005年)収録]

対露時局談『新人』5-3、7月1日

三条の弁惑『太陽』10-10、7月1日

良風の好被『六合雑誌』283、7月15日

対韓問題の根本義『日本人』216、8月5日

国民膨張の基礎[演説(於婦人矯風演説会)]『福音新報』482、9月22日

マクレーン嬢を傷む『毎日新聞』9月22日

女子の修養『女鑑』14-12、11月1日

学問＝出身＝目的＝手段『経済世界』30、11月28日

愛国の説[「教界時論」]『正教新報』576、12月1日[『大日本』1-1から全文転載]

救済者の資格[演説梗概]『婦人新報』92、12月25日

1905(明治38)年

女子教育の変遷『女学世界』5-1、1月1日

清潔の年『家庭之友』2-10、1月3日

現代学生の七短八長[「現代学生気質」]『新公論』20-2、2月1日

輸入米課税の悪影響『太陽』11-2、2月1日

嗚呼蒼海副島先生逝けり[無署名社説]『毎日新聞』2月2日

元老輩の放縦『婦人新報』94、2月25日

朝鮮に対する日本人の職分『新人』6-3、3月1日

選挙権と兵役[無署名社説]『毎日新聞』3月24日

対韓政策の基礎『太陽』11-5、4月1日[伊藤銀二編『現代日本之思想界』(文禄堂、1907年6月10日)収録]

鼎軒氏を哭す[署名社説]『毎日新聞』4月16日

法学博士田口卯吉君履歴『東京経済雑誌』1282、4月22日

鼎軒氏を哭す『東京経済雑誌』1282、4月22日[『毎日新聞』から転載]

戦後改革意見『中央公論』20-5、7、5月1日、7月1日

田口君の性格[4月29日演説要旨(於経済学協会主催田口卯吉追悼会)]『東京経済雑誌』1285、5月13日

職業選択の必要条件『実業世界太平洋』4-12、6月15日

孔子論『経済世界』35、6月28日

戦後経営の第一義(選挙権の大拡張)『太陽』11-10、7月1日

戦後経営と選挙権拡張論『時代思潮』18、7月5日

日本人の能力『日本人』414、7月5日

遠征の軍人諸君に告ぐ『新人』6-8、8月1日

美の反面と醜の反面[無署名社説]『毎日新聞』8月 日

美の反面と醜の反面『婦人新報』100、8月25日[『毎日新聞』社説を平易な文体に改め転載]

謙遜の徳[談話]『国民評論』7、9月1日

東西家庭の長短『家庭之友』3-6、9月3日

戦後の新聞記者[談]『成功』7-4、9月15日

許嫁の夫が戦死したる場合の一身の処置[談]『をんな』5-9、9月15日

極端から極端[「戦後之文壇」談]『新小説』10-10、10月1日

早婚を戒む[「理想の花婿」]『ムラサキ』1-4、10月1日

拡張されたる日英同盟『日本人』420、10月5日

国民自省の時『新人』6-11、11月1日

*人心の国事に及ぼす影響『基督教青年』1-3、11月

島田三郎氏談片[談]『婦人新報』103、11月25日

戦後の経営[「名家訪問」談]『実業世界太平洋』4-23、12月1日

事実としての報徳社『人道』8、12月25日[留岡幸助編『二宮翁と諸家』(人道社、1906年)収録]

廃止論[演説於経済学協会例会「米穀輸入税の可否に関する討論」]『東京経済雑誌』1318、12月30日

故法学博士田口卯吉君履歴『同方会誌』29、12月31日

*学生と自治国民『基督教青年』1-4、12月

1906(明治39)年

法王使節歓迎に就き所感を述ぶ[「羅馬教皇特派大使オーコンネル閣下歓迎演説会」]『新理想』6、1月1日

戦後の三大要務『太陽』12-1、1月1日

時代の要求より見たる美点[「日本婦人の美德」]『婦人世界』1-1、1月3日

平和の新年を迎ふ『好学雑誌』31、1月5日

出獄人保護と原氏の事業『毎日新聞』1月11日

列強の発展と帝国の将来『日本人』427、1月20日

日本旧時の政党談『大国民』2、3、3月25日、4月5日

清国と外教[無署名社説]『毎日新聞』4月13日

婦人の感化力『なでしこ』6-6、4月15日

ハリス監督の手翰『毎日新聞』4月16日

鼎軒会大会に於ける談話概要[4月13日鼎軒会大会於向島八百松楼上]『東京経済雑誌』1334、4月28日

家庭談片[談]『新小説』11-5、5月1日

島田氏の演説 議会の大勢(五月三日横浜座に於ける報告演説)『横浜貿易新報』5月5~10日

戦後経営の通説『太陽』12-9、6月15日

[「名家演説集—第一島田三郎氏」]『ときのこゑ』252、6月15日

醜業婦と国民の品性[6月1日演説大要於満韓婦人問題大演説会]『中外日報』6月17日

時勢の波『中学文芸』1-4 臨時増刊<新美益知編『名士の中学時代』読売新聞日社>6月20日⑦[読売新聞社編『名士の学生時代』(岩陽堂書店、1915年)収録]

矢野翁を弔ふ『毎日新聞』6月22日

改題の辞[署名社説]『東京毎日新聞』7月1日

国民の品位一道德上に於る日本人 戦後経営は人にあり『ときのこゑ』253、7月1日
新聞記者は如何にして為るべき乎[談]『成功』9-4、7月1日
国際状態の変移『日本人』438、7月5日
高島秋帆と江川坦庵(史話)『新人』7-9、9月1日
余が書齋生活[談]『成功』9-6、9月1日
良妻賢母『ムラサキ』2-9、9月1日
日本語学校設立の必要『太陽』12-13、10月1日
上野東照宮社確定請願趣意書(草案)[榎本武揚・田口乾三との連名]『東京毎日新聞』10月9日
清国の改革『同仁』5、10月10日
政界精神の復活[演説筆記「市民大会演説」]『基督教世界』1208、1209、10月25日、11月1日
婦人矯風会の事業『婦人新報』114~116、10月25日、11月25日、12月25日
倫理教育の孤立[談]『日本教育』12、11月21日
時代と教育[講演筆記於信濃教育会大会]『信濃教育』242、11月25日
子に美服せしむる親[談]『日本教育』13、11月26日
教育に対する雑感[演説筆記]『兵庫県教育会報』207、12月1日
何故不肖の子が多いか[談]『日本教育』16、12月11日

1907(明治40)年

政党の大勢『太陽』13-1、1月1日
議会と政党『評論』135、1月1日
時代教育[講演大要於東京市教育会講談会]『東京市教育会雑誌』28、1月10日
二面の読める女[談]『日本教育』24、1月21日
時代と教育『富山県教育会雑誌』20、1月26日[『信濃教育』242(1906年11月25日)から転載]
Young Men's Cristian Association『開拓者』2-2、2月1日
本邦新聞の沿革『早稲田学報』144、2月1日
南満鉄道問題『大国民』25、2月5日
満鉄の一大問題[署名社説]『東京毎日新聞』2月5日
議会の近状を論じて国民の猛省を促がす『評論』137、2月5日
嗚呼奥村女史逝けり[署名社説]『東京毎日新聞』2月9日
過去の政党界[「名家談叢」]『太陽』13-3、2月20日
青年の活動『開拓者』2-3、3月1日
Christian men in public service『開拓者』2-3、3月1日

波多野伝三郎君の逝去を悼む[追悼演説於東京経済学協会 2月例会]『東京経済雑誌』1378、3月9日

国運と風俗『婦人新報』119、120、3月25日、4月25日

国運と風俗[無署名社説]『東京毎日新聞』4月7日

世界的ブース大将来らんとす『人道』24、4月15日

〔「新聞記者招待会演説」〕『ときのこゑ』272、4月15日

人物需要の趨勢『同志社時報』31、4月25日

世の志士仁人に訴ふ[三宅雄二郎との連名による谷中村救済寄付金募集広告]『東京毎日新聞』4月26日

鼎軒会春季大会演説[4月13日第3回鼎軒会於富士見軒]『東京経済雑誌』1385、4月27日

政界革新の急務『新時代』2-5、5月1日

ブース大将を送る[無署名社説]『東京毎日新聞』5月23日②[「ブース大将論」と改題]

政界革新の時機『太陽』13-8、6月1日

故矢野二郎君を憶ふ[「名士の名士観 故矢野二郎翁」]『実業之日本』10-13、6月15日

如何なる人を選挙すべき乎[談]『成功』11-6、7月1日

酒禍の実験[5月1日演説於日本禁酒同盟会大会]『国の光』169、170、7月10日、8月10日[『酒禍の実験』(明治40年9月、銀座会館)収録、②]

実験せられたる酒の禍[5月1日講演速記於基督教青年会館]『衛生新報』72~74、76、明治40年8月1日、9月1日、10月1日、12月1日[第2回以後のタイトルは「実験せられたる酒の害」]

人格の修養『開拓者』2-8、8月1日

法律ト常識『日本法政新誌』11-10、12、9月1日、11月1日

特性發揮の根本義『成功』12-3、9月10日

決せんとして決する能はざりし余が禁酒断行実験[「克己の実験」]『実業之日本』10-19、9月15日

論文と精神『文章世界』2-10、9月15日

大日本地名辞書序『東京毎日新聞』10月6日[吉田東五『大日本地名辞書』(富山房、1907年10月13日)収録]

人智あるが故に貴からず[談摘要]『東京市教育会雑誌』37、10月10日

大日本地名辞書序『日本及日本人』469、10月15日

余は如何にして一日を送る乎『家庭之友』5-8、10月18日

新島先生に対する余の追憶[新島襄論]『中央公論』22-11、11月1日

武士道に就て[談]『東亜の光』2-11、11月1日

現代青年の欠点[談]『理財新報』1-1、11月3日

女子の自覚奮励を望む『なでしこ』8-1、11月15日

政府万能主義の迷想『太陽』13-16、12月1日

1908(明治 41)年

- 理想の社会『開拓者』3-1、1月1日
- 祝辞[『歴史地理』百号発刊]『歴史地理』11-1、1月1日
- 常識と中庸[講演]『科学世界』1-4、1月5日
- 実行的教育[1907年11月9日講演筆記於東京市教育会講談会]『東京市教育会雑誌』40、1月10日
- 増税否認論『日本及日本人』476、1月15日
- 千葉医学専門学校修徳部に於ける島田三郎君の演説[速記録]『千葉教育雑誌』89、90、1月15日、2月15日
- 財政の救済・国民の義憤『太陽』14-4、3月1日
- 明治政史の新気運『江湖』1、3月20日
- 井伊大老の追憶[井伊大老記念会講演概要]『江湖』1-1、3月20日
- 余が歴史に依つて受くる教訓[文責在記者]『衛生新報』80、4月1日
- 寄鼎軒会[鼎軒会宛島田三郎書簡]『東京毎日新聞』4月13日
- 鼎軒会大会[鼎軒会宛島田三郎書簡]『東京経済雑誌』1435、4月18日
- 〔「工場法討議」の中〕[1907年12月22日社会政策学会第1回大会第1日於東京帝国大学法科大学第32番教室]『工場法と労働問題』[社会政策学会論叢 第1冊]社会政策学会編・同文館、4月30日
- 津久居彦七君を推薦す[「雑報」記事「津久居氏の推薦状」中の推薦状]『東京毎日新聞』5月8日
- 〔「青年と修養に対する諸名士の意見」]『道』1、5月11日
- 国民活動の一新紀元(談)『太陽』14-8、6月1日
- 総選挙に現われた二特徴『日本及日本人』485、6月1日
- 大きな事を遣る時代ではない[「若し予をして実業家たらしめば」]『実業世界太平洋』7-12、6月1日
- 〔記事「神戸実業協会」中の演説大要於神戸実業協会晚餐会]『東京毎日新聞』6月5日
- 〔「如何にして青年の元気を恢復す可きか」]『実業之世界』5-3、7月1日
- 政党の将来に就て『太陽』14-10、7月1日
- 如何に夏を暮すべきか『家庭之友』6-4、7月3日
- 青年の修養[談]『早稲田学報』161、7月5日②
- 偶感[6月1日講演、文責在記者]『神戸高等商業学校校友会報』18、7月14日
- 余が廿有余年間の冷水浴実験『実業之日本』11-15、7月15日
- 楽観乎悲観乎[『日本及日本人』第1回講演]『日本及日本人』489、8月1日
- 〔「我『道』友の宗教観」]『道』4、8月1日
- 〔『新天地』に対する諸名家の同情と賛成]『ユニヴァーサリスト』3-8、8月3日
- 時代の要求する人物『実業之横浜』5-15、8月10日
- 経済界の未来『成功』14-5、9月10日

平田新内相[「現代人物評論(九) 平田内相論」]『中央公論』23-10、10月1日
理想的教育者の禁酒『早稲田学報』164、10月5日
[「左の十五名の紳士は如何なる書を読み如何なる方法を以て精神を修養し如何なる人物に敬服しつゝある歟」]『商工世界太平洋』7-22、10月15日
開国初期米人友情の回顧[「論説」]『龍門雑誌』245、10月25日
[「無職に苦しむ各学校卒業生は如何にして世に処すべきか」]『実業之世界』5-7、11月1日
孔子教[「東西の思想」]『道』7、11月1日
[「故十文字信介君」]『農事雑報』127、11月20日
織物税は国家経済上何故に悪税なる乎[11月19日速記]『工業之大日本』5-12、12月1日
孔子教の新研究『成功』15-2、12月1日
世界平和の新時代列国競争の新形式『太陽』14-16、12月1日
禁酒は税源を拓む[10月9日演説(於日本禁酒同盟会大会)]『ときのこゑ』311、12月1日[「禁酒は税源を拓む」銀座会館、明治42年2月刊②]
戦後の日本[11月4日、惟一館日曜説教]『六合雑誌』336、337、12月1日、1909年1月1日
日本大百科辞典の発刊[11月22日演説筆記於大隈邸三省堂出版日本大百科辞典披露の園遊会]『東京毎日新聞』12月1、2日
日本社会事彙序『東京経済雑誌』1471、12月26日
愛読者諸君に告ぐ『東京毎日新聞』12月31日[西田長寿編『明治文学全集 91 明治新聞人文学集』(筑摩書房、昭和54年)収録]

1909(明治42)年

桂侯論[「首相桂侯論」]『中央公論』24-1、1月1日
祝辞並断片『日本及日本人』500、1月1日
ルート氏の意気[談]『護教』911、1月9日
[「名士の見たる名士 新渡戸稲造君」]『新公論』24-2、2月1日
故春汀鳥谷部鉄太郎君[談]『太陽』15-2、2月1日
吾の目に映ずる孔夫子[講演於東亜協会]『東亜之光』4-2、3、2月1日、3月1日
教師と父兄『家庭之友』6-11、2月3日
乗竹氏追悼会に於ける島田三郎君の演説『東京経済雑誌』1476、2月6日
教育者の無勢力なる理由[談「教育社会不振の理由」]『内外教育評論』3-2、2月8日
[「三悪税廃止案の初合戦 議会に於ける最初の弁論」中の帝国議会演説筆記]『東京毎日新聞』2月9日
孔子教の新研究『心の友』5-2、2月10日
[「憲法記念と三税廃止」中の「島田氏の談」]『東京毎日新聞』2月11日
三税廃止論の精神『太陽』15-4、3月1日

- 宗教対教育問題[談話梗概筆記「名家談叢」]『基督教世界』1332、3月18日
- 政界の近時[「寄書」]『東京毎日新聞』3月22日
- 政治家たらんとする青年の為に『新国民』9-1、4月1日
- [「島田三郎氏の祝辞」]『ときのこと』319、4月1日
- 島田君の書簡[鼎軒会宛島田三郎書簡]『東京経済雑誌』1486、4月17日
- 婦女独特の活動舞台『家庭雑誌』2-5、5月1日
- 虚飾政治の暴露[「韓国統監政治批評」]『太陽』15-6、5月1日
- 幕末史談[4月22日講話]『尚古』4-1、5月9日
- 中野君は相反したる両面の性格を有す[「現代人物合評五 中野武當論」]『商工世界太平洋』8-11、5月15日
- 青年学生に告ぐ『新国民』9-3、6月1日
- 政界腐敗の真相『太陽』15-8、6月1日
- 高商問題を論ず『中央公論』24-6、6月1日
- 官僚的精神の発現『東京エコー』2-11、6月1日
- 処世道[「青年訓」]『道』14、6月1日②[「聖哲偉人の行跡」と改題]
- [談・無題]『護教』935、6月26日
- 開国の二大恩人(岩瀬修理と井伊直弼)『東京毎日新聞』7月1日
- 横浜開港と井伊元老『横浜貿易新報』7月1日[「横浜の随想 明治編」<横浜の文化 14> (横浜市教育委員会、1990年)収録]
- 井伊直弼の銅像『東京毎日新聞』7月13~18、20~23日
- 祝辞[1500号記念]『東京経済雑誌』1500、7月24日
- 基督教の実業家の模範[談]『護教』940、7月31日
- 理想郷『開拓者』4-8、8月1日
- 仕合せな人と呼ばれし人は実は世の厄介物なる[「名家訓言」]『鉄道青年』1-3、8月1日
- 教談の主意[「教談」]『道』16、8月1日
- 政界縦断は夢=島田氏の悲観説=[談]『横浜貿易新報』8月11日
- 嶋田氏の時局談『大阪毎日新聞』8月26日
- A Christian Japanese Cadbury『開拓者』4-9、9月1日
- 政党の不振[「論壇」]『東京毎日新聞』9月1日
- 選挙干渉問題[「論壇」]『東京毎日新聞』9月8日
- 日糖事件の禍源 政府の情実[「論壇」]『東京毎日新聞』9月10日
- 厄介者と大恩人『実業之横浜』6-19、9月15日[51頁に掲載]
- 政友会の真相[「論壇」]『東京毎日新聞』9月18、19日

有為の青年は唯斯くのごとき書を扱ひて唯斯くの如くに読む可きのみ『商業界』12-4、10月1日
愛国者と基督教『新人』10-10、10月1日
政友会の現在と未来[「政友会論」]『中央公論』24-10、10月1日
先づ良き人を作らざるべからず『鉄道青年』1-5、10月1日
悪税廃止の根本理由[「論壇」]『東京毎日新聞』10月25、26日
藤公の追懐遭難の影響[「論壇」]『東京毎日新聞』11月16～18日
刻下の問題及び其解釈[「論壇」]『東京毎日新聞』11月26～28日
故ハリス夫人と神道家[談]『護教』959、12月11日
議会の重要問題[「論壇」]『東京毎日新聞』12月24～26日

1910(明治43)年

青年会員諸君に告ぐ『鉄道青年』2-1、1月1日
基督教の過去及び将来[1月9日演説於銀座教会]②
満鉄に対する米国の提議[「論壇」]『東京毎日新聞』1月13日
理想の顕現[「講壇」演説摘要]『護教』964、1月15日
予算概評[「論壇」]『東京毎日新聞』1月30、31日
理想の顕現『開拓者』5-2、2月1日
雄弁の必要条件[『毎日新聞』より転載]『雄弁』1-1、2月1日
合同の経行及び談判不調の真相[「論壇」]『東京毎日新聞』2月21日
島田氏の言明[談]『横浜貿易新報』3月4日
過去の四十年[「論壇」]『東京毎日新聞』3月21日
喜楽座の大演説[4月5日報告演説「廿六議会の経過と政界の大勢」於横浜市喜楽座。演説記事中の演説要旨]
『横浜貿易新報』4月7日
立憲政治家の要格[演説於明治大学雄弁会]『雄弁』1-4、5月1日②
学制案を評す[「論壇」]『東京毎日新聞』5月13、14日
不良少年と社会改良『開拓者』5-6、6月1日
[「学制改革案評論」談]『太陽』16-8、6月1日
余が実験せる酒の被害『鉄道青年』2-6、6月1日
海軍問題[「論壇」]『東京毎日新聞』7月26、27日
井伊直弼の銅像に就て『同方会誌』33、7月30日
朝鮮合邦問題[「論壇」]『東京毎日新聞』8月2日
東京電燈会社は何故実業之世界社に爆裂弾を投ぜられたるか『実業之世界』7-16、8月15日
織物税廃止論『日本経済新誌』7-10、12、8-1、2、8月18日、9月18日、10月3日、18日

合併後の財政[談]『読売新聞』8月29日
拿破崙の常識的観察『学生』1-6、9月1日
山陰道人士に告ぐ[講演筆記於松江市榮徳座]『山陰新聞』9月9、10日
治水問題[「論壇」]『東京毎日新聞』9月24～27日
韓国併合と国民の責任『新人』11-10、10月1日
禁酒の励行は法律の力よりも一家の主婦の力を要す[演説の一部]『婦人新報』160、10月15日
朝鮮統治策『朝鮮』33、11月1日
常識ある人間を造れ[談「教育策を如何に講ずべきか」]『内外教育評論』4-11、11月1日
[「桂内閣更迭の時機及び之が後継者」]『大国民』29、11月20日
補欠選挙概評『横浜貿易新報』12月6、7日
[「対英関税問題について」]『時事評論』5-10、12月7日

1911(明治44)年

日米戦争説を評す[「論壇」]『東京毎日新聞』1月8～11日
友人の見たる小林氏[「雑俎 故小林富次郎氏の事ども」]『新人』12-2、2月1日
日本憲政不振の因 如何にして憲政の完備を期し得るか『大国民』31、2月1日
殉難者合祀の請願と維新史料の編纂[「論壇」]『東京毎日新聞』3月19～21日
無用の長物なり[「東洋拓殖の利弊」]『新日本』1-1、4月3日
孔夫子観『漢学』2-4、4月5日②
盟友田口君の性行[4月15日演説於東京経済雑誌社主催田口卯吉追悼演説会於本郷区中央会堂]『東京経済雑誌』1591、4月22日
之れ実地の問題也[概略]『婦人新報』166、4月25日
廃娼は実地の問題[演説要領於矯風演説会]『婦女新聞』571、4月28日
之れ実地の問題[「矯風問題」]『新女界』3-5、5月1日
断の一字あるのみ[演説於婦人矯風会主催公娼問題演説会]『婦女新聞』575、5月26日
政局と二大問題 財政と外交[「論壇」]『東京毎日新聞』5月28～31日、6月1、4～6日
青年を惨殺する悪風俗『青年』9-6、6月1日
社会政策に就て[談]『朝鮮』40、6月1日
廃娼は空論に非ず実地の問題也『鉄道青年』3-6、6月1日
小村外務大臣論[談]『太陽』17-9、6月15日
公娼制度の否認『婦人新報』168、171、6月25日、9月25日
日米戦争説を排し海軍拡張に反対す[談]『大国民』37、7月1日
宗教問題に就て『道』39、7月1日

空論に非ず実地の問題也『廓清』1-1、7月8日

島田三郎氏の演説[7月2日演説大要]『神戸高等商業学校学友会報』49、7月19日

廓清会組織の趣意[7月8日演説於廓清会発会式]『廓清』1-2、3、8月1日、9月1日②[『廓清会組織の趣意』廓清会本部、1912年刊]

時代改革論[談]『大国民』38、8月1日

公娼制度の打破[於廓清会演説会]『雄弁』2-8、8月1日

平和の時代は果して到来すべきや『実業世界』49、8月3日

煤煙の危害と其予防法[「論壇」]『東京毎日新聞』8月13、14日

三雄の対外政略[講演於国史学会]『国学院雑誌』17-8、9、8月15日、9月15日

土佐の奇景浦戸湾[「名流夏の氣焔」]『日曜画報』1-35、8月27日

日米問題関係[8月22日「島田氏報告演説」於銀行集会所]『横浜貿易新報』8月31日、9月1、2、4、5日

書籍は此如に選択し此如に読破せよ『青年及青年団』2-9、9月1日

[「内閣更迭観」]『大国民』39、9月1日

世界共通の道德『道』41、9月1日

予の政党論[談]『雄弁』2-9、9月1日

[記事「島田新渡戸兩名士の大演説」中の9月10日演説概要(於ハワイ総領事館)]『日布時事』9月11日

世界共通の道德『上毛教界月報』155、9月15日[『道』41(9月1日)から転載]

[「軍備問題に関する名家の意見」]『海事新報』273、9月15日

嶋田代議士氏の談『新世界』9月17、18日[17日付は雑報記事「嶋田新渡戸二名氏着桑」の中、18日付は「嶋田氏の談話(二)」と題して連載]

島田氏の演説[9月19日演説筆記(於サンフランシスコ)]『新世界』9月21～23日

島田氏の演説[9月18日演説筆記於サンノゼ日本人ホール]『新世界』9月21～24、27日

同胞諸君に告ぐ[9月20日演説大意(於オークランド)]『新世界』9月22～24日

興味ある談話[9月21日談]『新世界』9月23日

旅行中の談話[談]『新世界』9月28日

[記事「島田氏歓迎晩餐会」中の演説大要(26日於スタクトン)]『新世界』9月28日

嶋田氏の演説[9月27日演説大要於スタクトン]『新世界』9月29、30日、10月1日

日本の社会状態 外国人には話されない楽屋の話[17日講話(於サンフランシスコ)]『布哇殖民新聞』9月29日

島田氏の演説[10月1日演説大要(於フレズノ)]『新世界』10月4～6日

島田氏の演説[10月6日演説大要於ロサンジェルス]『新世界』10月9日

島田氏の談話[10月14日於北米邦字記者大会(第二日)懇談会]『新世界』10月15日

視察の感想[10月28日演説]『新世界』10月29～31日

民族興廢の原因[10月29日演説大意於ポスト街白人組合教会]『新世界』10月30日
[記事「王府に於ける島田氏」中の談]『新世界』10月31日
嶋田氏演説大意[30日演説於オークランド]『新世界』11月1日
六大問題に関する島田氏の意見[10月25日、在米日本人会主催の各地代表者会における意見梗概(於サンフランシスコ)]『布哇殖民新聞』367、11月25日
[記事「島田代議士来る」中の11月18日講演大要(於デンバー)]『新世界』11月25～28日
[「デンバー 便り(廿二日)」の記事「懇談会」中の談話大要]『新世界』11月27日
Japan's Message to Amerika 『The Oriental Review』2-2、11月
是れ実地の問題也『婦人新報』173～175、11月25日、12月25日、1912年1月25日
島田氏演説の大要[11月28日演説(於ニューヨーク青年会館)]『紐育新報』24～26、12月2、9、16日
人種問題解決の道[演説要領(於リフォームド教会)]『新世界』12月19日
人種問題解決の道[12月17日演説要領(力行会主催演説会於リフォームド教会)]『紐育新報』12月19日

1912(明治45・大正元年)

發展せむとする日本 生活状態の改変[口述筆記]『新世界』1月1日
米国民の真意 島田三郎氏帰朝談『実業之横浜』9-2、1月11日
米国観察一斑[「論壇」]『東京毎日新聞』1月24日～30日
日米戦争論と米国の輿論『日曜画報』2-5、1月28日
米国視察一斑『開拓者』7-2、2月1日
親しく視察したる日米問題の真相[演説]『実業之世界』9-3、2月1日
米国は日本人を歓迎す『大国民』44、2月1日
日米間の雲霧を一掃せよ『六合雑誌』373、374、2月1日、3月1日
日米国交の将来と米人の対日感情『東西事報』9、2月5日
在米同胞視察談[1月25日演説於銀行俱樂部晩餐会]『銀行通信録』316、2月20日
[「名士の雅号」]『二六新報』2月25日
米国観察一斑『法律新聞』773、777、778、2月29日、3月20、25日
効果もなく害もなし[「内務の三教会同計画(現代各方面に於ける諸家の意見)」]『六合雑誌』374、3月1日
予の観たる排日熱と同胞の發展『海外之日本』2-4、4月1日
政治家と労働問題『社会政策』2-5、4月1日
理想の代議士を得んが為には議政権の尊重を要す[「総選挙と国民の覚悟」]『新公論』27-4、4月1日
[「官僚政治乎政党政治乎」]『新日本』2-4、4月1日
初陣は近づけり『世界之日本』3-4、4月1日

西洋文明の代表者と東洋文明の代表者『道』48、4月1日

二十世紀劈頭の問題『早稲田講演』1-13、4月1日

二十世紀劈頭の問題とは何か[「科外講義 島田三郎氏の講演」要旨]『早稲田学報』206、4月10日

熱血漢ガンベツタ[「七大偉人」]『学生』3-5、5月1日

米国に対する日本人の覚悟『成功』23-1、5月1日

国民を欺く勿れ『大国民』47、5月1日

無信仰の悲惨[4月7日演説於道会大会]『道』49、5月1日[林碩次編『現代名家信仰の告白』(東京崇文館、1913年)、新聞伝道会編『求道者のために』(警醒社書店、1918年)、林有隣編『名士の信仰 修養訓話』(キング書房出版部、1924年)、警醒社編輯部編『求道者読本』(警醒社、1937年)収録]

[「日々の糧」]『道』49、5月1日

議会と財政[「反対党の見たる現内閣の政治」]『東西事報』12、5月5日

議会改造の好機運[「立憲政体と総選挙」]『東西事報』12、5月5日

米国観察の一斑『実業之横浜』9-14、16、17、5月11日、7月1、11日

社会の基礎[2月26日演説於静岡市若竹座]『廓清』2-5、6、5月15日、6月15日②

選挙界廓清論[「論壇」]『東京毎日新聞』5月30日～6月2日

星亨論『太陽』18-9、6月13日

鼎軒田口先生伝の批評[6月5日付島田三郎書簡]『東京経済雑誌』1651、6月15日

相続税廃止は不可『松陽新報』6月27日

先づ人を得るにあり[談「画一教育の弊を救ふの途」]『内外教育評論』6-7、7月1日

初等教育に関して識者権力家に望む『教育研究』100、7月1日

選挙界廓清論『大国民』48、7月1日

渡米の諸感[於一高主催一高・三高連合演説会]『雄弁』3-7、7月1日

社会の基礎『基督教世界』1506、7月25日

如何にして生活難を救済すべき乎『大国民』49、8月1日

民族的平和的膨張論[「我が植民政策」]『東洋時論』3-8、8月1日

[「如何にして友友会と対抗する大政당을起すべき」]『新日本』2-8、8月1日

盛徳大業を追懐し奉る[「論壇」]『東京毎日新聞』8月5、6日

米国外交の疎策[「論壇」]『東京毎日新聞』8月12～16日

移民問題[「論壇」]『東京毎日新聞』8月31日、9月1～7日

社会の基礎と愛国者『開拓者』7-9、9月1日

ブース大将の思ひ出[談]『新人』13-9、9月1日

[「誠心をこめたる弔辞のかずへ」]『ときのこゑ』401、9月1日

社会の基礎[於青年会館]『雄弁』3-9、9月1日

- 〔桂公と内大臣侍従長〕『大正公論』2-9、9月5日
近時雑感〔談〕『基督教世界』1513、9月12日
社会之基礎『婦人新報』183～185、9月25日、10月25日、11月25日
移民問題『新世界』9月27～30日、10月1、3～7、9日
畸形的国防の来歴を叙して海軍拡張に及ぶ『海之世界』6-10、10月1日
俗論的批判を許さず〔談〕『実業之横浜』9-25、10月1日
至誠至直の一生〔乃木將軍論〕『新公論』27-10、10月1日
乃木大将及夫人の自刃〔論壇〕『東京毎日新聞』10月1～7日
軍備よりは先づ教育問題〔軍備拡張の必要ありや〕『東洋時論』3-10、10月1日
その境遇と場合とを考へよ〔談「乃木大将の薨去を如何に伝ふべきか」〕『内外教育評論』6-10、10月1日
青年の政治思想〔文責在記者〕『農業世界』7-13、10月1日
財界革命の機近づけり『大正公論』2-10、10月5日
〔百六十七名士の明治記念事業に対する断案〕『実業之日本』15-22、10月15日
自業自得〔論壇〕『東京毎日新聞』10月24日～28日
至誠至直の一生〔談叢〕『救済』2-10、10月25日
築港と京浜運河〔東京湾の築港問題〕『海之世界』6-11、11月1日
横浜港衰頹の原因及び其繁栄策『海之世界』6-11、11月1日
慢性的財政難〔談〕『実業之横浜』9-28、11月1日
自殺—その境遇及び動機よりの観察〔自殺は認すべきか否認すべきか—内外諸家自殺観—〕『新日本』2-11、11月1日
革新勢力の中心力〔大正国民の覚悟〕『大国民』52、11月1日
公娼廃止と国民性『大正公論』2-11、11月5日
維爾遜氏の当選〔論壇〕『東京毎日新聞』11月9日～12日
手段を誤りし星亨〔星亨論〕『世界之日本』3-11、12月1日
エリオット博士の日本学制改革意見に就いて〔談〕『早稲田講演』2-8、12月1日
大正の維新〔談〕『北国新聞』12月8日
時局概評〔論壇〕『東京毎日新聞』12月18日～22日
禍根妥協政治に在り『無名通信』5-1、12月30日

1913(大正2)年

- 夢より醒めよ〔青年の問題に就て〕『開拓者』8-1、1月1日
最近世界の三大事件より受けたる教訓〔談話筆記〕『基督教世界』1528、1月1日
*迎年の覚悟『山陰日日新聞』1月1日

合衆国大統領ウオシントン『新日本』3-1付録、1月1日
健康の保全『鉄道青年』5-1、1月1日
立憲思想の鼓吹『東亜之光』8-1、1月1日
婦人の任務[講演筆記於婦人道の会]『道』57、1月1日
愛嬌ある駄々[12月26日談]『読売新聞』1月2日
政界の宿題[「論壇」]『東京毎日新聞』1月11日～13日
偉い人の母親『女学世界』13-2、1月15日
島田氏時局談『横浜貿易新報』1月22日
事実に解党乎[談]『報知新聞[夕刊]』1月23日
政界トラスト打破『読売新聞』1月27日
政変と元老と政友会と『新日本』3-2、2月1日
五領袖の告白[記事中に談話「脱党の事情を明かにす」と、河野広中らの連名による「現下の政局に対する吾人同志の所見を告白す」を含む]『横浜貿易新報』2月1日
市民の態度一決—島田代議士招待会席上全市精鋭彦として起つ[2月1日島田代議士招待会での演説(於横浜市港町濱港館)]『横浜貿易新報』2月2日
島田氏の告白 提携の経路[談]『読売新聞』2月2日
最後の勝利は善政に在り[「脱党名士の告白」]『大正公論』3-2、2月5日
真面目な政変を要す[談]『日米[The Japanese American News]』2月7日
世界の巨人[「附録 名士のニコライ観」]『正教時報』2-4、2月14日
西園寺公望論『大正公論』3-3、3月5日
嶋田代議士の書翰 故国政変の真相に関して『日米[The Japanese American News]』3月27日
[「島田三郎氏の演説(二月一日)」]『政況報告』3月(桜井良樹編『立憲同志会史料集3』 柏書房、1991年)
星亨『新日本』3-4付録「民権史上の十二名士」、4月1日
誰か是れ政治界の中心勢力たるものぞ[「権兵衛内閣論」]『大正公論』3-4、4月5日
加州の排日立法を論じて米国民に告ぐ『国民新聞』4月17日
重大なる問題[「我国将来の人口問題」]『サンデー』223、4月20日
政変の真相『新世紀』1-1、5月1日
私は善い事をしたと思ふて居る[「臭い者の言ひ草」]『世界之日本』4-5、5月1日
境遇より生れたる内閣[「山本内閣の内閣振りを評す」]『中央公論』28-6、5月1日
西侯退隠後の政局『大正公論』3-5、5月5日
三十三種排日案の真相『大正公論』3-5、5月5日
世界の大大勢と同化せよ[「植民政策と国民教育」]『サンデー』225、5月18日
*男女の分業『淑女画報』2-7、7月1日

無能な外交『中央公論』28-8、7月1日

地方遊説所感[7月7日講演速記於立憲同志会茶話会]『同志会叢書』3、8月20日

外交に新生命を与へしカニング『学生』4-10、9月15日

青年の時代病[「諸名士の現代青年論」]『大正公論』3-10、10月5日

呪ふべき現代教育の弊流『武侠世界』2-14、10月10日

[「諸名士の桂公観」]『東洋時報』181、10月20日

混沌の二字[「来るべき政界の分野」]『サンデー』236、11月2日

桂公論[「諸名士の故桂公爵論」]『大正公論』3-11、11月5日

後藤男と新政党[談]日米[The Japanese American News]』11月25日

二つの問題[「国民生活と政治問題」]『サンデー』239、12月21日

朋党国政を紊る『大正公論』4-1、12月27日

1914(大正3)年

選挙権拡張と選挙区制問題『世界之日本』5-1、1月1日

雄弁の力は確信にあり『雄弁』5-1、1月1日

御大典と国民の心得『松陽新報』1月2日

宗教家と提携を望む[「大正三年を迎へて」]『廓清』4-1、1月15日

特権は歴史の遺物なり『国家及国家学』2-2、2月1日

此の二問題[談]『トヤマ』118、2月11日

群馬県廃娼二十年記念回祝辞『廓清』4-2、2月15日

海軍収賄事件の経過と其責任[「海軍問題の縦論横論」]『新日本』4-3、3月1日

海軍粛清と上院[談]『東京朝日新聞』3月1、2日

梅檀の薫り 名士の修養時代[談話筆記]『大正公論』4-3、3月5日

問題の攻究と討議[「第三十一議会概観」]『サンデー』244、3月14日

松田氏の政治生涯[談、「喪へる政友会の両巨柱」]『経済時報』136、4月1日

妄説と濫説と精説[談]『成功』27-1、4月1日

藩閥栄華最後の幕[「第三十一議会合評」]『大正公論』4-4、4月1日

根本問題[演説於麹町道の会]『道』72、4月1日

人格の威力『新日本』4-5、4月3日

分を乱るな[「(一)日本の婦人は如何に変わりつつあるか(二)其の如何に変わることを希望するか」]『読売新聞』4月3日

軍閥の跋扈跳梁[談]『東京朝日新聞』4月9日

薩閥及び朋党打破の快挙と其追撃戦『世界之日本』5-5、5月1日

事実は明白なり[「議政壇上の論戦」]『世界之日本』5-5、5月1日
大隈内閣と善政[「大隈内閣と論調」]『朝鮮公論』2-5、5月1日
海軍問題小観『貿易』15-5、5月15日
矛盾せる[「犬養氏近状論」]『太陽』20-7、6月1日
切に犬養氏の反省を望む『世界之日本』5-6、6月1日
時運と正義『農業世界』9-8、6月1日
政治と宗教の職分『道』74、6月1日
時局問題と国民道徳『早稲田講演』4-6、6月1日
政友会の窮境とその将来[「日本政党の現状及将来」]『太陽』20-8、6月15日
母の感化力は無限『婦人新報』204、6月28日
日本人対欧米人[談]『松陽新報』7月1日
母親の感化『新女界』6-7、7月1日②
現内閣に対する要望の二三『世界之日本』5-7、7月1日
時代の要求と大隈内閣の使命『中央公論』29-7、7月1日
時局問題と国民道徳『雄弁』5-7、7月1日
大正の新気運『廓清』4-7、8、7月15日、8月15日
予が敬仰する史上の人物『世界之日本』5-8、8月1日
言論廢れて金力[「遊説今昔観」]『太陽』20-10、8月1日
英国首相アスキス氏『世界之日本』5-9、9月1日
斯くして国の生命を維持する大動脈を清めよ『実業之世界』11-18、9月10日
天祐利用せよ[談]『横浜貿易新報』9月14日
英国政界の花形ロイド・ジョージ『学生』5-10、9月15日
世界的大乱と日本の将来『世界之日本』5-10、11、10月1日、11月1日
世界大乱の前途と大和民族の覚悟『大正公論』4-10、10月1日
膠州湾に於ける經濟財政の一斑[「膠州湾經營論」]『朝鮮公論』2-10、10月1日
長所あつて短所ある人[「問題の外相加藤高明論」]『ナショナル』2-14、10月上旬
政治上より観たる自由廢業『廓清』4-10・11、10月15日
欧州大戦乱の日本に及ぼす影響[談]『成功』28-2、11月1日
時局概観『中央公論』29-12、11月1日
時局の真相と国民の由来『早稲田講演』4-11、11月1日
世界の制裁は表面には見えぬ『中学世界』17-5、12月1日
時局に際して教育家に告ぐ[談]『内外教育評論』8-11、11月1日

戦時と平和時代に於ける国民の覚悟『実業之布哇』3-11、11月17日
選挙、星亨、耶蘇[「忘れ得ざる事ども」談]『世界新聞』11月24、25日
恩威併行を要す[「青島占領善後処分に関する国論」]『早稲田講演』4-12、12月1日
統一思想と自由思想—過去二十五年間の政治思想の発達—『中外日報』12月4日
真に是朋党一掃の秋[談]『世界新聞』12月28日

1915(大正4)年

福沢諭吉翁[「世界十二偉人」]『少年倶楽部』2-1、1月1日
伝来の対露思想『太陽』21-1、1月1日
戦争と政治思想の発展—過去二十五年の回顧—『六合雑誌』408、1月1日
日本の国際的地位と現下の政情[談]『横浜貿易新報』1月2、3日
国民は自覚せり[談]『世界新聞』1月5日
真に言論の雄 河野新農商務大臣の公生活[談]『世界新聞』1月9日
時期尚早なり[「欧州出兵論の価値」]『外交』1-2、1月15日
大正四年を迎へて 昨年における政治界の回顧『廓清』5-1、1月15日
世界の大勢と今時の議會解散『第三帝国』29、1月15日
同志会と総選挙[談]『東京朝日新聞』1月28日
朋党の公罪を論じて天下に撤告す『新日本』5-2、2月1日
陋劣の数々[「政友会罪惡史論」]『世界之日本』6-2、2月1日
是れ過去の遺物のみ『世界之日本』[「国民党撲滅号」]6-3、3月1日
今回の選挙に就て[談]『第三帝国』36、4月5日
与党の義務と反対党の職分『世界之日本』6-5、5月1日
政戦の首途に臨んで所信を宣明す[文責在記者]『大日本』2-5、5月1日
花魁道中禁止請願書『廓清』5-5、5月15日
対支交渉は寧ろ成功[「対支交渉成敗観」]『経済時報』150、6月1日
世界に於ける日本『道』86、6月1日
奴隸制度の存する日本の社会『第三帝国』42、6月5日
内に求める慰楽『廓清』5-6、6月15日②
感情が強過る[「議會雑感」]『トヤマ』167、6月21日
世界の変局と将来の日本『世界之日本』6-7、7月1日
沼間守一君を憶ふ『雄弁』6-7、7月1日
議長と天命 三十六議會所感[談「随訪録」]『国民新聞』7月6日

精神的革新の時期『実業之布哇』4-8、8月1日
政道要義『世界之日本』6-8、8月1日
廓清会の見地より国民に御大典奉祝の準備を説く『廓清』5-9・10、10月1日
本位而道生『世界之日本』6-10、10月15日
風俗革新の急務『廓清』5-11、11月1日
現今我国の最大欠点は何か『道』91、11月1日
曰く是れ人の天性『雄弁』6-10、11月1日
御大典と芸妓問題に関する諸名士の檄文[安部磯雄・浮田和民らの署名になる檄文]『基督教世界』1675、
11月4日
破壊的維新より建設的維新へ『中外日報』11月18日
御大典参列の感想『廓清』5-12、12月1日
たゝかひの跡『廓清』5-12、12月1日
聖代の余沢『学生』6-13、12月1日
盛儀に陪して[「御大礼参列者感想録」]『新日本』5-12、12月1日
議会と議員『婦人世界』10-14、12月1日

1916(大正5)年

議会今昔の感『新日本』6-1、1月1日
農村経営と自治[講演於東京農業大学農友会弁論部主催御大典記念講演会]『大日本農会報』415、1月15
日
鼎軒君に対する追憶『東京経済雑誌』1834、1月15日
国威発展の真原因を尋ねて敢て大正国民の覚醒を促す『廓清』6-2、2月1日
案外平凡なる第三十七議会 醜悪百出の現状を打破して憲政の理想化を策せよ『朝鮮公論』4-2、2月1日
議長席から見た議会[談]『東京朝日新聞』2月29日
窮して通ずるを俟つのみ[「次の総理大臣は誰ぞ」]『一大帝国』1-1、3月1日
名実相伴ふを要す[談「華族制度改正論」]『一大帝国』1-2、4月1日
第三十七議会を評す『同志』1、4月15日
奴隷全廃の道義戦に起て[24日演説梗概於矯風会大会]『基督教世界』1699、4月27日
飛田遊郭新設反対陳情書『廓清』6-5、5月1日②
尾崎法相の公娼論を評す『廓清』6-5、5月1日
長野県補欠選挙の結果を見て『同志』2、5月15日
家庭に臨む私の理想『婦人週報』2-19、5月5日
歴史上より観たる我國民の海事思想『水産界』404、5月10日

- 警視庁の娼妓取締を評す『廓清』6-6、6月1日
- 婦人の自発と宗教[5月21日講演大要於東京基督教女子青年会]『女子青年界』13-6、6月1日
- 農村青年に何を望む乎『新修養』7-6、6月1日
- 隣国に対する帝国の使命『大陸』35、6月1日
- 創立五周年大会に臨みて 愈会員諸君の奮闘を促す『廓清』6-7、7月1日
- 国庫支弁は果して可なりや『内外教育評論』10-7、7月1日
- 政治家の妻[「妻としての資格」]『婦人公論』1-7、7月1日
- 三党首領の会同に就いて『同志』1-4、7月15日
- 避暑する青年諸君へ『一大帝国』1-7、8月1日
- 自然の關係に徴す[「日露協約成立」]『經濟時報』163、8月1日
- 教育対社会關係の側面觀『教育時論』1130、9月5日
- 惹きつけらるゝ文章[「現代名家文章大觀」]『日本及日本人』689、9月20日[『現代名家文章大觀』<資料集成近代日本語 形成と翻訳 第18巻>(大空社、2016年)収録]
- 同情の一端[8月2日演説(於神田錦輝館)、「南極探検賛成演説抄録」]『探検世界』10-6、9月
- 男女交際問題研究の必要『廓清』6-9・10、10月1日
- 習慣の教育[講話]『小学校』22-2、10月1日
- 農村振興の根本も人格[「修養と青年会」]『農業世界』11-13、10月1日
- 不可解なる政変『憲政』1-7、10月20日
- 暗中に光を投じたる内閣[「政治史上に於ける大隈内閣の意義」]『新日本』6-11、11月1日
- 刺戟と進歩『道』103、11月1日
- 敬虔真摯の生活『廓清』6-12、12月1日
- 世界的に永久的に『活動之世界』1-12、12月1日
- 男子の貞操[12月1日講演「一夫一婦と男子の貞操」大意、「よみうり婦人付録」]『読売新聞』12月3～5日
[(上)を『新聞集成大正編年史 大正五年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1976年)収録]
- 島田三郎氏曰[「結婚法の研究(十一)」談]『婦女新聞』864、12月8日

1917(大正6)年

- 大正六年を迎ふ『廓清』7-1、1月1日
- 現代の大洪水[講演大要]『女子青年界』14-1、1月1日
- 男女問題の解決『第三帝国』80、1月1日
- 自治改善の根本義『東京評論』67、1月1日
- [「共同改修工事に関する島田三郎氏の主張」]『東京評論』67、1月1日
- 戦後の大勢[「戦後研究」]『横浜貿易新新報』1月1、2日

軍備は正義の上に立てよ[談話筆記][「戦後は何うなるか」]『大阪毎日新聞』1月2日
平和に対する日本の要求『世界新聞』1月2日
帝国の世界的地位と其将来『廓清』7-2、2月1日
平和及戦争と国家の理想『開拓者』12-2、2月1日
所感[談]『東京毎日新聞』2月4、5日
[「禁酒の急先鋒」]『ときのごゑ』508、2月11日
寒泉岡田博士贈位の儀に関する島田三郎君意見書『江戸』5-3、2月19日
我が国民の欠陥[3月10日演説大意於矯風会]『護教』1336、3月16日
一夫一婦と男子の貞操『家庭と趣味』3-2、3月30日
国民の裁決を仰ぐ『一大帝国』2-4、4月1日
魏の曹操か蜀の孔明か『廓清』7-5、5月1日
選挙権大拡張の急務『実生活』9、6月1日
[「島田三郎氏の祝辞—婦人ホーム改築落成に際し」]『ときのごゑ』516、6月15日
新外交設置機関と私見『日本及日本人』707、6月15日
此の慣習は何処迄も続けて往つて頂きたい『稲友会雑誌』11、6月
寺内内閣辞職の秋『一大帝国』2-8、7月1日
大正五年度事業報告『廓清』7-7、7月1日
英雄は人を欺かず『日本及日本人』708、7月1日
我が対支外交の大失態 支那大に乱れんとす『第三帝国』86、7月10日
歴史をさへ偽る長州人『一大帝国』2-9、8月1日
国家経綸の基礎『廓清』7-8、8月1日
一大覚醒の機『東方時論』2-8、8月1日
The Time for Japan to awaken『平和時報』5-8、8月30日
半百年間の政勢概観『日本及日本人』714、9月20日
新政府に対する幕人の思慮『日本及日本人』714、9月20日
政治上より観たる家族制度『廓清』7-9・10、10月1日
青年と向上生活『向上』11-10、10月1日
自由国民の精神的發揚『第三帝国』89、10月10日
飛田貸座敷指定地取消に関する上奏文『廓清』7-11、11月1日
婦人と修養『道』115、11月1日
社会良心の發達『廓清』7-12、12月1日
只だ夫れ外交上の失敗のみ[「第四十議会に現はるべき重要政策問題」]『新日本』7-13、12月1日

1918(大正 7)年

- 年頭国民の猛省を促す『廓清』8-1、1月1日
- 人格茲に於て立つ 松平正信と井伊直弼『日本及日本人』721、1月1日
- 青年の飛躍と冒険思想『冒険世界』11-1、1月1日
- 雄弁の真意義[揮毫]『雄弁』9-1、1月1日
- 現内閣の無能、政党の墮落 国民の疾苦『第三帝国』91、1月10日
- 国民保健と廓清運動『廓清』8-2、2月1日
- 実業家と雄弁『実業之世界』15-3、2月1日
- 世界大戦の概評『道』118、2月1日
- 物的豊満と徳性の権衡『廓清』8-3、3月1日
- 東亜出兵論と対支政策『朝鮮及満洲』129、3月1日
- 露国潰乱の教訓[「時論」講演大意]『基督教世界』1797、3月21日
- 収賄問題批判『廓清』8-4、4月1日
- 節操蹂躪と法治国の試験『廓清』8-5、5月1日②
- 道会大祭所感[4月7日祝辞要領於道会大祭]『道』121、5月1日
- 警察改善の根本義[文責在記者]『日本警察新聞』440、5月21日
- 如何に平和を迎ふべき乎『廓清』8-6、6月1日
- 信義の眼に映ずる東洋政治家西洋政治家『大観』1-2、6月1日
- 先憂後楽の士[「東京市長としての北雷博士」]『中外新論』2-5、6月1日
- [「落成式祝辞」]『ときのこゑ』539、6月1日
- 進運に後るゝ勿れ『道』122、6月1日
- 大戦の結果如何[4月15日説話]『雄弁』9-7、6月1日
- Ôikusa no Ato o Imashimu 『ローマ字 Rômajî』13-6、6月1日
- ウイルソン君の二令息『戦事時報』5、6月
- 藩閥即軍閥『一大帝国』3-7、7月1日[発売禁止となったため、次号(3-8、1918年8月1日)に再掲載]
- 仏蘭西売国事件の教訓『廓清』8-7、7月1日
- 戦後の予想『道』123、7月1日
- 人格的政治の時代『廓清』8-8、8月1日
- 予の壇上生活『青年雄弁』3-8、8月1日
- 先づ根本思想を確定せよ[「出兵問題を中心として」]『大観』1-4、8月1日
- 独逸か米国か[「組織か解放か」]『大観』1-5、9月1日
- 遺伝と環境に就て『廓清』8-9・10、10月1日

涵養の源泉は国民指導の責任者[「如何にして国民の犠牲的精神を喚起せん乎」]『新時代』2-10、10月1日
新聞懐往事談[談]『大観』1-6、10月1日
此の事実を奈何にせん『護教』1416付録「伝道」、10月4日
内閣の更迭を評す『憲政』1-3、10月10日
無条件降伏まで『大観』1-7、11月1日
[記事「自治倶楽部総会」中の「島田氏の演説」]『横浜貿易新報』11月4日
友邦を疑はざれ[「講和問題と日本」談]『大阪朝日新聞』11月11日
秘密主義敗る[「大戦の終熄と日本」]『国民新聞』11月14日
[記事「憲政会祝賀会」中の「島田顧問演説」]『横浜貿易新報』11月20日
独逸敗亡の教訓『廓清』8-12、12月1日
積極的勇進主義[「大戦終熄す」]『実業之世界』15-22、12月1日

1919(大正8)年

戦後の世界と政治社会の大勢『開拓者』14-1、1月1日②
自由主義の勝利と戦乱の教訓—独逸敗戦の原因及世界的平和の閃き—『憲政』2-1、1月1日
根本的国民改造の時代『実業之世界』16-1、1月1日
女性の人格を認むべし[「英雄と美人」]『日本及日本人』747、1月1日
大戦の教訓[談]『道』129、1月1日
信念なくして雄弁なし[「討論法の新研究」]『雄弁』10-1、1月1日
選挙権拡張論『山陽新報』1月3日
文明改造の政治的方面『廓清』9-1、1月15日②
当然来るべき新分配問題『実生活』29、2月1日
独逸流と米国流『大陸』7-2、2月1日
[「禁酒の妨げ」]『婦女新聞』977、2月7日
徳性の伴はざる富は幸福を害ふ『ときのこと』556、2月11日
全人格的白熱[「現代日本を生命つけるは如何なる政治乎」]『新時代』3-3、3月1日
[「労働組合公認可否」]『労働及産業』91、3月1日
*国際連盟を歓迎す『横浜貿易新報』3月27～31日、4月1日
国際聯盟を歓迎す『廓清』9-3、4月1日
大英国の三星『大観』2-4、4月1日
合理の要求 外に強求し内に猛省せよ『道』132、4月1日
国際連盟を歓迎す『東京経済雑誌』2000～2003、4月12、19、26日、5月3日

- 思想問題[談]『二六新報』5月1日
- 国際連盟と人種問題『日本評論』96、5月1日
- A Japanese View of the League of Nations and Racial Discrimination『平和時報』7-5、5月30日
- 人種差別撤廃問題の要義『廓清』9-5、5月31日
- Welcome to the League of Nations『平和時報』7-6、6月30日
- 世界に於ける日本の地位『東京経済雑誌』創刊四十周年記念号、7月5日
- 朝鮮騒擾問題を論ず『廓清』9-6・7、7月10日
- 石坂君の意見書を読みて所感を述ぶ『護教』1458、8月1日
- 四皇帝の末路と大臣『大観』2-8、8月1日
- 国民の猛省を促す『道』136、8月1日
- 唯物思想の危機『廓清』9-8、8月10日
- 〔「小山代議士の葬儀」中の鼎浦小山東助追懐談〕『読売新聞』8月27日
- 身を殺して仁を成す『日本及日本人』766、9月20日②
- 再び朝鮮問題を訴ふ『廓清』9-9、9月25日
- 特に鮮人に告ぐ『廓清』9-9、9月25日
- 刻下の二大問題『廓清』9-9、9月25日
- 外蔑りを防得ず内国民の苦痛を晏如たり 国民は此内閣と絶縁せよ[9月23日演説要旨於横浜市松ヶ枝町
角力常設館]『横浜貿易新報』9月25日
- 新時代の海外発展[演説要領]『植民』4-10、10月1日
- 代議士小山鼎浦君を悼む『文化運動』107、10月1日
- 政治家としての鼎浦[記事「故小山鼎浦氏追悼講演会」中]『文化運動』107、10月1日
- 後藤男では駄目尾崎氏は大にやるだらう[「後藤尾崎両氏が帰つたなら」]『労働世界』4-10、10月1日
- *労働問題解決と禁酒[談]『新愛知』10月18日
- 朝鮮騒擾の由来『大観』2-11、11月1日
- 移民問題と我風俗『廓清』9-11、11月10日②[市川房枝編『日本婦人問題資料集成 第一巻 人権』(ドメ
ス出版、1978年)収録]
- 膠州湾問題の解決『廓清』9-11、11月10日
- 能代廓清会支発会式祝辞『廓清』9-11、11月10日[目次にないが18頁に掲載][鈴木裕子編『自由廃業運
動と廃娼連盟の創立』<日本女性運動資料集成 第8巻 人権・廃娼I>(不二出版、1996年)収録]
- 政界打破の鍵『日本及日本人』770、11月15日
- 駅屯土払下問題『横浜貿易新報』11月17、18日
- Land Problem in Korea『平和時報』7-11、11月30日
- 労働問題と禁酒運動『公論』1-3、12月1日

小山鼎浦の政治思想『六合雑誌』467、12月1日
憲法尊重の為に「普通選挙促進」談『大阪朝日新聞』12月7日
普通選挙論『廓清』9-12、12月10日
駅屯土払下問題一特に半政半商の弊に乗ぜんことを恐る一『廓清』9-12、12月10日
内外の失政[11月12日演説於臨時大会]『憲政』2-9、12月10日
選挙権拡張論『早稲田叢志』2、12月25日⑦
政治教育普及の急務『早稲田叢志』2、12月25日⑦

1920(大正9)年

普通選挙と促進運動『実業之世界』17-1、1月1日
回顧す、新年の演説『青年雄弁』5-1、1月1日
実行期に入れる普通選挙『大観』3-1、1月1日
禁酒問題に就て「雑録」『東亜之光』15-1、1月1日
普通選挙論[談]『道』141、1月1日
駅屯土払下げ問題(特に半政半商の弊に乗ぜんことを恐る)『六合雑誌』468、1月1日
平和と宗教『山陽新報』1月3日
大正九年を迎ふ『廓清』10-1、1月20日
社会改造と普通選挙問題『開拓者』15-2、2月1日
精悍の人杉中君[「杉中主幹追悼録」]『新時代』4-2、2月1日
禁酒は国運隆盛の基なり『ときのこゑ』580、2月11日
無理想の政治『廓清』10-2、2月25日
解散観 政治家としての信念を知るに困る[談]『大正日日新聞』2月29日
議会政治乎直接行動乎『実業之世界』17-3、3月1日
社会改造と普通選挙問題『日米[The Japanese American News]』3月25～30日
労働問題と禁酒[大正8年10月10日演説於日本禁酒同盟大会]『廓清』10-3、3月31日②
現内閣の暴政国民奮起の秋『実業之世界』17-4、4月1日
東洋의 白耳義가 되라[談]『東亜日報』創刊号、4月1日
主題は普通選挙[「特別議会に際して」談]『大阪朝日新聞』6月25日
反動来と反省『廓清』10-6・7、7月10日
一年志願兵制度撤廃論[談]『寸鉄』2-9、9月1日
余の見たる田中翁『中外新論』4-9・10[田中正造特集号]、10月5日
財界恐慌に対する觀察『廓清』10-10、10月10日

内台融和の根本問題『台湾青年』1-4、10月15日
内台融和之根本問題[漢文]『台湾青年』1-4、10月15日
誠即明、請ふ現在の実状を看よ『道』151、11月1日
慶応義塾発展の新機軸[談]『三田新聞』58、11月6日
日本の世界的孤立と其転期『廓清』10-11、11月10日
学資を造る為に[「名士の記者時代」]『東京朝日新聞』11月14日

1921(大正10)年

時代の一大病弊『京都日出新聞』1月1、2日
信念なくして雄弁なし『雄弁』10-1、1月1日
日米問題の将来『神戸又新日報』1月3日
終始一貫の主張[談]『東京朝日新聞』1月9日
酒害問題の範囲『ときのごゑ』604、2月11日
警察は国民の友である『警察協会雑誌』248、2月25日[『台湾警察協会雑誌』47、4月25日]
首相も亦興らん[談]『信州』3-3、3月1日
嫌はれた事実[談]『東京朝日新聞』3月20日
脱党理由[談]『東京朝日新聞』3月22日
精神の籠らぬ我国の議会政治[談]『東京朝日新聞』3月31日
*政界の油虫を百里の外に逐へ『信州』3-4、4月1日<県立長野図書館所蔵>
墮落暗黒の社会『廓清』11-3、4月1日
闇中に燦く曙光『廓清』11-4、4月10日②
政界の革新は国民の自覚に俟つ[車中談]『大阪朝日新聞』4月24日
[「余の弁論練習中最も苦心したる諸点」]『雄弁』12-5、5月1日
私財を掠め公金を横領し政商と親しむ『太陽』27-5、5月1日
政界革新論一類風上下に瀰満せる現下の政局を如何せん『日本一』7-5、5月1日
政界の現状を論じて国民教育家に訴ふ『内外教育評論』15-5、5月1日
道徳的基礎なき政治『道』157、5月1日
より自由の郷へ[3月14日演説於憲政會議員総会]『雄弁』12-5、5月1日
[「余の弁論練習中最も苦心したる諸点」]『雄弁』12-5、5月1日
時事寸観『東京日日新聞』6月8~17日
日米関係と対支外交『廓清』11-5・6、6月10日
軍備縮小問題[講話筆記]『基督教世界』1962、6月16日

風教は地に墜ちたり『中外新論』5-7、7月1日
 日米の外交関係『廓清』11-7、7月10日
 祝創刊一周年『台湾青年』3-1、7月15日
 祝創刊一周年[漢文]『台湾青年』3-1、7月15日
 軍備制限会議と世論『東京朝日新聞』7月15日
 刀圭界の偉人 佐藤進男[「日曜論壇」]『国民新聞』7月31日
 疑獄事件の予審調書暴露『廓清』11-8、8月10日
 避暑中の時事談 綱紀紊乱の責[談「軽井沢の名士」]『中外商業新報』8月22日
 日本に天祐あり 東京市政疑獄は綱紀肅正の警鐘 神戸労働争議は問題の序幕だ[談]『読売新聞』8月22日
 時事感『丁酉倫理会倫理講演集』229、9月1日
 進化の結果平和の実現『東亜の光』16-9、9月1日
 国際連盟雜感 世界平和に必要な道徳[談話筆記]『国際連盟』1-6、9月8日
 廓清会の十週年『廓清』11-9、9月10日
 時局所感[談]『東京朝日新聞』9月19日
 軍備縮小と平和問題[17日講演梗概於国際基督教徒連盟主催演説会]『基督教世界』1977、9月29日
 華府会議に対する余の希望[「華府会議と国民の覚悟」]『現代』2-10、10月1日
 政治家の節義と信念『雄弁』12-10、10月1日
 整理に名を籍る教育費減殺は暴政(談)『東京朝日新聞』10月9、11日
 華府会議と日本[談]『家庭週報』636、10月28日
 国民教育と国論の喚起『中外新論』5-11、11月1日
 教育の根本義に則れ[談]『内外教育評論』15-11、11月1日
 人心不安の反映[談]『東京朝日新聞』11月8日
 教育費整理の暴政『廓清』11-11、11月10日
 台湾青年諸君に告ぐ[10月16日講演於在京台湾留学生秋季例会。講演者校閱]『台湾青年』3-5、11月15日
 日
 この際批評は慎めよ[「原敬氏暗殺事件に就て」]『自由評論』9-1、12月1日
 華府会議の由来『廓清』11-12、12月10日
 告台湾青年諸君[漢文]『台湾青年』3-6、12月15日

1922(大正 11)年

国際連盟の思想が華府会議開催の基調となつた 最も重視すべきは根拠地問題[談]『小樽新聞』1月1日
 最後の勝利者『現代』3-1 付録「現代名士道話」、1月1日
 *華府会議の効果『世界公論』13-1、1月1日

- 軍備縮小と婦人の覚悟[「華盛頓会議の決議で軍艦の製造が制限され陸軍も縮小された暁こそ婦人の活動の時代」]『婦人世界』17-1、1月1日
- 台湾統治の改善を望む[1921年10月16日於在京台湾留学生秋季例会]『雄弁』13-1、1月1日
- 草莽私言 親民主義は我国本来の旧慣 赤坂御殿に対する私見[談]『東京日日新聞』1月2、3日[『大阪毎日新聞』1月4、5日]
- 軍備縮小と教育尊重『教育時論』1323、1月5日
- 外交家として立った侯の第一歩は長崎奉行に推された三十一歳の時[談]『読売新聞』1月6日[『新聞集成大正編年史 大正十一年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]
- 追想してさへ興味を唆る[談、「限侯重態と聞いて」]『東京日日新聞』1月7日
- 反省自覚の時『廓清』12-1、1月10日
- 侯の政界門出[談、「大隈侯の死」]『東京朝日新聞』1月11日
- 最近の大事業[談、「大隈侯を追懐して」]『京都日出新聞[夕刊]』1月14日
- 教育機会均等 節減軍費を利用せよ[談]『東京日日新聞』1月14、15日[(上)を『新聞集成大正編年史 大正十一年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]
- 告台湾青年諸君[漢文]『台湾青年』4-1、1月20日[『台湾青年』3-6の再掲載]
- 普選尚早の妄を弁ず[1月22日労働連盟主催普選大演説会演説要旨]『大阪朝日新聞』1月23日
- 普通選挙実施運動の第一線より 頑迷を嫌ふが如く暴力は飽く迄否定[談、「月曜付録」]『東京朝日新聞』1月30日
- 四国協約と今後の日本『開拓者』17-2、2月1日
- 長崎時代に発揮した青年外交家大隈侯の鮮かな手腕『実業之日本』25-3<大隈侯哀悼号>、2月1日
- *世界的大政治家[「大隈侯の薨去と世論」]『新極東』2月1日
- 遭難前後までの大隈侯[「大隈侯爵の生涯」]『大観』5-2、2月1日
- 大隈内閣の功績[「早稲田侯の追憶」]『大観』5-2、2月1日
- 侯を偉大ならしめし事件[「逝ける大隈侯」]『太陽』28-2、2月1日
- 荒涼たる教育界を顧みて『内外教育評論』16-2、2月1日
- 平和的精神の徹底的帰結『廓清』12-2、2月10日
- 酒は有為の人物を夥しく殺したり『ときのこゑ』628、2月11日
- 普通選挙の話[談]『婦女新聞』1134、2月12日
- 国有鉄道の目的皆無『鉄道』188、2月15日
- 政治改革としての普通選挙[「普選運動の再燃」]『解放』4-3、3月1日
- 当時に於ける改革論者[「政治家としての山県公」]『太陽』28-3、3月1日
- 華府会議における海軍制限問題[「華府会議の局内観、局外観」]『太陽』28-3、3月1日
- 持つべきものは女房なり[談]『雄弁』13-3、3月1日
- 奥・尾崎・島田三氏の車中談[談]『東京朝日新聞』3月6日

『旬刊朝日』の評判[談、「月曜付録」]『東京朝日新聞』3月6日
今期議会の一考察『廓清』12-3、4月1日
*普選実行の急務を論ず『大勢』1-1、4月
*逆境に処する途『奮闘』1-2、4月
宗教の社会化『廓清』12-4、5月1日
理想的選挙区を作れ『経済時報』215、5月1日[尾崎行雄、田川大吉郎との連名]
国民の自覚を要す[「議会改造の批判」]『表現』2-5、5月1日
宗教の社会化『道』169、5月1日
理想的選挙区を求む[尾崎行雄・田川大吉郎との連名]『東洋経済新報』998、5月6日
尚も居据りの魂胆は醜事の暴露を恐るゝ為[談]『東京朝日新聞』5月8日
教育問題に就き高橋総理に質す[談]『東京朝日新聞』5月24、25日[『大阪朝日新聞』5月27、28日]
日韓相互の真利益『亜細亜公論』1-9、6月1日
物質の尊尚と風俗の頹廢『廓清』12-5、6月1日
檻樓につままれたる憂国の精神—藤田留三郎の爆死—『現代』3-6、6月1日
虐待されたる我国の普通教育[「当面の教育問題」]『時事問題の研究』1-6、6月1日
座談哲学 私の米國觀『寸鉄』4-7、6月1日
普通教育の年限の延長と学制の刷新『丁西倫理會倫理講演集』238、6月1日
[「お次はどんな内閣を どんな首相を」]『読売新聞』6月7日
台湾統治の方針を改めよ 附たり我植民地統治策を論ず『週刊朝日』1-17、6月25日
現内閣に何も期待されぬ『中外新論』6-7、7月1日
其義を正しうして其利を謀らず『道』171、7月1日
其義を正しうして其利を謀らず『廓清』12-6、7月15日
時事漫評『中外商業新報』7月30、31日、8月1～5日
宜改革統治台湾之方針 附論我植民地統治政策[6月25日付『週刊朝日』掲載文の漢訳]『台湾』3-5、8月8日
今後婦人の着手すべき問題『廓清』12-7・8、8月10日②
私は尾崎君と同様政党組織になれば革新俱樂部を去るのみ[談]『国民新聞』8月11日
政治教育に専念 新政党には不参加[談]『東京朝日新聞』8月11日
陸軍縮小失職軍人の対策『現代』3-9、9月1日
陸軍当局の反省を望む『太陽』28-11、9月1日
時弊の薬は『誠』の一字『雄弁』13-9、9月1日
未成年者禁酒法に就いて『廓清』12-9、9月10日②
とんと興味が乗らぬ 革新派との接触[談]『読売新聞』9月10日

- 貧に弱い婦人富に溺るゝ婦人[「『貧』と『富』と婦人」]『週刊朝日』2-12、9月15日
- 台湾近状 天下もと事なし庸人之を乱るのみ『週刊朝日』2-13、9月17日
- 巻頭辞 精神の勝利『現代』3-10、10月1日
- 理想的教育家[文責在記者]『斯文』4-5<孔夫子追遠紀念号>、10月1日
- *国論を喚起せよ 武器密売は重大事件[談]『大阪朝日新聞』10月3日
- 台湾近状 天下本無事庸人自擾之『台湾』3-7、10月6日[9月17日付『週刊朝日』掲載文の漢訳]
- 軍備縮小と教育の根本的刷新『廓清』12-10、10月10日
- 戦後の教育事業 軍備を縮小して無月謝の中学を全国に普く設立せよ[「学制頒布五十年記念 教育充実宣言号」]『週刊朝日』2-19、10月29日
- 台湾の政治について『台湾』3-8、11月4日
- 武器問題未解決 世論は何故屏息せるか[談]『東京朝日新聞』11月8、9日
- 淀橋町会の奇怪なる議決『廓清』12-11、11月10日
- 当代への遺訓『実生活』75、12月1日
- 四海を以て家とせよ一移住同化の植民政策一『植民』1-2、12月1日
- 台湾之政治[漢文]『台湾』3-9、12月1日
- 内地を清めて外患を排すべし『廓清』12-12、12月10日
- 軍隊の信用地に墜つ[談]『東京朝日新聞[夕刊]』12月19日
- 水力国有の議『東京朝日新聞』12月23日

1923(大正 12)年

- 山東省還付問題私観『亜細亜公論』2-1、1月1日
- 貧富無差別の快樂[「第一付録 現代名士修養実話」]『現代』4-1、1月1日
- 責任観念の欠乏は百弊の基[「年は改まれり 何を改むべきか」]『国民新聞』1月1日
- *移殖民思想の改革『植民』2-1、1月1日
- 世界の平和的傾向 軍備の縮小は時代の要求[談]『都新聞』1月4日
- 学制の発布と女奴の解放『廓清』13-1、1月10日
- 実験上から観た禁酒『禁酒之日本』40、41、43、45、1月15日、2月15日、4月15日、6月15日
- 地租移譲は果して真面目か[談]『読売新聞』1月16日[『新聞集成大正編年史大正十二年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1984年)収録]
- 断行あるのみ[談、「普選即行の叫び 聴け此挙国の声を」]『東京朝日新聞』1月21日
- 責任観念欠如の禍害 銀行局長顕在なりや『廓清』13-2、2月10日
- 禁酒は世界的問題也『ときのこゑ』652、2月11日
- [「生命保険会社の宮原六之助君」中の宮原六之助宛島田三郎書簡]『禁酒之日本』41、2月15日

学制頒布五十年記念会を顧みて『現代』4・3、3月1日

理想選挙に関して[尾崎行雄、田川大吉郎と連名]『東京朝日新聞』5月1日

真面目、克己心[「予が部下に与へた処世の訓へ」]『現代』4・6、6月1日

孔夫子の政治観[1922年10月16日斯文会講演於明治会館]『斯文』5・4、8月1日

1936(昭和11)年

[「先覚者に聴く一智と仁と勇と」]『ときのこと』, 957、2月11日

4. 帝国議会衆議院本会議演説

* 編者による表題と『全集』第1巻収録表題とが異なるものについては、[]中に『全集』第1巻収録表題を示した。

* 『官報号外 衆議院議事速記録』は、『官報号外』と略記した。

第1通常議会(1890年11月29日～1891年3月7日)

衆議院副議長決選投票辞退の発言(『衆議院議事速記録号外』1890年11月25日)p.7、11、13[p.7のみ①副議長の投票を辞す]

衆議院副議長決選投票に関する発言(『衆議院議事速記録号外』1890年11月25日)p.11

成立規則第7条に議決に関して(『衆議院議事速記録号外』1890年11月25日)p.13

奉答案起草について発言(『衆議院議事速記録号外』1890年11月29日)p.3

衆議院規則起草案について趣旨説明(『衆議院議事速記録号外』1890年12月1日)p.7

司法大臣の通牒に対し委員を選挙する動議の提出理由の説明および答弁、12月9日(『官報第2236号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』6、12月10日)p.68-69、75

商法施行延期説に関して討論終結の発言、12月16日(『官報第2242号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』11、12月17日)p.124

予算委員会長の報告に対する質問、12月20日(『官報号外 衆議院第1回通常会議事速記録』15、12月21日)p.183-184

予算委員の報告について発言、12月20日(『官報第2247号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』16、12月23日)p.185、188-189

版權法案に関する発言、12月23日(『官報第2250号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』19、12月26日)p.236、238、239

予算会議の順序についての全院委員会開催の挨拶および議事進行、1月8日(『官報第2256号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』21、1月9日)p.280

予算委員の査定案を廃棄する動議への反対意見、1月13日(『官報第2260号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』25、1月14日、『官報第2261号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』26、1月15日)p.362-364

予算案文部省部特別委員の報告案について発言、2月19日(『官報第2290号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』48、2月20日)p.772-773

度量衡法・戸籍法・刑法改正案特別委員選挙に関する発言、2月23日(『官報第2293号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』51、2月24日)p.818-819

予算特別委員の報告への反対演説、3月2日(『官報第2299号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』57、3月3日)p.924-925

特別地価修正案への反対演説、3月4日(『官報第2301号付録 衆議院第1回通常会議事速記録』59、3月5日)p.971-972

第2 通常議会(1891年11月26日～12月25日)

予算案議事日程変更の緊急動議の提出説明および答弁、12月18日(『官報号外』17、1891年12月19日)p.263-264

予算案(海軍省所管経常部)否決理由の説明演説、12月22日(『官報号外』20、1891年12月23日)p.332-333[①樺山海軍大臣の演説に対して]

私設鉄道買収法案に関して内閣諸大臣の出席要求、12月23日(『官報号外』21、1891年12月24日)p.338-339

予算案(文部省所管経常部)への修正案提出理由の説明、12月23日(『官報号外』21、1891年12月24日)p.354

予算案(農商務省所管経常部)中の官林払下に関して発言、12月24日(『官報号外』22、1891年12月25日)p.378

第3 特別議会(1892年5月6日～6月14日)

選挙干渉に関する上奏案の提出理由説明、5月12日(『官報号外』5、1892年5月13日)p.47-56[①選挙干渉に関する上奏案、「選挙干渉に関する上奏案に就て」と題して、水口俊雄編『名文と雄弁』(河合文港堂、1909年5月10日)収録]

停会に関する質問書提出の理由説明、5月24日(『官報号外』9、1892年5月25日)p.163-165

明治25年度予算追加案歳出臨時部陸軍省所管の討論終結について発言、5月28日(『官報号外』13、1892年5月29日)p.280

議事日程変更に関する質疑、6月2日(『官報号外』17、1892年6月3日)p.358-359

府県制第27条修正法律案の提出理由の説明、6月4日(『官報号外』19、1892年6月5日)p.411-412

府県制第27条修正法律案の提出理由の説明および質問への答弁、6月7日(『官報号外』21、1892年6月8日)p.491-492

民法商法施行延期法律案への反対演説、6月10日(『官報号外』24、1892年6月11日)p.569-573

第4 通常議会(1892年11月29日～1893年2月28日)

内閣諸大臣の出席要求、12月5日(『官報号外』4、1892年12月6日)p.37

議事日程変更の動議への賛成意見、12月7日(『官報号外』6、1892年12月8日)p.90

政府の覆謀に対する緊急動議提出の説明、12月8日(『官報号外』7、1892年12月9日)p.109-110

外国工芸視察員派遣建議案提出理由の説明および質問への答弁、12月22日(『官報号外』19、1892年12月23日)p.453-458

河野広中提出動議への賛成意見、1月16日(『官報号外』28、1893年1月17日)p.713-714

河野広中提出動議に関する質疑、1月17日(『官報号外』29、1893年1月18日)p.729-730

緊急動議(政府の意向を確むるための特別委員選挙の決議)提出の趣意説明、2月13日(『官報号外』33、1893年2月14日)p.776-777

政府の意向を確むるための特別委員の権限について答弁、2月13日(『官報号外』33、1893年2月14日)p.782-784

鉄道比較線路決定に関する法律案の議決延期の緊急動議提出説明、2月21日(『官報号外』40、1893年2月22日)p.923-926

鉄道敷設法中改正法律案に関する発言、2月21日(『官報号外』40、1893年2月22日)p.928

鉄道敷設法中改正法律案の第二読会開催の旨趣説明、2月22日(『官報号外』41、1893年2月23日)p.956

鉄道敷設法中改正法律案の修正案提出説明、2月22日(『官報号外』41、1893年2月23日)p.957-959

大日本私立衛生会設立伝染病研究所補助費に付き建議案への賛成演説および質問に対する答弁、2月23日(『官報号外』42、1893年2月24日)p.978-981、983

第6特別議会(1894年5月15日～6月2日)

解散に関する上奏案修正案への賛成意見および質問に対する答弁、5月18日(『官報号外』3、1894年5月19日)p.67-70[①解散に関する決議案]

第7臨時議会(1894年10月18～21日)

副議長としての挨拶および全院委員長の選挙に関する議事進行、10月19日(『官報号外』1、1894年11月9日)p.1

第12特別議会(1898年5月19日～6月10日)

上奏案賛成演説、5月30日(『官報号外』8、1898年5月31日)p.119-122[①上奏案]

衆議院議員選挙法改正法律案に対する修正案の提案説明、6月3日(『官報号外』12、1898年6月4日)p.210-211、217-218、223-224

第13通常議会(1898年12月3日～1899年3月9日)

明治32年度予算案甲号歳出経常部陸軍省所管について改正意見、12月24日(『官報号外』14、1898年12月25日)p.153-158[①予算案、「予算案中軍事費に就て」と題して高松豊次郎編『最新政談大家演説集』(魁真楼、1899年3月)収録]

医師会法案への反対意見、1月21日(『官報号外』19、1899年1月22日)p.241-243

営業税法中改正法律案委員会出席のため退席許可の請求、1月25日(『官報号外』21、1899年1月26日)p.258

営業税法中改正法律案委員会出席のため退席許可の請求、1月31日(『官報号外』22、1899年2月1日)p.279

営業税法中改正法律案委員会報告、2月6日(『官報号外』24、1899年2月7日)p.313-314

日本銀行納付金に関する法律案への反対演説、2月8日(『官報号外』25、1899年2月9日)p.328-329

議事日程変更動議について質疑、2月9日(『官報号外』26、1899年2月10日)p.361

醬油税則中改正法律案への反対演説、2月9日(『官報号外』26、1899年2月10日)p.363-365

関稅定率法中改正法律案への賛成演説、2月10日(『官報号外』27、1899年2月11日)p.383-384

日本銀行納付金に関する法律案の採決方法について発言、2月17日(『官報号外』30、1899年2月18

日)p.428

明治三二年度歳入歳出予算追加案に関する質問及び反対演説、2月21日(『官報号外』33、1899年2月22日)p.468-469

営業税法中改正法律案の委員会報告、3月3日(『官報号外』41、1899年3月4日)p.642-644

監獄教誨師に関する建議案について質疑、3月4日(『官報号外』42、1899年3月5日)p.663-666

議院法中改正法律案の委員会少数意見への賛成演説、3月6日(『官報号外』43、1899年3月7日)p.686-687

予算外国庫の負担となるべき契約をなすを要する件について質問、3月7日(『官報号外』44、1899年3月8日)p.708-710、712

第14 通常議会(1899年11月22日～1900年2月23日)

尾崎行雄君言辞を取消しむる緊急動議に関する質疑、12月15日(『官報号外』9、1899年12月16日)p.143-146[①尾崎行雄君の言辞を取消しむる動議に付て]

高等商業学校設置建議案に関する質問、1月18日(『官報号外』12、1900年1月19日)p.215

学制改革調査会設置に関する建議案への賛成演説、1月26日(『官報号外』14、1900年1月27日)p.257-260

衆議院議員選挙法改正法律案の理由説明及び質疑、1月29日(『官報号外』15、1900年1月30日)p.275、278-279

議員洗職に関する法律案への賛成意見、2月8日(『官報号外』22、1900年2月9日)p.426-428

地方自治に関する質問主意書の説明演説、2月15日(『官報号外』27、1900年2月16日)p.547-549

動議撤回について発言、2月17日(『官報号外』29、1900年2月18日)p.579

提出議案撤回について発言、2月17日(『官報号外』29、1900年2月18日)p.606

衆議院議員選挙法改正法律案への賛成意見、2月23日(『官報号外』34、1900年2月24日)p.708-709

第15 通常議会(1900年12月25日～1901年3月24日)

明治34年度予算案への反対意見、2月7日(『官報号外』6、1901年2月8日)p.49-50

足尾銅山鉍毒の件に関する質問、3月14日(『官報号外』12、1901年3月15日)p.144-159[①足尾鉍毒に関する質問]

国務大臣のの職責に関する決議案への賛成演説、3月19日(『官報号外』15、1901年3月20日)p.246-249[①決議案3月20日]

地方行政の紊乱に関する質問、3月20日(『官報号外』16、1901年3月21日)p.263-271

第16 通常議会(1901年12月10日～1902年3月9日)

菅原善右衛門君の演説に対する弁明、12月19日(『官報号外』4、1901年12月20日)p.26

予算案撤回に関する質問、12月26日(『官報号外』5、1901年12月27日)p.54、55

清国事件償金特別会計法案撤回の質問、12月26日(『官報号外』5、1901年12月27日)p.55

明治 35 年度予算案への質問、12 月 28 日(『官報号外』 6、1901 年 12 月 29 日)p.95、96、100
市町村会議員及市参事会員に関する法律案への質問、2 月 1 日(『官報号外』 11、1902 年 2 月 2 日)p.188
関税定率法付属輸入税法中改正法律案に関する質問、2 月 8 日(『官報号外』 13、1902 年 2 月 9 日)p.236、
238-239
予算追加案における足尾鉍毒調査への質問および賛成演説、2 月 20 日(『官報号外』 17、1902 年 2 月 21
日)p.318、320-325
明治二十三年度法律第七十三号改正案への賛成演説、2 月 27 日(『官報号外』 21、1902 年 2 月 28 日)p.460
骨牌税法案への反対演説、3 月 3 日(『官報号外』 23、1902 年 3 月 4 日 p.493-494[①骨牌税法案]
会計検査院に関する質問、3 月 4 日(『官報号外』 24、1902 年 3 月 5 日) p.503-505
予定鉄道線路中私設鉄道会社に敷設許可法律案への反対演説、3 月 4 日(『官報号外』 24、1902 年 3 月 5
日)p.512-513

第 18 特別議会(1903 年 5 月 12 日～6 月 4 日)

足尾銅山鉍毒に関する質問、5 月 28 日(『官報号外』 6、1903 年 5 月 29 日)p.65-69
予算委員会の報告への反対演説、5 月 30 日(『官報号外』 8、1903 年 5 月 31 日)p.112-114[①予算案]
水利組合条例中改正法律案への反対発言、5 月 31 日(『官報号外』 9、1903 年 6 月 1 日)p.140-141、143
高野孟矩資格審査についての発言、6 月 4 日(『官報号外』 11、1903 年 6 月 5 日)p.237-238

第 21 通常議会(1904 年 11 月 30 日～1905 年 2 月 27 日)

議案審査を付託する委員の選挙方法変更発議に対する反対意見、12 月 3 日(『官報号外』 3、1904 年 12
月 4 日)p.13-14
非常特別税法中改正法律案の提出理由の説明、12 月 17 日(『官報号外』 5、1904 年 12 月 18 日)p.64-69[①
非常特別税法中改正法律案]
商業会議所法改正法律案委員長報告への質問、12 月 20 日(『官報号外』 6、1904 年 12 月 21 日)p.89-90
明治 37・38 年度歳入歳出総予算追加案等について質問、12 月 24 日(『官報号外』 7、1904 年 12 月 25
日)p.109-112
戦時補助船舶奨励に関する法律案への反対意見、2 月 25 日(『官報号外』 21、1905 年 2 月 26 日)p.350-352
郡制廃止法律案議事延期について質問、2 月 25 日(『官報号外』 21、1905 年 2 月 26 日)p.354-355

第 22 通常議会(1905 年 12 月 28 日～1906 年 3 月 27 日)

国債整理基金特別会計法案への反対意見、2 月 8 日(『官報号外』 5、1906 年 2 月 9 日)p.43-46
非常特別税法中改正法律案への反対意見、2 月 8 日(『官報号外』 5、1906 年 2 月 9 日)p.50-53
明治三十九年度予算案への反対意見、2 月 10 日(『官報号外』 6、1906 年 2 月 11 日)p.72-74
警視庁廃止に関する建議案への賛成意見、2 月 22 日(『官報号外』 8、1906 年 2 月 23 日)p.118-122

輸出羽二重精錬業法案について質問、3月12日(『官報号外』14、1906年3月11日)p.255

鉄道国有法案への反対意見、3月16日(『官報号外』16、1906年3月17日)p.303-309[①鉄道国有法案]

癩予防法案の委員会報告、3月26日(『官報号外』22、1906年3月27日)p.429

第23 通常議会(1906年12月28日～1907年3月27日)

予算案に関する発言、2月12日(『官報号外』6、1907年2月13日)p.40、46

郡制廃止法律案への反対意見、3月2日(『官報号外』12、1907年3月3日)p.152-153

衆議院議員選挙法中改正法律案委員長報告への質問、3月9日(『官報号外』12、1907年3月10日)p.188-190

衆議院議員選挙法中改正法律案の提出理由の説明、3月9日(『官報号外』12、1907年3月10日)p.191-192

郡役所廃止に関する建議案提出理由の説明、3月12日(『官報号外』14、1907年3月13日)p.211

塩専売法廃止法律案賛成意見、3月19日(『官報号外』18、1907年3月20日)p.285-287[①塩専売法廃止法律案]

谷中村枉法破壊に関する質問、3月21日(『官報号外』19、1907年3月22日)p.301-306

退席許可の要求、3月21日(『官報号外』19、1907年3月22日)p.313

米国ゼームスタウン博覧会に関する建議案の委員会報告、3月23日(『官報号外』20、1907年3月24日)p.327

第24 通常議会(1907年12月28日～1908年3月26日)

予算案配付について督促、12月28日(『官報号外』1、1907年12月28日)p.1-2

決議案提出の理由説明 1月23日(『官報号外』3、1908年1月24日)p.29-33

明治41年度予算案への反対意見、2月13日(『官報号外』8、1908年2月14日)p.115-120

非常特別税法中改正法律案の提出理由の説明、2月15日(『官報号外』9、1908年2月16日)p.145-147

政府議案撤回について質問、3月10日(『官報号外』13、1908年3月11日)p.245-246

鉄道買収に関する法律案への賛成意見、3月10日(『官報号外』13、1908年3月11日)p.250-253,255

監獄法案について発言、3月12日(『官報号外』14、1908年3月13日)p.275

非常特別税法中改正法律案の委員会少数意見、3月12日(『官報号外』14、1908年3月13日)p.277-285

議場整理に関する発言、3月17日(『官報号外』16、1908年3月18日)p.343

東洋拓殖株式会社法案について反対意見、3月24日(『官報号外』18、1908年3月25日)p.378

第25 通常議会(1908年12月25日～1909年3月24日)

議事運営について発言 1月21日(『官報号外』3、1909年1月22日)p.17

造船奨励法中改正法律案について質問、2月2日(『官報号外』5、1909年2月3日)p.48

遠洋航海補助法案、2月2日(『官報号外』5、1909年2月3日)p.50-51

非常特別税法中改正法律案の趣意説明、2月6日(『官報号外』6、1909年2月7日)p.73-75
明治42年度予算案への修正意見、2月13日(『官報号外』7、1909年2月14日)p.94-98、105、108、110
日露戦役個人救済に関する建議案の提出趣意説明、2月25日(『官報号外』12、1909年2月26日)p.225-226
議事日程変更の緊急動議提出、3月4日(『官報号外』15、1909年3月5日)p.291-294
国民の権利及議会の体面に関する質問、3月6日(『官報号外』16、1909年3月7日)p.309-312[①]
非常特別税法中改正法律案に関する委員会の少数意見報告、3月9日(『官報号外』17、1909年3月10日)p.345-356
議事運営について発言、3月9日(『官報号外』17、1909年3月10日)p.366

第26 通常議会(1909年12月24日～1910年3月23日)

政府提出所得税法案の撤回について質問、2月10日(『官報号外』8、1910年2月10日)p.127-128
明治43年度歳入歳出総予算案の修正意見、2月12日(『官報号外』9、1910年2月13日)p.158-165
塩専売廃止法律案提出の趣旨説明、2月12日(『官報号外』9、1910年2月13日)p.170-175

第27 通常議会(1910年12月23日～1911年3月22日)

明治44年度予算案への賛成意見、2月14日(『官報号外』11、1911年2月15日)p.159-161
織物消費税法廃止法律案・通行税法廃止法律案・塩専売法廃止法律案について演説、2月18日(『官報号外』13、1911年2月19日)p.206-212
日米新条約に関し移民渡航禁止を声明した政府を国権国利を毀損するものとする決議案の提出の趣意説明、3月21日(『官報号外』26、1911年3月22日)p.597-600

第30 通常議会(1912年12月27日～1913年3月26日)

施政の方針並に文部大臣の措置に関する質問、2月27日(『官報号外』5、1913年2月28日)p.21-22

第31 通常議会(1913年12月26日～1914年3月25日)

海軍シーメンス事件について質問、1月29日(『官報号外』5、1914年1月30日)p.49、53-54、61-62[①海軍シーメンス事件に関する質問]
海軍シーメンス事件に関する内閣弾劾決議案への賛成意見、2月10日(『官報号外』9、1914年2月11日)p.113-116[①決議案]
海軍シーメンス事件に関する発言、2月17日(『官報号外』13、1914年2月18日)p.254[①海軍シーメンス事件に関して]
海軍シーメンス事件に関する質問、2月21日(『官報号外』14、1914年2月22日)p.260-261[①海軍シーメンス事件に関して]
自治権蹂躪に関する質問、3月13日(『官報号外』23、1914年3月14日)p.515-519

第 33 臨時議会(1914 年 6 月 22～28 日)

大正三年度歳入歳出総予算追加案への賛成意見、6 月 26 日(『官報号外』3、1914 年 6 月 27 日)p.31-32[①
予算追加案]

第 34 臨時議会(1914 年 9 月 4～9 日)

大正三年度歳入歳出総予算追加案への賛成意見、9 月 7 日(『官報号外』4、1914 年 9 月 8 日)p.22-23

第 36 特別議会(1915 年 5 月 20～6 月 9 日)

議場整理に関する議長発言、6 月 9 日(『官報号外』15、1915 年 6 月 10 日)p.297-298、299

第 39 特別議会(1917 年 6 月 23 日～7 月 14 日)

寺内・加藤・本野三大臣への質問、6 月 26 日(『官報号外』3、1917 年 6 月 27 日)p.15-19

内閣不信任決議案への意見陳述、6 月 30 日(『官報号外』5、1917 年 7 月 1 日)p.74-79

第 42 通常議会(1919 年 12 月 26 日 1920 年 2 月 26 日)

衆議院議院選挙法中改正法律案の概略説明、2 月 14 日(『官報号外』13、1920 年 2 月 15 日)p.224-229[①
衆議院議員選挙法中改正法律案]

第 43 特別議会(1920 年 7 月 1 日～28 日)

国務大臣の演説に対する質問、7 月 3 日(『官報号外』3、1920 年 7 月 4 日)p.12-22

国務大臣の演説に対する質問事項に関する質問の答弁、7 月 5 日(『官報号外』4、1920 年 7 月 6 日)p.28

国務大臣の演説に対する質問事項に対して調査委員会設置の動議について賛成意見、7 月 5 日(『官報号外』
4、1920 年 7 月 6 日)p.30-32

国務大臣の洗職嫌疑に関する質問、7 月 26 日(『官報号外』18、1920 年 7 月 27 日)p.372-375、377

決議案(島田三郎君引責処決の件)について意見陳述、7 月 27 日(『官報号外』19、1920 年 7 月 28
日)p.399-400、402

第 45 通常議会(1921 年 12 月 26 日～1922 年 3 月 25 日)

衆議院議員選挙法中改正法律案について説明、2 月 25 日(『官報号外』18、1922 年 2 月 26 日)p.354-358[①
衆議院議員選挙法中改正法律案]